

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

松阪市

松阪市

第16号様式

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

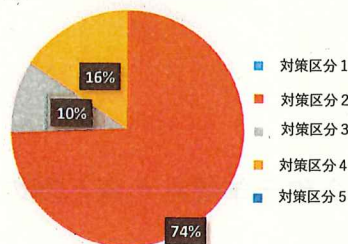
1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による 対策区分別事業費割合

市町名	松阪市	三重県
人口（人）	160,219	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	12.6%	12.4%
森林面積(ha)	42,802.00	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	41,341.14	348,833.49
森林率(%)	69.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	11.5	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）						内当年度交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	2	里山の森林安全安心対策事業	21,780,000	21,718,280		21,718,280				21,718,280
2	3	森林環境学習事業	2,898,720	2,898,720			2,898,720			2,898,720
3	4	都市公園整備事業	4,618,900	4,600,000				4,600,000		4,600,000
計			29,297,620	29,217,000	0	21,718,280	2,898,720	4,600,000	0	29,217,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	4.00(ha)	8,020,080	8,000,000	面積調査等、伐倒・搬出450本
森林再生力強化対策事業	10,392(m)	7,879,569	7,879,569	獣害防止施設等整備(植栽タイプ)

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	松阪市ではみえ森と緑の県民税市町交付金の活用主旨に則り「災害につよい森林づくり」を目指しつつ川上から川下まで普く当該交付金を有効に活用すべく3つの事業を実施した。 1. 里山の森林安全安心対策事業…民家裏、重要施設付近、幹線道路沿線等において懸案となっている支障木を伐採し、住民の安全安心を確保する目的で実施。 2. 森林環境整備事業…将来の森林の担い手を育成することを目的に、管内小学校を対象に森林環境教育を実施。 3. 都市公園整備事業…都市公園内に地域産の東屋・ベンチを設置し利用者に木の持つ「温かみ」「やすらげる空間」を提供すると共に木材の利用意義を学ぶ機会に繋げる。
事業実施により得られた効果	里山の森林安全安心対策事業については、自助努力により対応できない箇所について自治会等の地域と連携しながら実施したことにより、物理的な安全安心の確保に加え森林所有者による事業実施後の管理意識の向上に繋がった。森林環境学習については、小学校の従来のカリキュラムである清掃工場においての環境学習に加え当該事業を実施したことにより、飛躍的に森林の公益的機能の理解が定着すると好評を得ている。
情報発信への取組	森林整備・都市公園整備遂行にあたり、地域住民への回覧等による情報伝達時に併せて県民税のPRチラシ配布し積極的な啓発を行っている。森林環境学習については、報道機関へ情報提供を行い、新聞紙上やテレビ放映において、情報を発信した。又、森林環境学習の一環で幼児から小学生向けの森林環境教育用の絵本を作製し、市内全小学校・保育園・幼稚園に配布を行ったため今後、絵本を活用し更なる環境学習の推進に努めたい。

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	松阪市
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	里山の森林安全安心対策事業				
事 業 費	21,780,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			21,718,280		61,720

1. 事業の目的	
集落や公共施設周辺の森林で、森林の持つ公益的機能が発揮されない状態にある森林を対象に、森林所有者や地域の自治会等と連携し、集落の安全と安心を確保することを目的に森林整備を行う。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 該当地域において、関係者と連携して現地調査を行い、森林の境界確認・測量及び間伐等の森林整備を行う。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 松阪市 【補助率等】 補助事業でなく、該当しない。 【箇所数】 森林整備箇所16箇所 【事業量】 森林整備箇所16箇所 【事業実施期間】 令和元年9月～令和2年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 整備によって安全と安心が確保された受益戸数92戸、市道、国県道、公共施設11箇所	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【実施箇所の選定理由】 自主防災組織や自治会長等と協働して、緊急性・公共性の高い箇所から効率的に実施した。 【事業実施により得られた効果】 集落周辺の森林が整備されたことにより、地域住民の生活環境の向上や道路の安全性が確保された。又、地域の自主防災組織や自治会長と連携することにより、地域の里山の在り方を見直す良いきっかけとなり、継続的な取組ができた。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 所有者が主体的に管理を行う。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 人家裏など直接被害を及ぼす範囲を伐採し、さらに山側の間伐を行ったことで、災害に強い森林づくり化が促進され、台風時等のリスクが軽減されたと、自治会や受益者から喜びの声をいただいている。	

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり
------	----------------

市町名	松阪市
-----	-----

事業名	里山の森林安全安心対策事業
-----	---------------

7. 写真

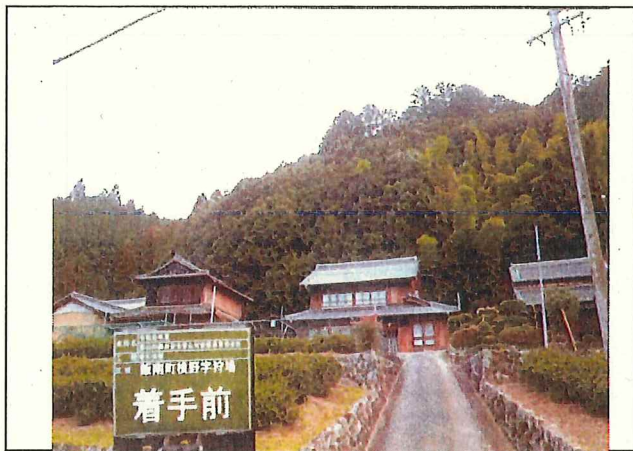


写真1
森林整備(皆伐 着手前)
人家に倒木の恐れがある



写真2
森林整備(皆伐 完成)
倒木の懸念が解消された



写真3
森林整備(支障木伐採 着手前)
人家及び地域の幹線道路に倒木の恐れがある



写真4
森林整備(支障木伐採 完成)
倒木の懸念が解消された



写真5
森林整備(支障木伐採 作業状況)



写真6
森林整備(支障木伐採 作業状況)

対策区分 2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名 松阪市

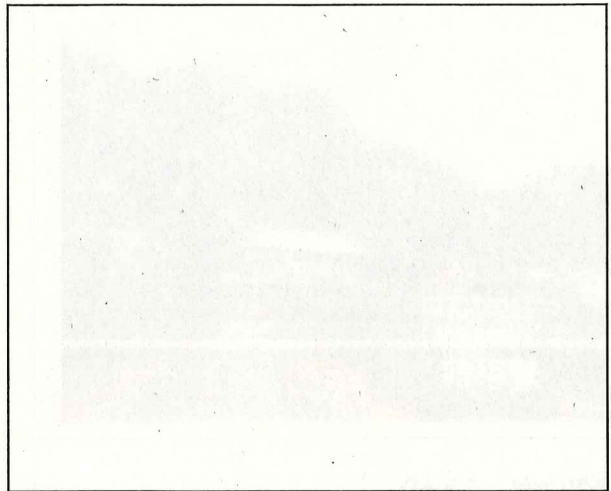
事業名 里山の森林安全安心対策事業

7. 写真



写真7

PR標柱設置状況



みえ森と緑の県民税

～平成31年度以降も新たな制度として継続します～

森林は土砂災害を防止したり、水を貯えるなど、私たちの暮らしに欠かせない大切な財産を持っています。しかし、近年は山村地域の過疎化や高齢化などによって可能な森林が減少しており、薪竹薪炭の需要が増加していることも考え合わせると、山崩れなどの災害が発生する危険性が高まっていると考えられます。

このことから、三重県では「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を育てる社会づくり」を進めるため、平成28年4月1日から「みえ森と緑の県民税」を導入しました。

●みえ森と緑の県民税のしくみ(個人)●

納めの方	1月1日現在で三重県内に住所がある個人、家庭数に基き算定する個人(個人の県民税等納付義務者)
納める金額	月額1,000円
納税の方法	個人の県民税として、個人の市町村税とあわせて、市町村に納税していただきます。
納税の回数	第三者による訂正委員会を設け、事業結果などについて、事後検証などを行うとともに、結果は県民のみなさんに公表します。

Q なぜ、全ての県民が納めるのですか？

A 森林は、木々生育だけではなく、水も貯える。土砂災害防止、山崩れや洪水を防ぐなど、私たちの生活に欠かせない大切な財産を持っています。この森林から生まれた恵みは全ての県民が受けていることから、県民のみなさんに負担をお願いしていただくことにしました。

Q 子どもからお年寄りまで全ての県民が納めるのですか？

A 県民税均等割の超過課税ですので、個人県民税を納める方が対象になります。従って、個人県民税が非課税となる方(所得が新しい年収や所得課税額が一定の金額以下となる方など)には課税されません。

Q どのようなことになれるのですか？

A

●災害に強い森林づくり●

土砂災害防止や水も貯える森林づくり

「みえ森と緑」の取り組みにより、森林の整備が進み、土砂災害防止や水も貯える森林が育ち、山崩れや洪水を防ぐなど、私たちの生活に欠かせない大切な財産を持っています。

●暮らしに身近な森林づくり●

暮らしに身近な森林づくり

「みえ森と緑」の取り組みにより、森林の整備が進み、暮らしに身近な森林が育ち、山崩れや洪水を防ぐなど、私たちの生活に欠かせない大切な財産を持っています。

資料

配布した啓発チラシ

積算資料（実績報告参考資料）

13-7

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金(基本枠、加算枠)事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	松阪市
------	-------------	-----	-----

番号	事業名				
2	森林環境学習事業				
事業費	2,898,720 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,898,720		

1. 事業の目的

市内の小学校の教室等を松阪地域の木材を使用して木質化し、児童を対象に森林の持つ公益的機能や木材の特性についての「木育」を実施し、将来の森林の担い手を育成する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

松阪地域の木材を使用し、小学校の教室等を木質化する。また、児童を対象に森林環境保全や森林整備に纏わる森林環境教育を実施した。

【実施主体(補助事業の場合は補助事業実施主体)】

松阪市

【補助率等】

補助事業でなく、該当しない。

【箇所数】

2箇所(松阪市立伊勢寺小学校、松阪市立大河内小学校)

【事業量】

伊勢寺小学校: 森林環境学習1回実施、2階廊下腰壁の木質化(延べ45m²)

大河内小学校: 森林環境学習1回実施、1階廊下腰壁の木質化(延べ45m²)、教育用冊子(絵本)作成200部

【事業実施期間】

令和元年5月～令和元年9月

【受益者、参加者、利用者数等】

松阪市立伊勢寺小学校: 3年生、4年生(児童数51名)、松阪市立大河内小学校: 4年生(児童数20名)

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

近時、森林環境学習への関心が高まっているなか、要望のあった小学校と森林環境学習の目的等の協議を行う過程で積極的な学校を選定し調整を進めている。

【事業実施により得られた効果】

児童達が、松阪市産材で木質化された教室で学ぶことにより、木材とのふれあいが促進された。また併せて森林環境学習を実施することにより、木材の活用や森林づくりへの理解が深まった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

森林環境学習の目的は、環境側面としての森林、林業の問題、木材利用等を総括的に学ぶことで自分の行動を見直し、森林環境に配慮した行動に繋げていくことであるが、加えて校舎の一部を木質化する事で、一連のアプローチのさらなる意識の定着に繋げるといった目論見がある。木の持つ「温もり」「親しみ」安らぎを身近に感じていただくと共に、当該学習後も学校において継続的に森林環境学習を行っていただくためのモデル展示的な位置づけとし、循環学習のプロセスの構築に努める。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

対象児童にアンケートを実施した結果、「森や環境のことがよくわかった。」「森林が地球の温暖化を防ぐ。」「森林の循環は大切。」「木をたくさん使おう。」等の意見があり、また、多くの児童が「もっとしたいと思った。」と回答している事から、今後も継続的に実施したい。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	松阪市
------	-------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	森林環境学習事業				
事 業 費	2,898,720 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,898,720		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

委託方式とすることで専門的見地から森林環境学習の重要性を認識したうえで、適切な教育を実施することができるため。

【契約方法と落札率または補助率等】

隨意契約

【契約相手方の選定理由】

森林・林業に携わる関係者による組織であり、森林・林業に精通し、又、普段から小学生を対象とした森林に纏わる学習イベントを開催するなど、適切な教育を実施することができるため。

【事業費の積算根拠】

小学校2校の木質化 約130万円、森林環境学習、教育用冊子作成等 約100万円、その他諸経費

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

森林環境教育を実際受けた伊勢寺小学校児童51名、大河内小学校児童20名に加え、その保護者及び学校関係者や木質化により全校生徒にも影響が及んでいる事に加え、森林環境学習用に作製した絵本を市内全ての小学校・保育園・幼稚園等に配布した事により、今後の各々の学校等における森林環境教育の促進につとめた。

【公的関与の必要性】

市内小学校と協働し、当市における環境側面のカリキュラムとの相乗効果をはかりながら、森林環境を推進していく事を鑑みると公的関与の必要性大である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

木質化を行った構造物については、実施した施設にて適正な管理を行うこととしている。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

- ・ＨＰ掲載 ・広報誌掲載 ○新聞掲載 ○テレビ（行政チャンネル）放映
・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所：事業実施箇所）
○その他（方法：学習実施時にのぼりを設置）（場所：環境教育会場）

【情報発信の対象】

普く一般市民にみえ森と緑の県民税市町交付金の活用内容を発信した。

【情報発信の内容】

報道機関への情報提供により、森林環境学習の様子や取組内容を発信することで、この事業の財源が「みえ森と緑の県民税」を活用していることの周知を行った。

7. 写真

別紙のとおり

8 その他特記事項

平成26年度からの継続事業。一期目（平成26年度～30年度）の実績9校。

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	松阪市
-----	-----

事業名	森林環境学習事業
-----	----------

7. 写真



写真1

森林環境学習（バイオマス工場見学）



写真2

森林環境学習（バイオマス工場見学）



写真3

森林環境学習（製材工場見学）

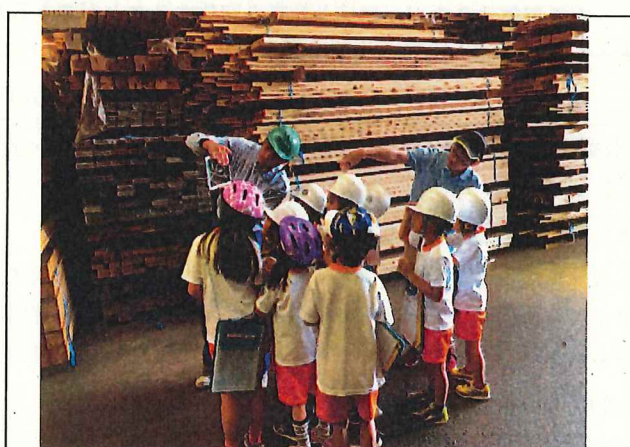


写真4

森林環境学習（製材工場見学）

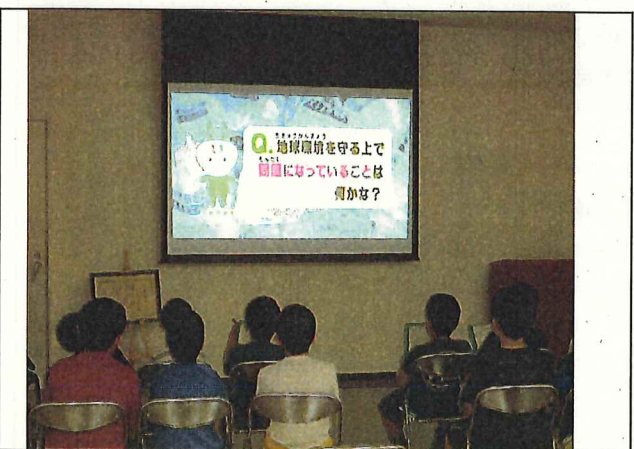


写真5

森林環境学習（クリーンセンター見学）

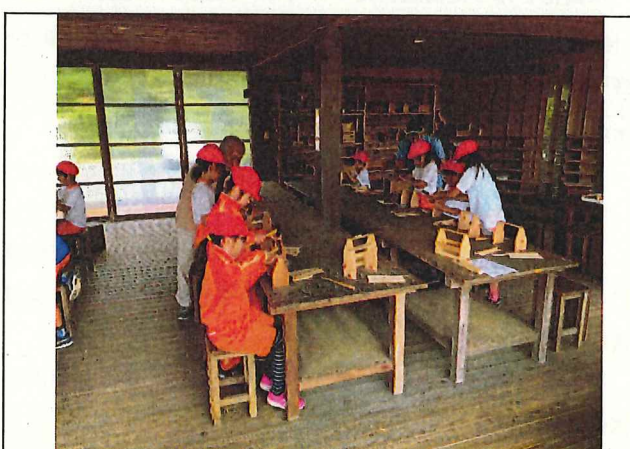


写真6

森林環境学習（木工教室状況）

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	松阪市
-----	-----

事業名	森林環境学習事業
-----	----------

7. 写真



写真7

森林環境学習状況（伊勢寺小学校）



写真8

森林環境学習状況（大河内小学校）



写真9

伊勢寺小学校廊下腰壁木質化（着手前）



写真10

伊勢寺小学校廊下腰壁木質化（完成）



写真11

大河内小学校廊下腰壁木質化（着手前）



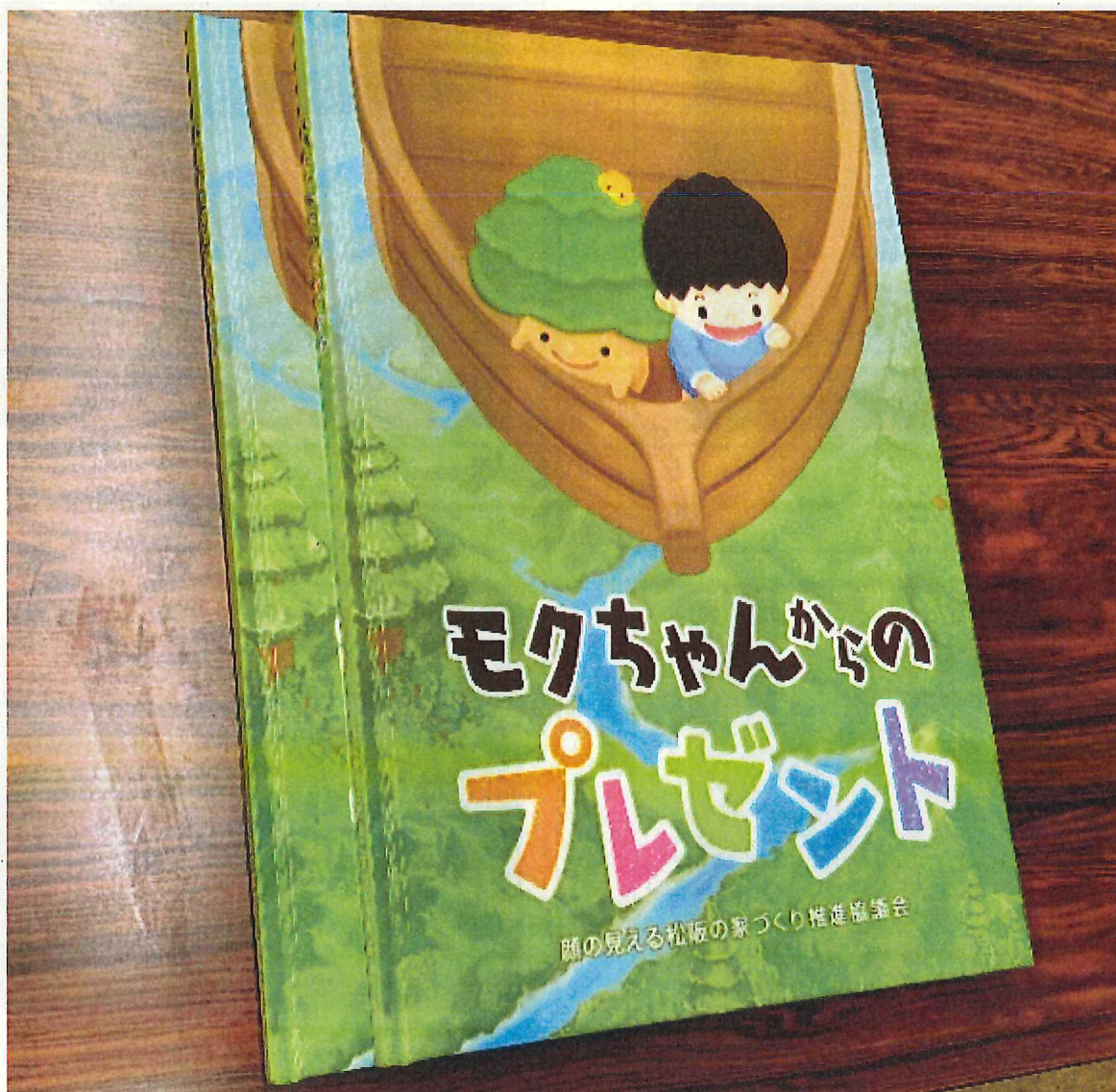
写真12

大河内小学校廊下腰壁木質化（完成）

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	松阪市
-----	-----

事業名	森林環境学習事業
-----	----------



資料	森林環境学習用に製作した絵本
----	----------------

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	松阪市
------	-------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
3	都市公園整備事業				
事 業 費	4,618,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,600,000		18,900

1. 事業の目的	公共空間である公園において、市産材の木材利用を促進し、木材と市民の関係を深める。
2. 事業実績概要	【事業内容】 都市公園内の東屋及びベンチを市産材で木質化する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 松阪市 【補助率等】 補助事業でなく、該当しない。 【箇所数】 3箇所（広陽2号公園、パークタウン1号公園、桜町2号公園） 【事業量】 東屋1棟、ベンチ3基 【事業実施期間】 令和元年12月～令和2年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 パークタウン受益戸数264世帯、桜町受益戸数476世帯
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 利用者の多い箇所から効果的に実施。 【事業実施により得られた効果】 多くの市民に利用される公園において、市産材で東屋やベンチを建築することにより、市民が木材とふれあう機会が増え、木材の活用や森林づくりへの理解が深まった。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 市において、点検の実施など維持管理を行っていく。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 地域住民にとって、東屋やベンチが整備されたことで、憩いの場所が創出され喜ばれている。また木材特有の「温かみ」「親しみ」を感じていただいているという反応が多く、今後も継続的に実施していきたい。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	松阪市
------	-------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
3	都市公園整備事業				
事 業 費	4,618,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,600,000		18,900

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

負請事工

【実施方法の選定理由】

請負とすることで、実施における安全面と専門的な技術の確保が可能となるため、また、競争入札により経費の削減にも繋がる。

【契約方法と落札率または補助率等】

一般競争入札落札率84.33%

【契約相手方の選定理由】

入札条件に適合した参加者により、一般競争入札を行い、落札した業者である。

【事業費の積算根拠】

東屋一棟約360万円、ベンチ3基約100万円

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

パークタウン自治会264世帯、桜町自治会476世帯の利用者が見込まれる。

【公的関与の必要性】

市が管理者である公園の整備であり、公的関与は必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

維持管理は市が主体的に実施する。転用、目的外使用については公共施設整備であるため想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

・HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

○チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

・パネル展示（展示場所： ） ○看板設置（設置場所：事業実施箇所）

・その他（方法：施工時にのぼりを設置）（場所：施工箇所）

【情報発信の対象】

当該公園の利用者である自治会住民にみえ森と緑の県民税市町交付金の活用内容を発信した。

【情報発信の内容】.

看板の設置及びチラシ配布により、森林整備の目的に加え、森林の大切さや公益的機能の説明し、意識の底上げを図った。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

平成26年度からの継続事業。一期目（平成26年度～30年度）の実績19箇所。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	松阪市
-----	-----

事業名	都市公園整備事業
-----	----------

7. 写真



写真1
都市公園整備 東屋
広陽2号公園



写真2
都市公園整備 木製ベンチ
パークタウン2号公園



写真3
都市公園整備 木製ベンチ
桜町2号公園その1



写真4
都市公園整備 木製ベンチ
桜町2号公園その2

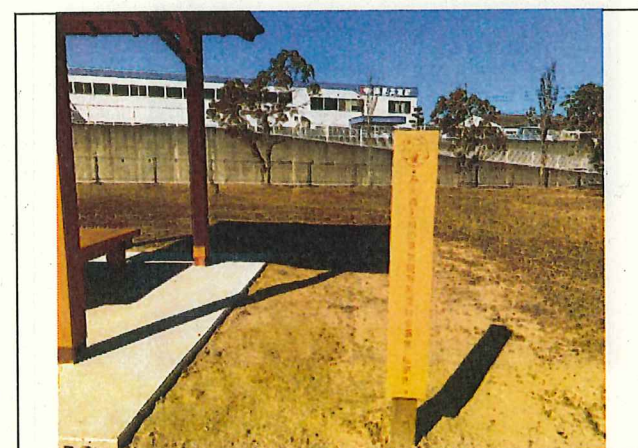


写真5
PR標柱設置状況

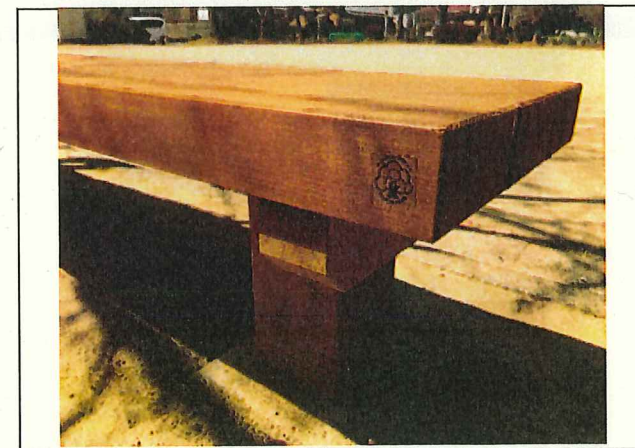


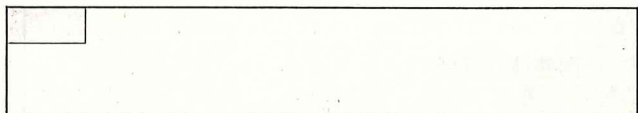
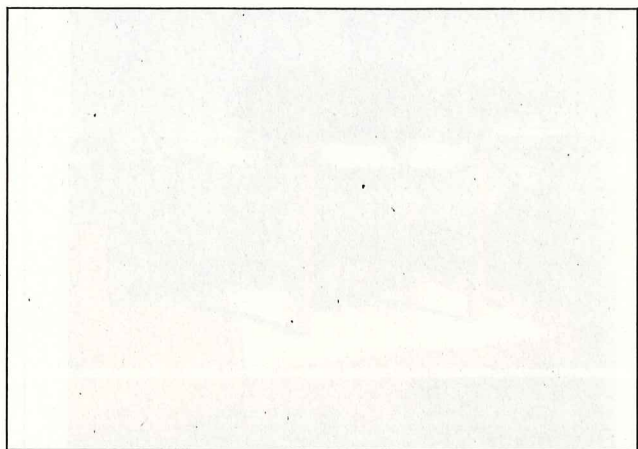
写真6
ロゴマークシール貼付状況

7. 写真



写真7

施工中 啓発のぼり設置状況



みえ森と緑の県民税

～平成31年度以降も新たな制度として継続します～

森林は国土の基盤であり、水を涵養する、私たちが暮らすに欠かせない自然環境を持っています。しかし、森林は山火、病害の被害や荒廃などによって荒れ果てた森林が増え、山の保水力も低下しています。このようなことから、山間部などの荒れ果てた森林を保全・整備し、水源涵養機能を回復させることが必要です。このように、みえ森と緑の県民税は、森林の保全・整備に貢献するものとして、平成30年4月1日から導入されました。

みえ森と緑の県民税のしくみ（個人）

納める人	1月1日現在で三重県内に住所がある個人、事業主等（法人は人の代表者としての納税義務者）
納める金額	年額100万円
納める方法	個人の県民税として、個人の市町税と合わせて、市町に納税していただきます。
納税の趣意	納税による「みえ森と緑の県民税」の活用状況、事業成果などについて、計画書などを市町に提出し、結果は納税のみなさんに公表します。

Q1 なぜ、この税金を納めるのですか？

A 森林は、木材だけでなく、水を涵養する、私たちが暮らすに欠かせない自然環境を持っています。しかし、森林は山火、病害の被害や荒れ果てた森林が増え、山の保水力も低下しています。このようなことから、山間部などの荒れ果てた森林を保全・整備し、水源涵養機能を回復させることが必要です。このように、みえ森と緑の県民税は、森林の保全・整備に貢献するものとして、平成30年4月1日から導入されました。

Q2 子どもと大人で納める金額は異なりますか？

A 県民税は、納税者の所得に応じて、個人課税と法人課税があります。個人課税は、所得に応じて、納税額が異なります。法人課税は、法人の所得に応じて、納税額が異なります。

Q3 この税金を納めた後、どのようなことが行われますか？

A 納税された金額は、森林の保全・整備に活用されます。具体的には、森林の調査・計測、森林の整備・管理、森林の防火・防虫対策、森林の観光・教育利用などに活用されます。

● 2つの主な方向性と5つの目標 ●

1. 国土の保全・整備

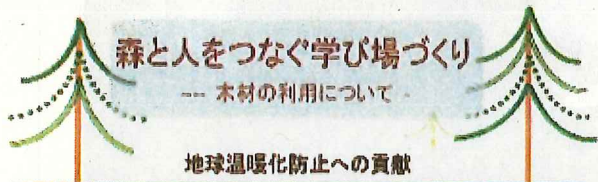
国土の保全・整備に貢献する。具体的には、森林の調査・計測、森林の整備・管理、森林の防火・防虫対策、森林の観光・教育利用などに活用されます。

2. 森林の活用・振興

森林の活用・振興に貢献する。具体的には、森林の調査・計測、森林の整備・管理、森林の防火・防虫対策、森林の観光・教育利用などに活用されます。

資料1

回覧及び配布した啓発チラシ

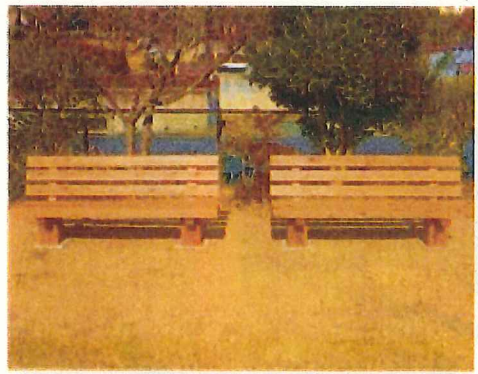


地球温暖化防止への貢献

地球温暖化は、大気中に存在する二酸化炭素などの温室効果ガスの濃度が上昇することが原因だと考えられています。地球温暖化を防ぐためには、大気中への二酸化炭素放出を減らし、大気中から二酸化炭素を取り除く必要があります。

植物には、半永久的に利用可能な炭素からの光エネルギーを利用して、大気中の二酸化炭素を有機物として固定するという重要な働きがあり、特に樹木は幹や根などの形で大量の炭素を蓄えています。

今回の工事では、国産の木材を使用したベンチを設置します。木材を利用することは、木材中の炭素を長期間にわたって貯蔵することにつながり、二酸化炭素の放出を抑えることにつながります。



H5006号公園

資料2

回覧及び配布した啓発チラシ

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(円)	内、譲与税
1	経営管理に対する意向調査	3,850,000	3,850,000
2	面積調査及び間伐	43,715,100	43,715,100
3	翌年度繰越額	2,165,900	2,165,900
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	49,731,000	49,731,000

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

多気町

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

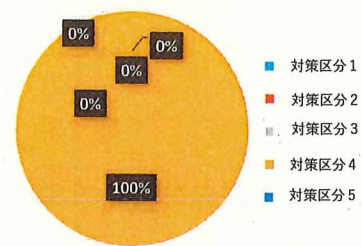
市町名	多気町	三重県
人口（人）	14,345	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	12.8%	12.4%
森林面積(ha)	5,915.33	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	5,915.33	348,833.49
森林率(％)	57.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	23.2	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）						内当年度 交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	4	県産材を活用した木製備品整備事業	7,453,600	7,453,600				7,453,600		7,453,600
2		みえ森と緑の県民税市町交付金積立事業	461,400	0						461,400
計			7,915,000	7,453,600	0	0	0	7,453,600	0	7,915,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	2.00(ha)	821,700	821,700	
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	県産木材を利用した備品を配置することにより、地域資源である木の素晴らしさを再認識できる事業にしていきたい。
事業実施により得られた効果	県産木材を利用した備品を各小中学校、保育園、児童館に配置したことにより、木と緑に対する関心が高まり、地域の森林を身近に感じることができるようになった。
情報発信への取組	多くの地域の方に、木製備品の良さを実感してもらうため広報誌等でアピールした。

＊評価の参考として、別紙「森林環境譲与税事業の実績」を添付すること。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	多気町
------	-------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
3	県産材を活用した木製備品整備事業				
事 業 費	7,453,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,453,600		

1. 事業の目的

木材は柔らかく温かみのある感触を有するとともに、室内の温度変化を緩和させ、快適性を高める等優れた性質を備えている。町内の中学生、小学生、保育園児に県産材の木材について学びふれ合う機会を提供するとともに温かみと潤いのある教育環境づくりを進める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

町内小学校、保育園、児童館へ県産材を活用した木製備品の整備を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

多気町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

11箇所（津田小学校、相可小学校、佐奈小学校、外城田小学校、勢和中学校、勢和小学校、相可保育園、佐奈保育園、外城田保育園、勢和保育園、児童館）

【事業量】

おもむ交換台3台、ままごと小屋1台、園児用ロッカー4台、園児用半円テーブル6台、下駄箱1台、木製作業台23台、木製書架8台

【事業実施期間】

令和元年5月～令和2年3月

【受益者、参加者、利用者数等】

町内小学校5校 827人、町内保育園4園 411人、町内中学校1校 132人 児童館150人

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

町内の施設を対象

【事業実施により得られた効果】

木製備品は、全て部材を県産材の木材を使用しており、木材の温かみを感じてもらうことにより、備品に対する愛着を深め緑や木に関心をもってもらうきっかけになる。木材によるやさしい特質により快適な室内環境を整えることができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

県産材の木材について学びふれあう機会を作り、感受性豊かな子供たちを育てる。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

県産材で作られた備品は手触りがよく、子供たちにはよりよい環境になっている。日常生活に、木製備品に接する機会が増えることにより、緑や木に対する関心が高まったという意見もあった。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	多気町
------	-------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
3	県産材を活用した木製備品整備事業				
事 業 費	7,453,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,453,600		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

町が購入し、各小中学校、保育園、児童館へ配布した。

【実施方法の選定理由】

県産材木製備品を取り扱う事業者を選定。

【契約方法と落札率または補助率等】

一般指名入札（3者）

【契約相手方の選定理由】

金額が適正であったことや、適正な製品を納品した実績があるため。

【事業費の積算根拠】

製品カタログを参考とした。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

各小中学校、保育園、児童館にとって必要な備品を聞き取りをおこない適切に配布した。

【公的関与の必要性】

県産木材を優先的に導入することは、地域の産業の育成、地域の特産を多くの方に享受されるということからも必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

各施設にて適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

・HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ○ポスター掲示（掲示場所：設置場所 ）

・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

多氣町民

【情報発信の内容】

県産材がどのように使用されているかを明記し、木や緑に関心を持ってもらう。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

7. 写真

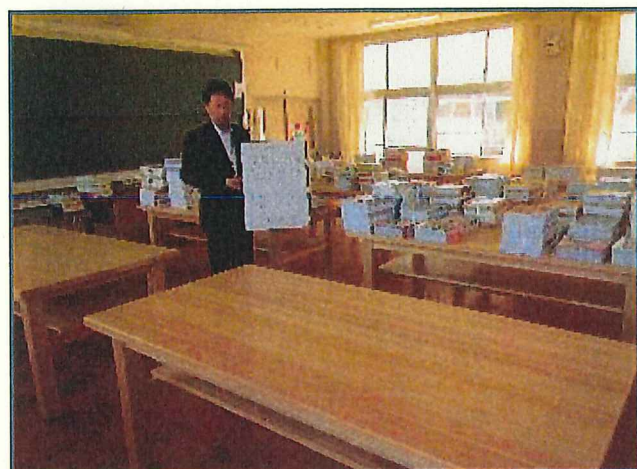


写真1

小学校 作業台



写真2

小学校 書架



写真3

児童館 下駄箱



写真4

保育所 おむつ交換台

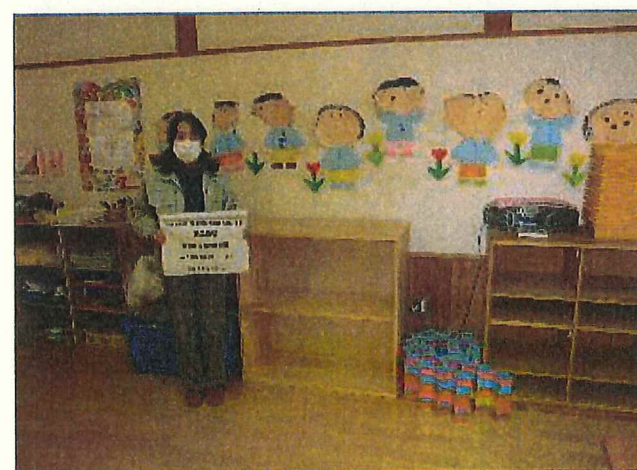


写真5

保育園 園児用ロッカー



写真6

保育園 半円テーブル

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	多気町
-----	-----

事業名	県産材を活用した木製備品整備事業
-----	------------------

7. 写真

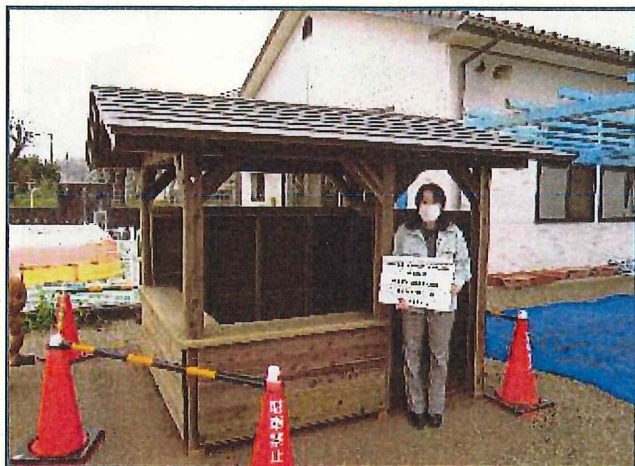


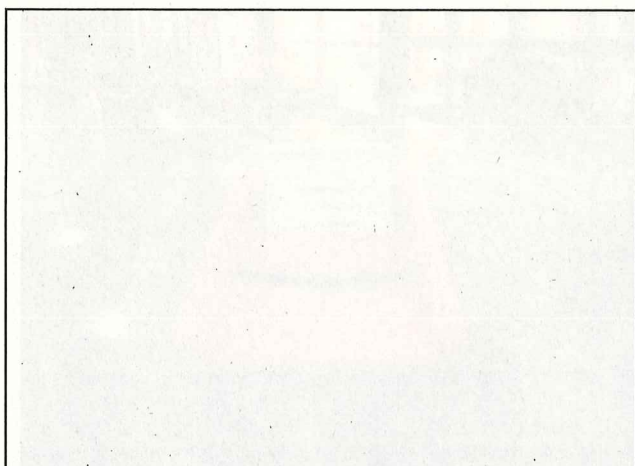
写真7

保育園 ままごと小屋

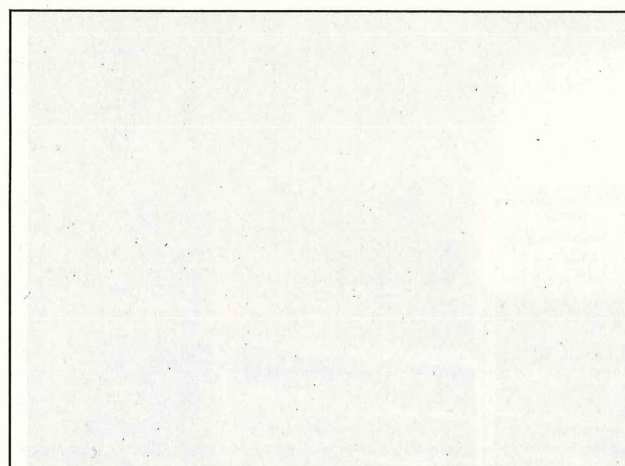


写真8

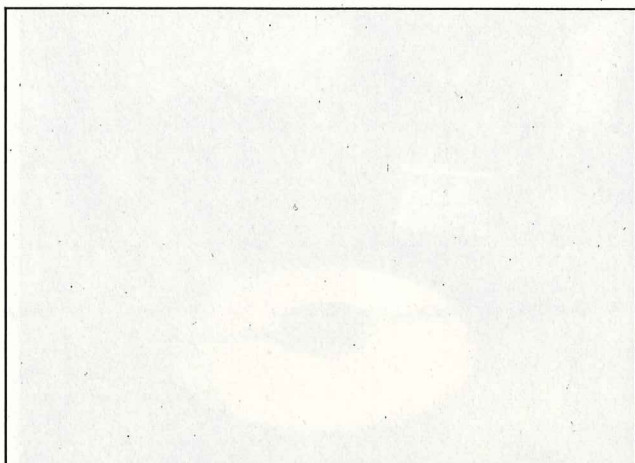
みえ森のロゴマーク



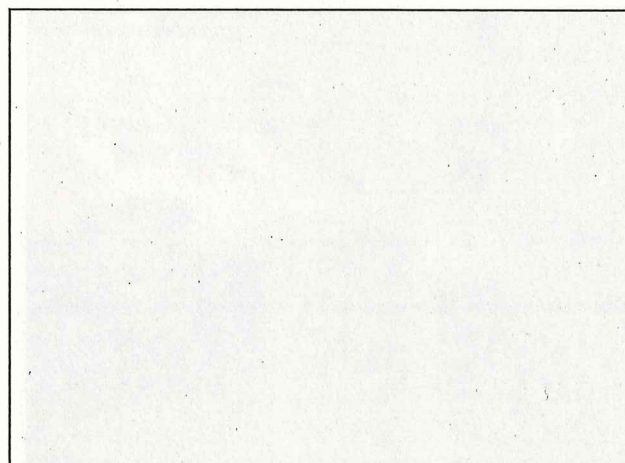
--	--



--	--



--	--



--	--

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	多気町
------	-------------------	-----	-----

事業名	県産材を活用した木製備品整備事業
-----	------------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
県産材を活用した木製備品整備事業				7,453,600	
事業費				7,453,600	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
各保育園・児童館 備品一式	おもつ交換台	台	3.00			
	ままごと小屋	台	1.00			
	園児用ロッカー	台	4.00			
	園児用半円テーブル	台	6.00			
	下駄箱	台	1.00		2,460,700	
各小中学校備品一 式	木製作業台	台	23.00			
	木製書架	台	8.00		4,992,900	
	計				7,453,600	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

多気町

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	⑰ 基金積立（森林整備等）	3,498	3,498
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	3,498	3,498



令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

明和町

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

市町名	明和町	三重県
人口（人）	22,563	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	13.1%	12.4%
森林面積(ha)	310.97	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	310.97	348,833.49
森林率(%)	8.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	13.0	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費(円)	交付金充当額(円)						内当年度交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	4	学校等木製備品購入事業	7,734,100	7,063,000				7,063,000		7,063,000
2	2	松林整備事業	1,371,600	1,000,000		1,000,000				1,000,000
3				0						0
4				0						0
5				0						0
6				0						0
7				0						0
計			9,105,700	8,063,000	0	1,000,000	0	7,063,000	0	8,063,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	1 学校に県産材備品を活用することで、生徒・園児にも森林の大切さを伝えることを提供する。 2 税を活用することで、多くの地域住民に安全・安心な環境を提供する。
事業実施により得られた効果	1. 学校等木製備品購入事業においては、園児、生徒のみならずその父兄にも広く周知することで、税事業の意義を伝えられた。 2. 防風林としての役割を持つ松林の、松くい虫被害拡大を防ぐとともに、枯損木による危険低減させることができた。
情報発信への取組	広報誌や町ホームページ等にて事業の取り組み状況について情報発信を実施。 ホームページの上位に表示されるよう頻繁に更新を行ったり、写真等画像を多くしたり工夫をした。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり			市町名	明和町
------	-------------------	--	--	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	学校等木製備品購入事業				
事 業 費	7,734,100 円	(財源内訳)	当年度交付金 7,063,000	市町基金	その他 671,100

1. 事業の目的

- ・小学校等の机・椅子等備品を、三重県産材木製品で整備することで、森林・林業への理解を深め、森林や緑を大切に思う温かい心を育む。
- ・木ぬくもりを通して身近に森林や緑と触れ合う機会を提供する。

2. 事業実績概要

【事業内容】
森林教育の一環として、小学校や認定こども園の備品（机・椅子等）を県産材木製品にて整備する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】
明和町

【補助率等】
補助事業ではなく該当しない

【箇所数】
町内6小学校、みょうじょうこども園

【事業量】
・町内新入小学生用机・椅子（189組）
・町内認定こども園（みょうじょうこども園）園児用机・椅子（26組）

【事業実施期間】
令和元年11月27日～令和2年3月30日

【受益者、参加者、利用者数等】
町内新入小学生、認定こども園の園児

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】
・町内6小学校の新入生へは、平成26年度から継続して実施しているため。
・こども園児用の机・椅子を県産材備品に取り換えることで、園児にも森林の大切さを伝えることができるため。

【事業実施により得られた効果】
・木材の柔らかく温かい感触の机・椅子を使用することにより、森林や緑を大切にする心が育まれ、地球温暖化問題等への理解を深めることができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】
・木製備品を整備した各小学校、こども園等各施設において継続して活用、管理を実施。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】
保護者、教員等より「木のぬくもりがあり、手触りが良い。」 「木育という、子どもに必要な教育の題材として良い。」という声をいただいている。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	明和町
------	-------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	学校等木製備品購入事業				
事 業 費	7,734,100 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,063,000		671,100

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

明和町で契約（購入契約）している。

【実施方法の選定理由】

県産材木製備品を扱う事業者が限られているため。

【契約方法と落札率または補助率等】

明和町会計規則に基づき、見積徴収（１者）の上、随意契約を実施。

【契約相手方の選定理由】

明和町会計規則の規定による随意契約

【事業費の積算根拠】

見積徴収による積算。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

町内 6 小学校の新入学生、認定こども園の園児等

【公的関与の必要性】

公共施設（学校等）への木質備品整備であるため妥当と考える。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町内小学校等公共施設において使用、管理をするため、目的外使用等転用が想定されず該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ○ポスター掲示（掲示場所：カウンター前 ）

・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

明和町民

【情報発信の内容】

みえ森と緑の県民税市町交付金事業に対する町民の認識度向上のため、ホームページの上位ページに掲載

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

小学校においては6年間に渡り導入済み。継続して他の施設への導入や修繕、代替品購入等の事業を検討。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	明和町
事業名	学校等木製備品購入事業		

7. 写真



写真1

明和町ホームページ掲載状況（1）

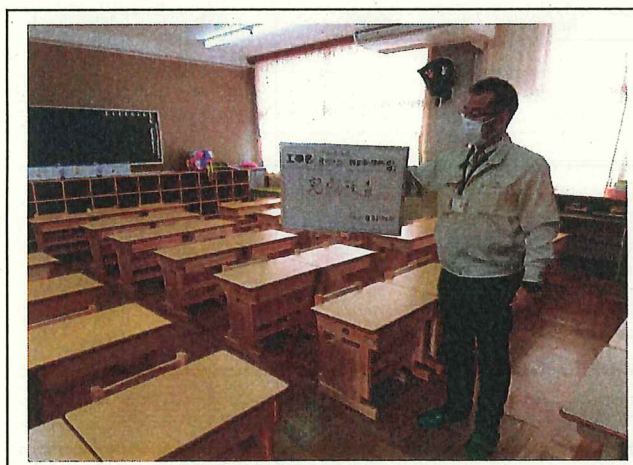


写真3

学校等木製備品購入事業（1）



写真5

学校等木製備品購入事業（3）



写真2

明和町ホームページ掲載状況（2）



写真4

学校等木製備品購入事業（2）



写真6

学校等木製備品購入事業（4）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	明和町
------	-------------------	-----	-----

事業名	学校等木製備品購入事業
-----	-------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備 考
学校等木製備品購入事業	組	189	33,500	6,964,100	税込
	組	26	26,923	770,000	税込
事業費				7,734,100	税込

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	明和町
------	-----------------	--	--	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	松林整備事業				
事 業 費	1,371,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000		371,600

1. 事業の目的

・明和町内の沿岸部（川尻～大淀地内）にかけて広がる山林・防風保安林は近年、病虫害（松くい虫）による松林の立ち枯れが顕在化している。当該地域には毎年多くの観光客が訪れるキャンプ場も含まれている。交付金の活用によりこの地域の松林整備を実施することで、景観保持や安全の確保を図り地域住民や観光客の憩いの場を提供する。

2. 事業実績概要

【事業内容】
当該区域に植生している松林の保全を図る。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】
明和町（森林組合へ業務委託）

【補助率等】
補助事業ではなく該当しない

【箇所数】
明和町大淀 地内（2箇所）
明和町川尻 地内（1箇所）

【事業量】
松林整備 面積：9.7ha（大淀地内2.7ha 川尻地内 7.0ha）

【事業実施期間】
令和元年5月8日～令和元年9月30日

【受益者、参加者、利用者数等】
施設利用者、周辺住民、周辺児童等 5,000人／年

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】
松林の立ち枯れが顕在化している当該地域には、毎年多くの観光客が訪れる。景観保持や安全の確保を図り、近隣住民の安全や観光客の憩いの場を提供するために必要であると判断したため。

【事業実施により得られた効果】
松くい虫被害予防のため、薬剤を散布することにより新たな被害の軽減が図れた。
また、既に枯れてしまった松を伐倒することにより、倒木による危険の低減や、新たな松くい虫被害の低減に繋げることができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】
松くい虫被害については、継続的な防除や伐倒等の整備を実施することで、より安全・安心な松林環境を整備していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】
近隣住民や施設関係者等より、更に松くい虫被害の防除、枯損木の伐倒を進めて欲しいとの声をいただいた。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	明和町
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	松林整備事業				
事 業 費	1,371,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000		371,600

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

業務委託契約にて実施

【実施方法の選定理由】

松林整備には専門的知識や経験、技能が必要であるため。

【契約方法と落札率または補助率等】

明和町会計規則に基づき、見積徴収（２者）の上、随意契約を実施

【契約相手方の選定理由】

明和町会計規則第109条の規定による随意契約

【事業費の積算根拠】

見積徴収による積算

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

施設利用者、周辺住民、周辺児童等 5,000人／年の利用者に受益が見込める。

【公的関与の必要性】

保安林（防風林）である公有林の整備であるため妥当と考える。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

松くい虫被害に対する整備のため、目的外使用等が想定されず該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ○ポスター掲示（掲示場所：カウンター前 ）

・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

明和町民

【情報発信の内容】

みえ森と緑の県民税市町交付金事業に対する町民の認識度向上のため、ホームページの上位ページに掲載

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

今後も継続的な松くい虫被害の防除と枯損木の伐倒等が必要と考える。

対策区分 2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名 明和町

事業名 松林整備

7. 写真

Google カスタム検索

検索履歴 | イベントを探す | 地図から探す | よくある質問

検索ワード: 松林整備

検索結果: 1件

● 平成31年度（令和元年度）みえ森と緑の県民税市町交付金事業について

みえ森と緑の県民税市町交付金事業とは

平成26年4月1日に導入された「みえ森と緑の県民税」では、三重県と県内各市町村が、2つの基本方針（1.県内に豊かな森林づくり 2.県民生活で森林を身近に感じよう）と、これらに関連する5つの分野（1.土砂災害対策 2.森林整備 3.森林利用 4.森林と人をつなぐ 5.森林と地域をつなぐ）に基づき、地域の実情に応じた森林づくりを行う。平成31年度（令和元年度）もこの事業を継続して実施する予定です。

この取り組みに対し、三重県から県内各市町村に交付される交付金を用いた事業が、「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」です。

明和町では、平成26年4月からみえ森と緑の県民税を活用し、町内6小学校の樹入学生を対象に、三重県松林整備事業を活用した木苗・樹子の配布に努めています。平成30年度も町内6小学校の樹入学生を対象に、19校の木苗・樹子を配布しました。平成31年度（令和元年度）もこの事業を継続して実施する予定です。

また、毎年町においても大きな被害がある、松くい虫による樹幹断面積は、昭和でも発生しており、今年度は、これ以上被害が拡大することを予防するために、薬剤を散布する事業と、風にかけてしまった松を伐倒する事業で、県民税を活用して実施しました。

● みえ森と緑の県民税市町交付金事業（松くい虫対策）（WORD:1.3MB）

● みえ森と緑の県民税市町交付金事業（松くい虫対策）（WORD:2.1MB）

● みえ森と緑の県民税市町交付金事業（松くい虫対策）（PDF:1.3MB）

● みえ森と緑の県民税市町交付金事業（松くい虫対策）（PDF:2.1MB）

● みえ森と緑の県民税市町交付金事業（松くい虫対策）（PDF:1.3MB）

● みえ森と緑の県民税市町交付金事業（松くい虫対策）（PDF:2.1MB）

みえ森と緑の県民税を活用した明和町の取組紹介②

明和町では、平成26年4月から三重県が導入した「みえ森と緑の県民税」を活用し、平成31年度（令和元年度）から町内の松林整備事業を行っています。元来松に、松くい虫が付きやすいように薬剤を散布する事業と、風にかけてしまった松を伐倒する事業に県民税を活用しました。

松林整備事業 松くい虫対策



松林整備事業 風倒木対策



写真1

明和町ホームページ掲載状況（1）

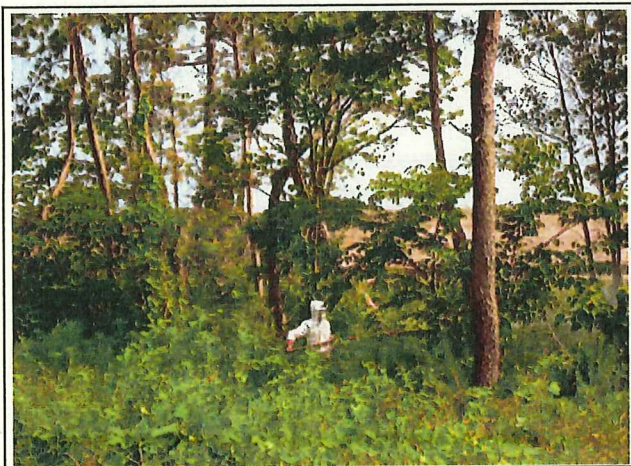


写真3

松林整備事業作業風景（1）

写真2

明和町ホームページ掲載状況（2）

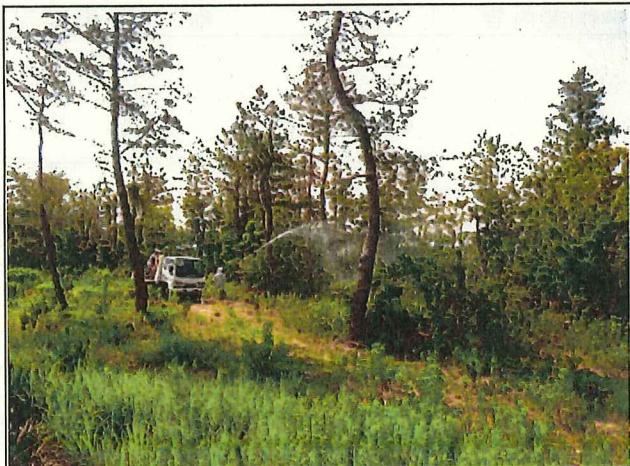


写真4

松林整備事業作業風景（2）



写真5

松林整備事業作業風景（3）



写真6

松林整備事業作業風景（4）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	明和町
------	-----------------	-----	-----

事業名	松林整備事業
-----	--------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
松林整備事業（薬剤地上散布）	式	1	939,600	939,600	税込
松林整備事業（伐倒駆除）	式	1	432,000	432,000	税込
事業費				1,371,600	税込

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

明和町

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(円)	内、譲与税
1	⑤ 森林保護対策	1,072	1,072
2	㊹ 基金積立（執行残額等）	104	104
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	1,176	1,176

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

大台町

大台町

第16号様式

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

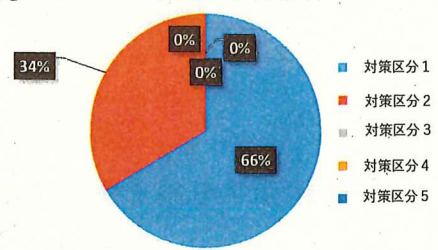
市町名	大台町	三重県
人口（人）	8,975	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	9.8%	12.4%
森林面積(ha)	33,760.45	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	27,941.63	348,833.49
森林率(%)	93.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	0	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）						内当年度 交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	2	ほっとする道ばた森林整備事業	5,170,000	5,000,000		5,000,000				5,000,000
2	1	災害に強い森林づくり整備事業	9,984,700	9,911,000	9,911,000					9,911,000
										0
										0
計			15,154,700	14,911,000	9,911,000	5,000,000	0	0	0	14,911,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	111.08ha	39,420,700	38,259,000	間伐
森林再生力強化対策事業	4,002m	2,629,219	2,629,000	植栽

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	台風等による風倒被害で交通障害や停電を招く恐れのある道路と河川間の山林や山腹崩壊や土壌浸食の恐れのある森林において、人工林を伐採し広葉樹等の植栽や間伐を行うことにより防災機能の強化を図る。
事業実施により得られた効果	風倒被害等の懸念が無くなり、広葉樹植栽により公益的機能が向上し安心安全の確保が出来たこと、また、森林の有する水源かん養機能の維持増進が図られ、災害に強い森林づくりを行うことができる。
情報発信への取組	町ホームページへの掲載や施業実施場所に看板を設置することにより、町民や道路利用者等不特定多数に対し情報発信を行った。

＊評価の参考として、別紙「森林環境譲与税事業の実績」を添付すること。

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	大台町
番 号	事 業 名				
1	ほっとする道ばた森林整備事業				
事 業 費	5,170,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,000,000		170,000

1. 事業の目的

道路と河川間にあるスギ・ヒノキ人工林は経済性を求めることは難しいことから、施業放棄されている森林が大半を占めている現状がある。また、このような森林は台風による風倒被害で交通障害や停電を招くことも多いことから、防災対策としても適した森林に更新していくことは必要である。

そのため、人工林の伐採を行い広葉樹等の適した林相に転換し、機能性の高い森林づくりを行っていく。

2. 事業実績概要

【事業内容】

人工林の伐採及び植栽

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

大台町

【補助率等】

補助事業ではなく該当しない

【箇所数】

大台町神滝地内私有林(地権者1名)

【事業量】

事業量：伐採本数354本（杉336本、雑木6本、枯れ木12本）

【事業実施期間】

令和2年1月27日～令和2年3月27日

【受益者、参加者、利用者数等】

受益者多数

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

台風時に倒木等の多い箇所であり幹線道や電線に影響を与えるため地域からの要望があった箇所である。

【事業実施により得られた効果】

風倒被害等の懸念が無くなり、広葉樹植栽により公益的機能の向上から安全安心の確保に繋がった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

伐採後は公益的機能を高める森林管理が必要なことから、森林所有者に事業の趣旨を十分説明を行い森林所有者が管理を行っていく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

風倒被害等の懸念が無くなり地域住民からは評価を得ている。広葉樹植栽については、森林所有者と地元から、公益性の高い森林づくりを要望されていたため高い評価を得ている。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大台町
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	ほっとする道ばた森林整備事業				
事 業 費	5,170,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,000,000		170,000

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

請負により実施

【実施方法の選定理由】

道路沿いの森林伐採は特殊伐採であり、実績のある認定林業事業体による請負を選定した。

【契約方法と落札率または補助率等】

2者指名入札

【契約相手方の選定理由】

道路沿いの森林伐採は特殊伐採であり、過去に伐採実績のある認定林業事業体より選定した。

【事業費の積算根拠】

設計単価見積もりにより積算

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

事業箇所は幹線道路沿いであり通行者は不特定多数であるが、公益的機能の高い森として長期的に機能を発揮でき

【公的関与の必要性】

事業実施箇所は道路と河川間にある山林であるが、採算が取れず施業放棄されている場所が多く見られる。このような場所は、台風等による風倒被害で交通障害や停電を招く恐れがあることから、防災対策の取り組みとして公的機関の関与は必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

転用や目的外使用には適さない場所のため該当しない

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ・ 広報誌掲載 ・ 新聞掲載 ・ テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

・パネル展示（展示場所： ） ○看板設置（設置場所：施工地 ）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

道路利用者等、不特定多数

【情報発信の内容】

施業前、施業後の写真を掲載し、事業の効果を発信した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	大台町
-----	-----

事業名	ほっとする道ばた森林整備事業
-----	----------------

7. 写真

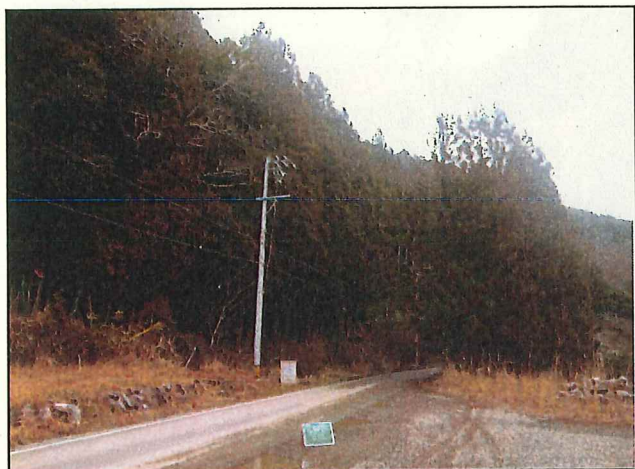


写真1

伐採箇所（施工前状況①）



写真2

伐採箇所（施工後状況①）



写真3

伐採箇所（施工前状況②）



写真4

伐採箇所（施工後状況②）



写真5

事業周知看板の設置

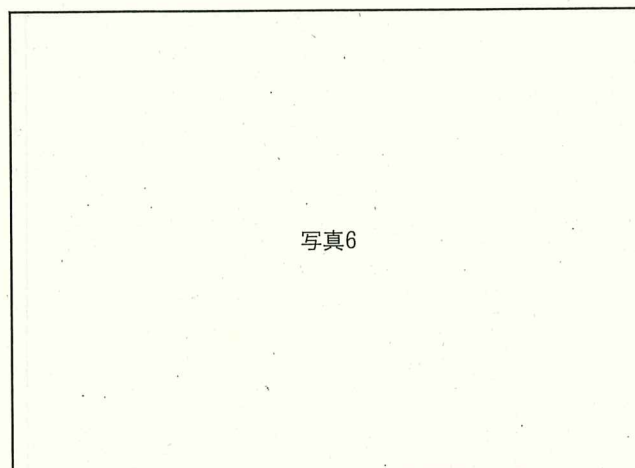


写真6

7. 写真

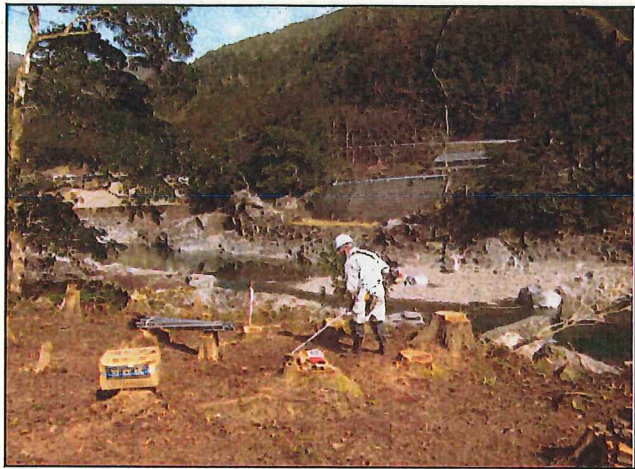


写真7
防鹿柵設置状況



写真8
植栽状況



写真9
植栽状況

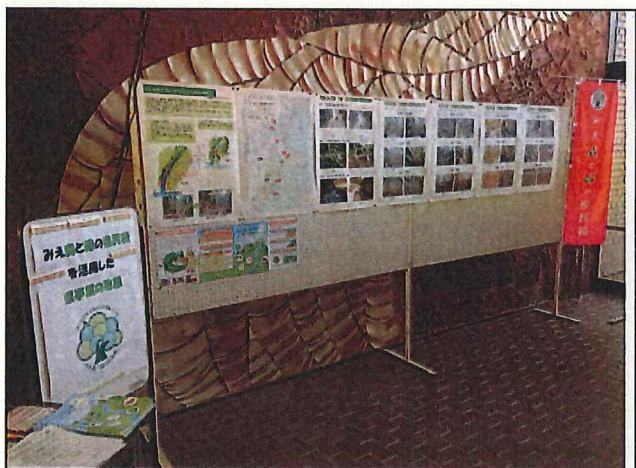
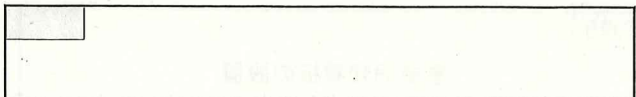
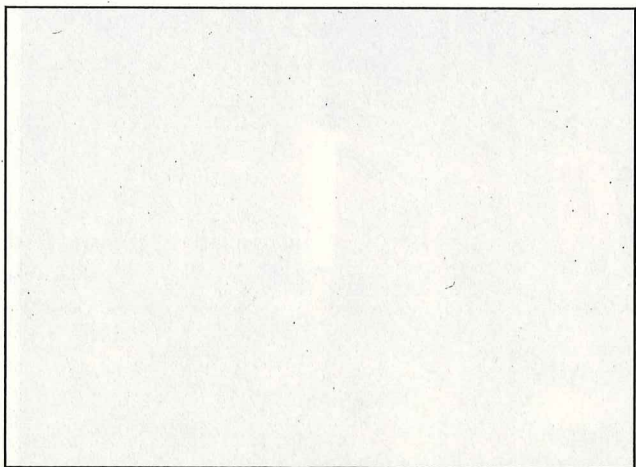
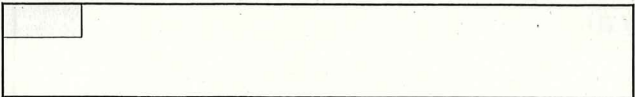
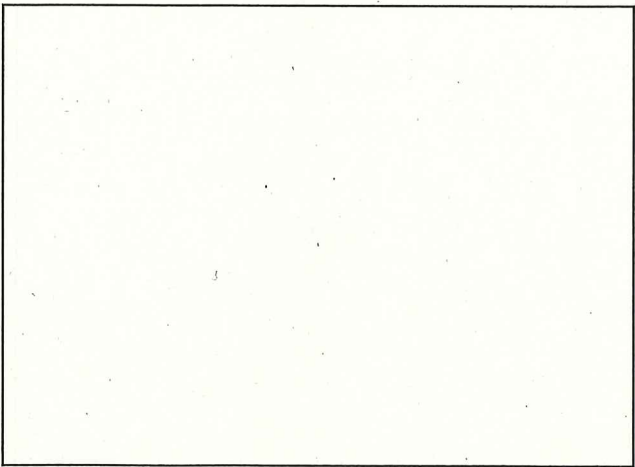


写真10
事業周知のための展示の実施
(大台町宮川総合支所玄関横)



対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり			市町名	大台町
------	-------------------------	--	--	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	災害に強い森林づくり整備事業				
事 業 費	9,984,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			9,911,000		73,700

1. 事業の目的

「土砂や流木による被害を出さない森林づくり」を進めていくため、山腹崩壊や土壌浸食の恐れがある溪流沿いの森林において間伐を実施し、流域森林の防災機能の強化を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

流域における防災機能を強化するため、土砂流出の危険性が高く、早急な整備が必要とされる箇所の森林整備に取り組んだ。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

大台町

【補助率等】

補助事業ではなく該当しない。

【箇所数】

大台町南、栗谷、長ヶの3地区

【事業量】

間伐27.86ha

【事業実施期間】

令和元年10月25日～令和2年3月19日

【受益者、参加者、利用者数等】

474人、217世帯

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

過去の施業履歴や現地調査の結果を踏まえて、施業箇所の選定を行った。

【事業実施により得られた効果】

森林の有する水源かん養機能の維持増進が図られると共に、災害に強い森林づくりが行える。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

森林の所有権、維持管理は森林所有者に帰属するが、本事業での実施箇所として町が把握し、森林の状況をみて必要であれば再度間伐を実施していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

大台町は広大な森林を有し清流日本一の町でありながらも、森林災害を数多く受けてきたため、みえ森と緑の県民税を活用して森林を整備していくのは非常に有効な手段と、地域から評価をいただいた。

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり
------	-------------------------

市町名	大台町
-----	-----

事業名	災害に強い森林づくり整備事業
-----	----------------

7. 写真



写真1
施工前①



写真2
施工後①



写真3
施工前②



写真4
施工後②



写真5
施工前③



写真6
施工後③

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

大台町

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	② 意向調査	2,805	2,805
2	⑰ 基金積立（森林整備等）	28,151	28,151
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	30,956	30,956

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

伊勢市

伊勢市

第16号様式

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

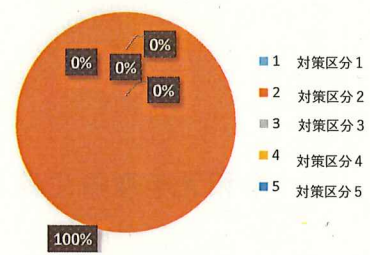
市町名	伊勢市	三重県
人口（人）	123,911	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	11.9%	12.4%
森林面積(ha)	10,956.43	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	10,956.43	348,833.49
森林率(%)	53.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	9.3	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）						内当年度交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	2	森林整備事業	5,067,140	5,067,140		5,067,140				5,067,140
2		基金積立	11,722,860	0						11,722,860
3										
4										
5										
6										0
7										0
計			16,790,000	5,067,140	0	5,067,140	0	0	0	16,790,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	伊勢市の沿岸部には、松林がひろがっているが、この松林は、地域住民の生活を守る防風林の役割を担っている。しかし、近年の病虫害被害により枯松が激増し、防風林としての機能低下や、倒木の被害が心配される。このため、当該交付金を活用し病虫害被害を未然に防ぐことにより、景観保全、地域住民の安全な暮らしの確保を図っていく。
事業実施により得られた効果	防風林の役割を担っている海岸林の景観保全及び倒木による住民及び観光客への被害防止を図ることにより、安全・安心な暮らしの確保に繋がる。
情報発信への取組	施行前に住民代表をととして、工事案内のチラシにより地域住民に周知した。 施工期間中、観光客等が目につく場所に県民税PR看板とのぼりを設置しPRした。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	伊勢市
------	-----------------	--	--	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	森林整備事業				
事 業 費	5,067,140 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,067,140		

1. 事業の目的

伊勢市の沿岸部には、防風林として松林がひろがっているが、近年の病害虫被害により枯れ松が激増し、保安林としての機能が低下し、倒木被害が心配されていることから、当該交付金を活用し病害虫被害を未然に防ぐことで地域住民の安全を図りたい。

2. 事業実績概要

【事業内容】

沿岸部に植生した松の病害虫被害防止を図る為、地上散布、樹幹注入、伐倒破碎を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

伊勢市

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

6箇所（二見町茶屋、二見町荘、二見町今一色、村松町、有滝町、東大淀町）市有林、一部自治会管理の私有林

【事業量】

地上散布6.1ha 樹幹注入285本 伐倒駆除13m3

【事業実施期間】

令和元年5月 ～ 令和2年3月

【受益者、参加者、利用者数等】

付近住民：3,274世帯・ 7,791人 観光客：2,457,150人(H31)

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

伊勢市有数の観光名所である二見海岸の景観保全及び防風林として市民の生活を守る役割を担っている海岸林の機能低下の防止を行うことにより、県民全体で森林を支える社会づくりを推進する。

【事業実施により得られた効果】

防風林の役割を担っている海岸林の景観保全及び倒木による住民及び観光客への被害防止を図ることにより、安全・安心な暮らしの確保に繋がる。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

防風林として地域住民の安全・安心な暮らしを確保し、観光名所である二見浦海岸に訪れた観光客に散策コースとして利用を図る。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

二見浦海岸は、多くの観光客が散策コースとして利用していただいている。また、地域住民には、防風林を守る趣旨を理解していただいている。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊勢市
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	森林整備事業				
事 業 費	5,067,140 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,067,140		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託（請負）

【実施方法の選定理由】

専門的な知識と資格が必要であるため。

【契約方法と落札率または補助率等】

地上散布 要件付一般競争入札 落札率 94.9%

伐倒破碎 オープンビット 落札率 99.5%

樹幹注入 要件付一般競争入札 落札率 96.0%

【契約相手方の選定理由】

オープンビット、一般競争入札による。

【事業費の積算根拠】

平成31年度 森林病虫害等防除事業標準単価・歩掛による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

防風林として市民の生活を守る役割を担っている。

【公的関与の必要性】

地域住民の安全・安心な暮らしを守るために必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

無断伐採や不法投棄がないよう、地域住民と協力しあって監視体制を強化する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

・HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

○チラシ配布（配布対象者：付近住民 ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

・パネル展示（展示場所： ） ○看板設置（設置場所：施行箇所 ）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

地域住民および観光名所である二見浦海岸に訪れた観光客。

【情報発信の内容】

施行前に住民代表をとおして、工事案内のチラシにより地域住民に周知した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり
------	----------------

市町名	伊勢市
-----	-----

事業名	森林整備事業(地上散布)
-----	--------------

7. 写真



写真1

散布状況（村松町他）



写真2

散布状況（二見町）



写真3

散布状況（東大淀町）



写真4

薬剤注入状況



写真5

伐倒前（確認）



写真6

伐倒後（確認）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	伊勢市	
事業名	森林整備事業					
積算資料（実績報告参考資料）						
作業内容	単位	数量	単価	金額	備考	
松くい虫防除（地上散布）業務委託	式	1.00		624,240	請負額	
松くい虫防除（樹幹注入）業務委託	式	1.00		3,973,200	請負額	
松くい虫防除（伐倒破碎）業務委託	式	1.00		469,700	請負額	
事業費				5,067,140		
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
地上散布 6.05ha(2回)	薬剤購入費	ha	6.05	34,320	207,636	
	薬剤運搬費	回	2.0	13,520	27,040	
	薬剤調合費	ha	6.05	6,876	41,599	
	散布作業	ha	6.05	44,694	270,398	
	事務雑費	式	1.00		62,327	
	消費税	式	1.00		48,720	
	計				657,720	設計額
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
樹幹注入 対象樹木285本 アンプル数 1,253本	薬剤費	本	1253	2,500	3,132,500	
	薬剤注入費	本	1253	421	527,513	
	事務雑費	式	1.00		102,987	
	消費税	式	1.00		376,300	
	計				4,139,300	設計額
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
伐倒破碎 12.8m3	伐倒費	m3	12.8	13,179	168,691	
	搬出費	m3	9.7	8,977	87,076	1.2m3地元伐倒
	枝条等集積・搬出費	m3	4.3	19,100	82,130	
	運搬費	式	1.0	24,830	24,830	
	事務雑費	式	1.0		67,273	
	消費税	式	1.0		43,000	
	計				473,000	変更設計額
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

伊勢市

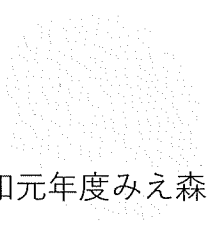
事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	⑰ 基金積立（森林整備等）	11,937	11,937
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	11,937	11,937

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

伊勢市

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	⑰ 基金積立（森林整備等）	11,937	11,937
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	11,937	11,937



令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

鳥羽市

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

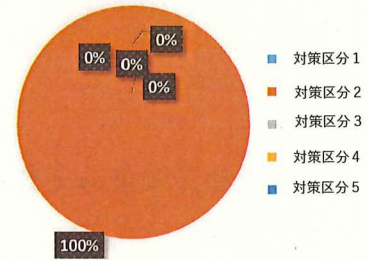
市町名	鳥羽市	三重県
人口（人）	17,962	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	9.5%	12.4%
森林面積(ha)	7,483.76	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	7,486.76	348,833.49
森林率(%)	70.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	10.2	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）						内当年度 交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	2	危険木伐採事業	8,697,700	8,697,000		8,697,000				8,697,700
2										
3										
4										
5										
6										0
7										0
計			8,697,700	8,697,000	0	8,697,000	0	0	0	8,697,700

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	平成28年度より市民から安心安全な生活を送る事が出来るよう危険木伐採の要望が各町内会・自治会から提出されていたが、平成30年度は木育のために保育所に木製ボックスを購入した。しかし、危険木伐採事業の要望が多く残っていたため、本年度は危険木伐採事業を行った。
事業実施により得られた効果	事業実施により、市民が安心安全な生活を送ることが出来るようになった。
情報発信への取組	広報誌を用いて、危険木剪定業務を行ったことを周知した。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鳥羽市
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	危険木伐採事業				
事 業 費	8,697,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			8,697,000	0	700

1. 事業の目的	
公共施設などの周辺にある危険木(倒木等の恐れがあり住民の安全安心な生活に支障をきたす恐れがある木)を伐採し、市民が安心安全な生活を送れる街づくりを目指し、生活環境の向上を図る。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 民家や通学路等に隣接しており、倒木の恐れのある危険木について、緊急に伐採等を行う必要がある箇所を選定し、伐採及び剪定作業を行う。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 鳥羽市 【補助率等】 補助事業ではないため、該当しない。 【箇所数】 7箇所(鳥羽一丁目、鳥羽二丁目、安楽島町、池上町、岩倉町、大明東町、小浜町) 【事業量】 7箇所(鳥羽一丁目、鳥羽二丁目、安楽島町、池上町、岩倉町、大明東町、小浜町) 「合計量」剪定業務:891m,51本、伐採本数:46本 【事業実施期間】 令和2年2月20日から令和2年3月30日まで 【受益者、参加者、利用者数等】 鳥羽一丁目、鳥羽二丁目、安楽島町、池上町、岩倉長、大明東町、小浜町に居住する6,706人	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【実施箇所の選定理由】 避難路や生活用道路に面する危険木を除去することにより、市民が安心安全な生活を送ることが出来るように町内会・自治会を通じて要望の声があった。 【事業実施により得られた効果】 危険木を除去したことにより、より安心安全な生活を送れるようになった声が市民からあがっている。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 危険木を除去した場所に関して、市が適切な管理を実施する。 適切な管理を実施することで、森林整備に努めていく。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 倒木の危険性がある樹木を除去したことにより、安心安全な生活を送れていると市民の声があがっている。	

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鳥羽市
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	危険木伐採事業				
事 業 費	8,697,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			8,697,000	0	700

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

市による業務委託

【実施方法の選定理由】

市が実施することにより、広範囲での伐採、搬出が可能となる。

【契約方法と落札率または補助率等】

指名競争入札(8社)、落札率:47.00%・随意契約(2社)、落札率:99.12%・随意契約(2社)、落札率:99.12%・随意契約(2社)、落札率:97.78%・随意契約(2社)、落札率:99.11%・随意契約(2社)、落札率:97.91%・随意契約(2社)、落札率:98.64%・随意契約(2社)、落札率:99.56%・随意契約(2社)、落札率:98.45%・随意契約(2社)、落札率:97.35%・随意契約(2社)、落札率:90.51%・随意契約(2社)、落札率:93.23%

【契約相手方の選定理由】

随意契約・指名競争入札では、鳥羽市内において、危険木等樹木を伐採した実績がある業者を、造園工事業を行える業者で入札参加資格名簿に登録されている事業者を選定した。

【事業費の積算根拠】

環境林整備事業に係る標準単価より積算。複数業者より見積を徴収し、鳥羽市が積算。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

生活用道路などに隣接している危険木を伐採しているため、鳥羽一丁目、鳥羽二丁目、安楽島町、池上町、岩倉町、大明東町、小浜町の7地域の住民が受益を受ける。

【公的関与の必要性】

生活用道路などに隣接しているため、市民が安心安全な生活を送るために、危険木を伐採する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

伐採した場所を市が管理しているため、転用される恐れはない。また、当該地域については、特段規制はない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

・HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

市民

【情報発信の内容】

広報誌を用いて、危険木伐採剪定を行ったことを周知した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	鳥羽市
-----	-----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7. 写真

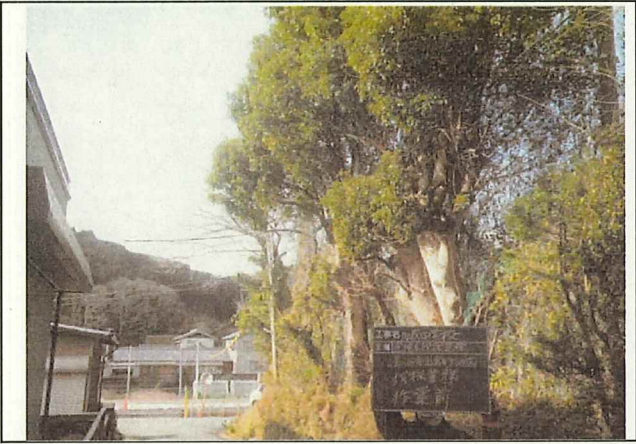


写真1

作業前(加茂中学校)



写真2

作業中(加茂中学校)

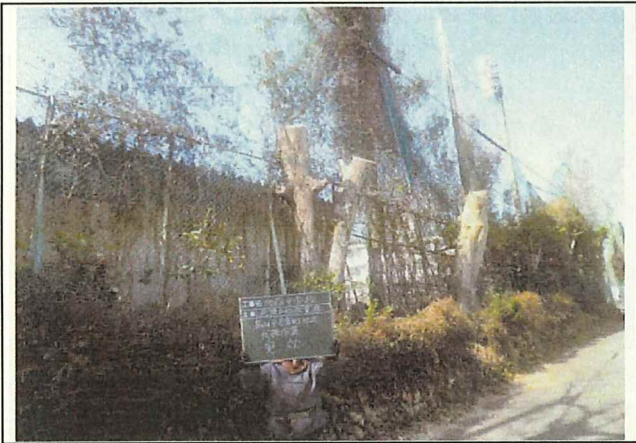


写真3

作業後(加茂中学校)



写真4

作業前(大明東町)

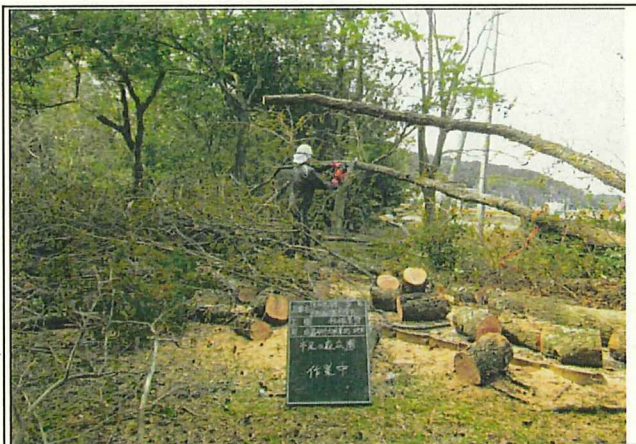


写真5

作業中(大明東町)



写真6

作業後(大明東町)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鳥羽市
事業名	危険木伐採事業		

7. 写真



写真7

作業前(池上町)



写真8

作業中(池上町)



写真9

作業後(池上町)



写真10

作業前(鳥羽一丁目)



写真11

作業中(鳥羽一丁目)



写真12

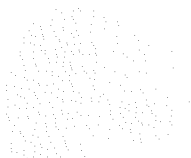
作業後(鳥羽一丁目)

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

鳥羽市

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	③ 私有林整備	2,701	2,701
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	2,701	2,701



令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

志摩市

志摩市

第16号様式

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

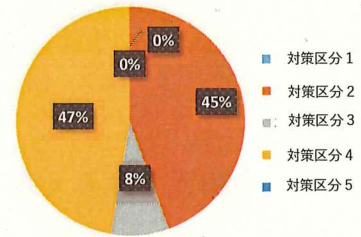
市町名	志摩市	三重県
人口（人）	47,100	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	9.2%	12.4%
森林面積(ha)	9,103.74	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	9,101.49	348,833.49
森林率(%)	51.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	6.2	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）						内当年度 交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	2	里海・里山保全事業	5,086,400	4,973,310		4,973,310				4,973,310
2	3	里山体験事業	947,714	917,690			917,690			917,690
3	4	中学校木製品整備事業	5,292,000	5,292,000				5,292,000		5,292,000
4										0
5										0
6										0
7										0
計			11,326,114	11,183,000	0	4,973,310	917,690	5,292,000	0	11,183,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	6.75ha	3,575,000	3,575,000	調整伐（間伐）
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	志摩市の森林の多くは、広葉樹が広がり、薪炭林などとして利用されていたが、社会情勢の変化により、里山としての森林利用がされなくなり、森林病虫害の発生が見られたり、獣害被害が農地や人家近くに及ぶようになってきた。この状況下において、森林の持つ多面的な機能を市民に知ってもらうために、木製品にふれあう機会を創出や体験型の講習会などを通じ里山保全の手法を体験していただき、市民による、森林保全（里山保全）の取組を推進する。 また、災害に強い森林づくりとして森林整備を進める。
事業実施により得られた効果	①体験型の講習会を開催したことにより、森林への関心やその手法を市民に伝えることができた。 ②古くから海岸保全林として地元住民に親しまれていた松林の保全ができた。また、森林公園としての松林の保全ができた。 ③特定水源地域において、連携枠を活用し、調整伐を実施し、森林整備が促進された。 ④三重県産材木で制作された机、椅子等を設置することにより、温かみと潤いのある教育環境づくりができた。
情報発信への取組	事業成果について、市ホームページで紹介している。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	志摩市
番 号	事 業 名				
1	里海・里山保全事業				
事 業 費	5,086,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,973,310	0	113,090

1. 事業の目的	
志摩市は、全域が伊勢志摩国立公園内に位置し、松やウバメガシなどの広葉樹が多く植生し、志摩市の景観を形成している。また、海岸沿いには、松林の公園や景勝地があり、防風、飛砂防止など地域の暮らしを守っているほか、多くの人が訪れている。松林の公園や景勝地にある松を森林病害虫の被害から守るための対策を施し、景観形成の維持を図る。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 薬剤の樹幹注入及び枯れ松の伐倒処理を行う。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 志摩市 委託先：市内造園業者 【補助率等】 天童島実施分については、事業費の1/2を分担金として徴収している。 【箇所数】 4 か所 志摩市有地 阿児町安乗 安乗岬園地、阿児町甲賀 阿児の松原園地、阿児町鷺方 横山園地 自治会所有地 阿児町立神 天童島、 【事業量】 薬剤樹幹注入 松448本 枯れ松処理78.5m3 【事業実施期間】 令和元年12月から令和2年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 地元自治会 14,842人 横山園地（横山ビジターセンター入館者数 68,724人 令和元年志摩市観光統計より）	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【実施箇所の選定理由】 当該地は、森林公園としての利用や防風、飛砂防止など森林のもつ公益的な機能を発揮させるために、病害虫防除計画を作成し、病害虫防除を計画的実施している。 【事業実施により得られた効果】 松くい虫からの松枯れが低減された。 枯れ松を処理することにより、枯れ枝の落下や幹の倒伏による、被害を未然に防げる。また、枯れ木を伐倒処理することにより、景観の向上につながった。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 森林公園として市が、管理をおこなう。また、天童島においては、地元自治会が管理を行っていく。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 市民から「太い松が少なくなっているので、保全してほしい。」との声をいただいている。	

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	志摩市
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	里海・里山保全事業				
事 業 費	5,086,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,973,310	0	113,090

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

松くい虫防除の事業は、保存すべき松（エリア）として、市が定めており、市が業務委託として発注した。

【契約方法と落札率または補助率等】

薬剤樹幹注入 指名競争入札 落札率87.9%

枯松伐倒破碎処理 随意契約

【契約相手方の選定理由】

指名競争入札 登録業者のうち市内に本店を有し、登録業種が造園であるもの

随意契約 登録業者のうち市内に本店を有し、松くい虫防除に登録のある業者

【事業費の積算根拠】

樹幹注入 平成31年 森林病虫害等防除事業標準単価表 三重県

松枯れ伐倒処理 業者見積による（参考として公園・緑地の維持管理と積算）

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

当事業箇所は、森林公園としての機能を有しており、市民はもとより、広く県民に利用することができる。また、天童島は、英虞湾内にあり、景観を形成している。

【公的関与の必要性】

当該地の市の所有の公園である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市有地については、市が森林公園として管理を行う。

自治会所有地については、自治会が自治会の活動の場として森林の管理を行う。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

・パネル展示（展示場所： ） ○看板設置（設置場所：事業履行箇所）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

市民

【情報発信の内容】

市のホームページにみえ森と緑の県民税に関するページを作り、みえ森と緑の県民税についての説明や市の取組を記載している。また、三重県の県民税のページのリンク情報を載せている。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

防除計画に基づき実施している。 継続事業である。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	志摩市
-----	-----

事業名	里海・里山保全事業
-----	-----------

7. 写真

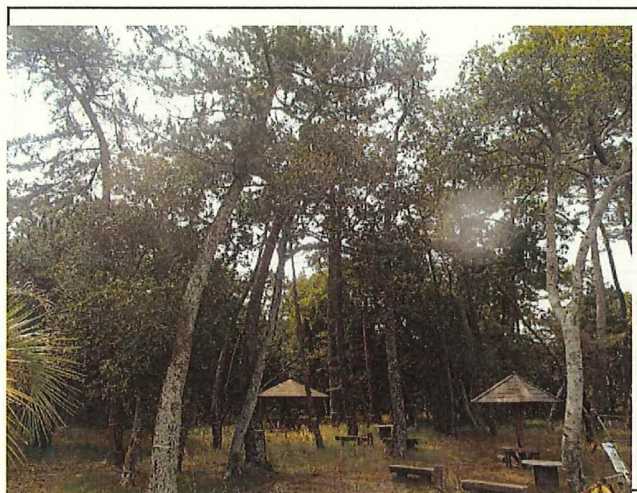


写真1
阿児の松原



写真2
周知看板（阿児の松原）



写真3
安乗岬園地



写真4
周知看板（安乗岬園地）



写真5
樹幹注入 作業状況



写真6
伐倒処理業務

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	志摩市
------	-----------------	-----	-----

事業名	里海・里山保全事業
-----	-----------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
薬剤樹幹注入	式	1.00		3,771,000	1,309アンプル
枯松処理	式	1.00		853,000	
消費税				462,400	
事業費				5,086,400	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
枯れ木処理 破碎処理場までの 運搬費を含む。	幹周 2 0 cm未満	本	20.00	1,100	22,000	
	幹周 3 0 cm～ 6 0 cm未満	本	6.00	8,500	51,000	
	幹周 6 0 cm～ 9 0 cm未満	本	10.00	16,500	165,000	
	幹周 9 0 cm～ 1 2 0 cm未満	本	7.00	28,600	200,200	
	幹周 1 2 0 cm～ 1 5 0 cm未満	本	4.00	36,400	145,600	
諸経費 破碎処理	小計				583,800	
		式	1.00		68,320	
		m3	78.50	2,559	200,880	
	合計				853,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	志摩市
------	-------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	里山体験事業				
事 業 費	947,714 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			917,690		30,024

1. 事業の目的	里山を守り、生かしていくために、子供たちや市民に里山の大切さを伝えることを目的とし、里山を身近に感じてもらうために3つのテーマ（森林にふれあう、森林の保全、森林資源の活用）を定め、体験型の講習会を開催する。
2. 事業実績概要	【事業内容】 ツリーイング体験、環境学習、伐採体験、椎茸菌打ち体験、炭焼き体験 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 志摩市 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない 【箇所数】 1箇所 阿児町鵜方地区創造の森横山及び周辺施設内 【事業量】 ①ツリーイング体験、LEAF森林環境教育によるプログラム 1回、 ②木の伐採体験、シイタケ菌打ち体験1回 ③炭焼き体験1回 【事業実施期間】 ①令和元年11月30日 ②令和元年12月14日 ③令和2年1月25日から2月8日 【受益者、参加者、利用者数等】 ① 34人（うち子ども23人） ② 27人（うち子供4人） ③ 25人（うち子供1人）
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 里山の大切さや身近に感じてもらうために、里山として利用されていた横山地区とした。また、創造の森横山は、森林にふれあうための施設として整備されており、駐車場、トイレ、休憩所が整備されている。 【事業実施により得られた効果】 子供たちや市民の方に森林が持つ多面的機能の理解と関心を広げて学ぶ（体験）する場を作ることができた。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 施設整備ではなく、転用や目的外使用は想定されない。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 参加者へアンケートを取り、「森林に関する関心持もてた。」「森林の事をもっと知りたい。」との意見があった。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	志摩市
------	-------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	里山体験事業				
事 業 費	947,714 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			917,690		30,024

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託、講師依頼

【実施方法の選定理由】

事業実施にあたり、専門的な知識、資格が必要である。

【契約方法と落札率または補助率等】

ツリーイング体験・森林環境学習 随意契約 1者見積もり

木の伐採体験・シイタケ菌打ち体験 随意契約 1者見積もり

【契約相手方の選定理由】

木とふれあう講習会(自然体験学習)は、ツリーイングのインストラクターの資格を持つ団体(法人)に依頼した。森林施業講習会においては、森林施業の資格を有す団体(森林組合)に依頼した。山の恵み講習会(炭焼き体験)においては、ボランティア活動の経験のある方に講師をお願いした。

【事業費の積算根拠】

見積書 三重県林業関係の標準歩掛(人件費)

志摩市講師に対する謝礼支払基準(平成25年10月15日制定)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

体験型の講習会であるため、人数が制約される内容のものについては、応募資格を市内に限定したが、一部講習会においては、県内の方の参加を認めた。

【公的関与の必要性】

森林の持つ公益的な機能を市民に広く伝える必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備ではなく、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段(該当するものに○)】

○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ(行政チャンネル)放映

・チラシ配布(配布対象者:) ○ポスター掲示(掲示場所:庁舎内)

・パネル展示(展示場所:) ・看板設置(設置場所:)

○その他(方法:のぼり) (場所:講習会会場)

【情報発信の対象】

市民

【情報発信の内容】

市HPにみえ森と緑の県民税のこと、志摩市の取組を紹介している。関連リンクとして、県のみえ森と緑の県民税のアドレスを記載している。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

継続事業

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 志摩市

事業名 里山体験事業

7. 写真



写真1

受付会場にのぼりを立てる。



写真2

森林環境学習の様子



写真3

ツリーイング体験の様子



写真4

ツリーイング体験



写真5

LEAF森林環境教育によるプログラム
完成した作品



写真6

LEAF森林環境教育によるプログラム
作品発表会

7. 写真



写真7

森林組合より森林に関する仕事のことについて、話を聞く



写真8

伐採体験の様子



写真9

シイタケ菌打ち体験



写真10

シイタケ菌打ち体験



写真11

森林資源の循環活用について市の職員より説明をする。



写真12

取り出した炭

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	志摩市
------	-------------	-----	-----

事業名	里山体験事業
-----	--------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
環境学習ツリーイング体験	式	1.00		364,100	
木の伐採体験	式	1.00		368,500	
炭焼き体験	式	1.00		59,800	
諸材料費	式	1.00		155,314	
事業費				947,714	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
環境学習 ツリーイング体験	講習費（指導員）	人	3.00	15,000	45,000	ツリーイング体験
	講習費（補助員）	人	3.00	10,000	30,000	〃
	実施箇所整備費	式	1.00	30,000	30,000	〃
	機械等借損料	セット	10.00	1,000	10,000	〃
	講習費（指導員）	人	3.00	10,000	30,000	森林環境学習
	教材費	式	1.00	20,000	20,000	
	諸経費	式	1.00		166,000	旅費、宿泊費
	消費税				33,100	
	計				364,100	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
木の伐採体験 シイタケ菌打ち体験	講習会準備工	人工	8.00	19,100	152,800	
	講習会（指導員）	人工	1.00	22,100	22,100	
	講習会（補助員）	人工	4.00	19,100	76,400	
	諸雑費	%	2.00		5,026	
	諸経費	%	31.00		79,461	
	消費税				33,500	
	計				368,500	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
炭焼き体験	講師	時間	29.00	2,000	58,000	講師料
		回	6.00	300	1,800	旅費
	計				59,800	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
諸材料費	原木代他				155,314	
	計				155,314	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	志摩市
------	-------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
3	中学校木製備品整備事業				
事 業 費	5,292,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,292,000	0	0

1. 事業の目的	学校に設置されている備品等について、三重県産材木で製作された家具等を設置することにより、子どもたちの教育環境を整えることを目的とする。
2. 事業実績概要	【事業内容】 中学校の技術室や美術室、図書室等の机や椅子、合唱用台を県産用木材に切り替えていく。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 志摩市 【補助率等】 補助事業でないため該当しない。 【箇所数】 中学校 2 校（市立磯部中学校、市立大王中学校） 【事業量】 技術室机 6 台 合唱用台 6 台 美術室用机 40 台 美術室用椅子 40 脚 【事業実施期間】 令和元年 6 月 28 日～令和元年 9 月 30 日 【受益者、参加者、利用者数等】 中学校 2 校生徒数 242 名（市立磯部中学校生徒数 148 名、市立大王中学校生徒数 94 名）
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 2 校の要望が特に強かったため。 【事業実施により得られた効果】 木材は、柔らかで温かみのある感触を有するとともに、室内の温度変化を緩和させ、快適性を高める等の優れた性質を備えていることから、温かみと潤いのある教育環境づくりができた。また木材を利用することで、木材利用による環境負荷低減や森林の保全、木の文化の継承、地域の活性化などについて学習するきっかけともなった。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 授業において活用・使用していく。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 三重県産木材の利用や自然素材を使用して、温もりと潤いを感じることが出来るとの声があった。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	志摩市
-----	-----

事業名	中学校木製備品整備事業
-----	-------------

7. 写真



写真1
技術室机



写真2
技術室机



写真3
合唱用台



写真4
合唱用台



写真5
美術室用机・椅子



写真6
美術室用机・椅子

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	志摩市
------	-------------------	-----	-----

事業名	中学校木製備品整備事業
-----	-------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
合唱用台（大）	台	3.00	182,500	547,500	
合唱用台（小）	台	3.00	147,800	443,400	
作業台	台	6.00	205,850	1,235,100	
美術室机	台	40.00	43,850	1,754,000	
美術室椅子	脚	40.00	23,000	920,000	
事業費				4,900,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

志摩市

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	② 意向調査	3,938	3,796
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	3,938	3,796



令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

玉城町

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

市町名	玉城町	三重県
人口（人）	15,199	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	14.5%	12.4%
森林面積(ha)	1,259.02	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	1,258.77	348,833.49
森林率(%)	31.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	25.7	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）						内当年度 交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	3	森林環境教育・木育事業	324,940	324,940			324,940			324,940
2	4	公共施設（学び場）整備事業	3,078,096	3,078,096				3,078,096		3,078,096
3	5	森林ふれあい創出事業	423,500	423,500					423,500	423,500
4		玉城町被害防止森林創出事業 （交付金基金積立事業）	2,583,464	0						2,583,464
5										0
6										0
計			6,410,000	3,826,536	0	0	324,940	3,078,096	423,500	6,410,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	0	0	0	
森林再生力強化対策事業	0	0	0	

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	森林率が低い当町であるがゆえ、森林の良さ、木材の良さに気づく機会が大いと考えます。森林環境への関心・身近さを少しでも感じてもらいたいと考えに基づく。 また、教育現場、保育現場での学びの場を創出すると同時に森林環境教育を実施していくことが、多くの方々に森林への関心が高まることに繋がるものと考えに基づき、実施。
事業実施により得られた効果	森林環境教育・木育を実施したことで森林への理解、森林の大切さを感じてもらえた。 また、木と触れ合える保育環境を園児とその保護者に感じてもらうことで、木材の大切さ、活用の促進と森林への理解を深めてもらうことが出来た。
情報発信への取組	町の広報誌（広報たまき）への掲載を基本に町民に対して積極的に情報提供（PR）している。 町民はもとより、木育活動等を実施した施設の対象者（園児、生徒）はもとより教員・職員からも事業に対する理解の声をいただいている。

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	玉城町
------	-------------	--	--	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	森林環境教育・木育事業				
事 業 費	324,940 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			324,940		

1. 事業の目的

教育現場・町主催イベントにおいて森林環境教育・木育を実施し、児童・生徒等の森林への理解を深める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

町内の小学校、町主催イベントにおいて森林環境教育・木育を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

玉城町

【補助率等】

補助事業ではないため、該当なし。

【箇所数】

・小学校 4校
・保育所 4園

【事業量】

・木育活動 4小学校（木育メニュー考えて、実施）
・町主催イベント（丸太切コンテスト）
・森林に関する図書（絵本） 12冊（もりのなか、またもりへ、ちいさなき など）

【事業実施期間】

令和元年10月 ～ 令和2年1月

【受益者、参加者、利用者数等】

・玉城町立小学校（田丸小、有田小、外城田小、下外城田小） 児童数 148人（4～5学年）・・・木育活動
・玉城町立保育所（田丸保、有田保、外城田保、下外城田保） 園児数 589名・・・絵本購入対象

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

森林環境への関心を少しでも感じる事が出来ればと考え、森林教育実施を開始する学年とその準備学年である4～5年生を対象とした。

【事業実施により得られた効果】

森林環境教育・木育をととして森林への理解、森林の大切さが感じてもらった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

購入した図書にロゴマークと税を活用したことを明記して、税を周知した。図書の購入と税の趣旨を学校便りに掲載し、家庭の意識醸成を図った。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

・木材を利用・使用した木育活動（出前講座、体験）を実施したことで、森林・木材への関心を示す様子を感じたとの教員の声を聞いている。
・購入した図書の読み聞かせを実施した結果、教員からは「児童が新しい本に関心を示している様子が見受けられる。」との反応を得ている。

20-3

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	玉城町
------	-------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	森林環境教育・木育事業				
事 業 費	324,940 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			324,940		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 木育活動・・・（公社）三重県緑化推進協会（みえ森づくりサポートセンター）に支援委託し、実施町にて絵本を購入、４園にて共同（交代）使用。	
【実施方法の選定理由】 町有施設のため、転用等が想定されず、該当しない。	
【契約方法と落札率または補助率等】 木育活動支援業務：随意契約 図書購入：町にて購入	
【契約相手方の選定理由】 支援業務委託：随意契約（地方自治法施行令第167条の２第１項第１号）	
【事業費の積算根拠】 設計委託の仕様書による積算を行った。 県に対し、リスト提示を依頼し、参考として購入。	
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】	
【事業参加や整備施設等の公益性】 本メニューにて実施した木育活動は子供（園児、小学生）を基本対象として実施。少しでも多くの人数に興味を感じてもらえるよう企画した。 また、町主催のイベントでは、親子で木と触れ合えることが出来る内容を企画した。参加者だけでなく、見学する来場者にも木材の良さを感じてもらえたので、多くの方々への周知に繋がった。	
【公的関与の必要性】 教育現場と連携して実施する内容であるため、公的に取り組む必要がある。	
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。	
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】	
【情報発信の手段（該当するものに○）】 ・HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ） ・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ） ・その他（方法： ）（場所： ）	
【情報発信の対象】 広報誌（広報たまき）の配布対象戸 4950戸	
【情報発信の内容】 町の広報誌（広報たまき）への記事を基本的に町民に対して積極的に情報提供（PR）している。 町民はもとより、木育活動等を実施した施設の対象者（園児、生徒）、教員・職員からも事業に対する理解の声がある。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	玉城町
-----	-----

事業名	森林環境教育・木育事業
-----	-------------

7. 写真

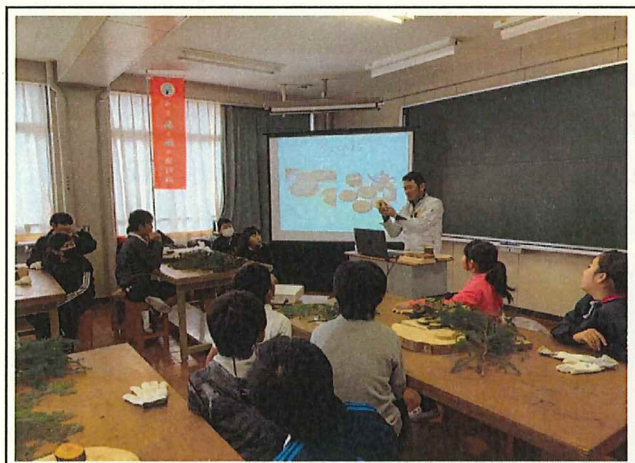


写真1

森林環境教育支援業務（田丸小学校）

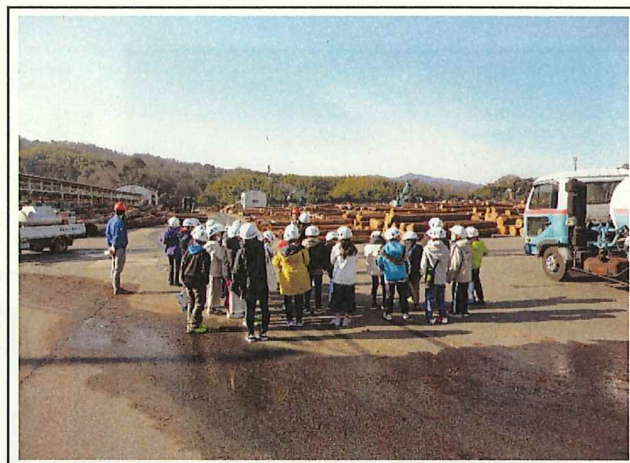


写真2

森林環境教育支援業務（下外城田小学校）



写真3

森林環境教育支援業務（下外城田小学校）



写真4

森林環境教育支援業務（下外城田小学校）



写真5

森林教育啓発活動（アスピア玉城秋まつり（丸太切）イベント支援業務）



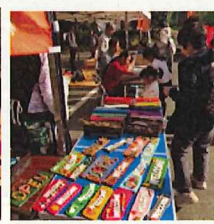
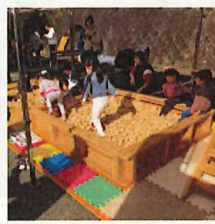
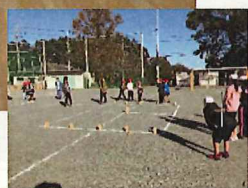
写真6

森林環境教育図書購入

広報1月号



町では木の温もりを感じられる環境整備として県産材を使った床改修工事（田丸保育所）や森林機能・森林づくりの必要性を理解してもらうため各小学校での出前授業や玉城ええやんまつりでの木育活動などを実施しています。



広報3月号

木育活動（出前授業）

※みえ森と緑の県民税の活用

木の働き・木の生長を知り、木に触れる事で木への関心・知識が深まることを願い、町内の3小学校で実施しました。

児童たちは、各講師のお話に興味深く聞き入り、また木工品製作に精を出していました。



下外谷田小学校（2、4年生）

（キーホルダーづくりより）



田丸小学校（5年生）

（コースターづくりより）



有田小学校（5年生）

（カッパビ7松製工場見学より）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	玉城町
------	-------------	-----	-----

事業名	森林環境教育・木育事業
-----	-------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
森林環境教育支援業務（田丸小、有田小、下外城田小）	式	1.00	189,200	189,200	
森林環境教育支援業務（外城田小）	式	1.00	30,800	30,800	
森林環境教育図書購入	式	1.00	14,190	14,190	
森林環境教育図書購入	式	1.00	90,750	90,750	
事業費				324,940	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
森林環境教育支援業務（田丸小、有田小、下外城田小）	業務	式	1.00	172,000	172,000	
					172,000	上記合算千円止
		%	10.00		17,200	
	計				189,200	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
森林環境教育支援業務（外城田小）	設計業務	式	1.00	28,000	28,000	
	消費税相当額	%	10.00		2,800	
	計				30,800	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
森林環境教育図書購入	図書購入	式	1.00	14,190	14,190	
	計				14,190	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
森林環境教育図書購入	アスピア玉城秋まつり（丸太切）イベント支援業務	式	1.00	82,500	82,500	
	消費税相当額	%	10.00		8,250	
	計				90,750	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第7号様式（その2）

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	玉城町
------	-------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	公共施設（学び場）整備事業				
事 業 費	3,078,096 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,078,096		

1. 事業の目的		木材と触れ合う場を提供（床木質化改修）することで森林への理解をすすめる。			
2. 事業実績概要		【事業内容】 木材と触れ合う場を提供するために、1 保育所（2 室）の床を木質化した。 また、中学校には、技術室で使用する椅子を導入した。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 玉城町 【補助率等】 補助事業ではないため、該当なし。 【箇所数】 田丸保育所、玉城中学校 【事業量】 ・田丸保育所 設計業務 80.0㎡（2 歳園児室 2 室） ・田丸保育所 床木質化改修工事 80.0㎡（2 歳園児室 2 室） ・玉城中学校 技術室用椅子 導入 41脚 【事業実施期間】 令和元年 8 月 ～ 令和元年11月 【受益者、参加者、利用者数等】 園児数 241人（内2 歳園児 28人） 中学校生徒数 約500名			
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】		【実施箇所の選定理由】 ・木とふれあえる保育・教育環境を園児・生徒・保護者に提供することで、木材の活用の促進と森林づくりへの理解を得るため。 ・中学校の技術科目では、直に木材を扱う授業も開催されることから身近に感じてもらえる教材になると考え、導入した。 【事業実施により得られた効果】 ・木とふれあえる保育環境を園児・保護者に提供したことで、木材の活用の促進と森林づくりへの理解が進んだ。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 ・田丸保育所 ： 改修した園児室で集団生活の中、森に関する絵本の読み聞かせを行うことで木とのふれあい、木材の温かみを感じてもらえるよう活用していく。 ・玉城中学校 ： 技術の授業の際、導入した椅子に座することで森林（木材）への意識向上、身近に感じるよう引き続き活用していく。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 ・県産材により床を木質化したことにより児童、職員から環境（明るさ、木の温もり、清潔感）が良かったとの声をいただいている。 ・引き続き、公共建築物に積極的に県産材を利用していく。			

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	玉城町
------	-------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	公共施設（学び場）整備事業				
事 業 費	3,078,096 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,078,096		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
床の木質化：町による工事請負契約、 資材導入：随意契約

【実施方法の選定理由】
町有施設のため、転用等が想定されず、該当しない。

【契約方法と落札率または補助率等】
設計委託：随意契約、床木質化：指名競争入札による。落札率 74.5%、資材導入：随意契約

【契約相手方の選定理由】
設計委託： 随意契約（地方自治法施行令第167条の2第1項第1号）
床木質化： 指名競争入札
資材導入： 随意契約（地方自治法施行令第167条の2第1項第1号）

【事業費の積算根拠】
設計委託の仕様書による積算を行った。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
2歳の園児はもとより、その保護者、職員が環境が良くなった中、保育を感じることが出来ている。
中学校に導入した技術室の椅子については、生活環境がよくなることはもとより、木材を取り扱う授業の際は、木材の良さを感じることに繋がる。

【公的関与の必要性】
町有施設であり、公益性施設整備のために要望のある施設については劣化等の度合いを精査し、実施する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
担当課及び施設管理者において、管理体制を整え、維持管理に努める。
担当課：田丸保育所、保健福祉課、玉城中学校、教育委員会

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
・HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】
広報誌（広報たまき）の配布対象戸 4950戸

【情報発信の内容】
町の広報誌（広報たまき）への記載を基本に町民に対して積極的に情報提供（PR）している。
町民はもとより、木育活動等を実施した施設の対象者（園児、生徒）、教員・職員からも事業に対する理解の声をいただいている。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	玉城町
-----	-----

事業名	公共施設（学び場）整備事業
-----	---------------

7. 写真



写真1

田丸保育所（うさぎ室1）床改修工事



写真2

田丸保育所（うさぎ室1）床改修工事

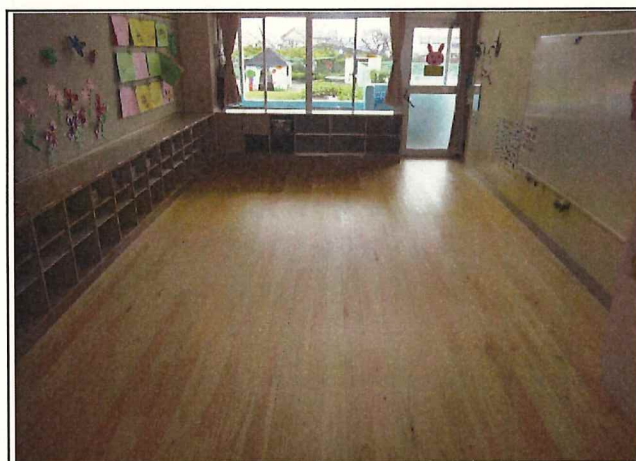


写真3

田丸保育所（うさぎ室2）床改修工事

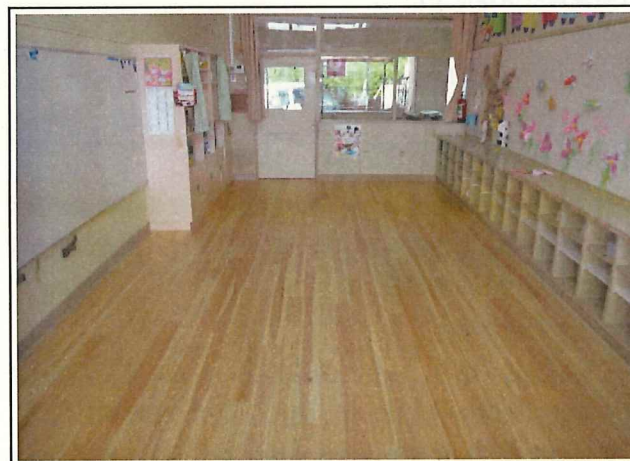


写真4

田丸保育所（うさぎ室2）床改修工事



写真5

資材導入（玉城町立玉城中学校技術室用椅子購入）

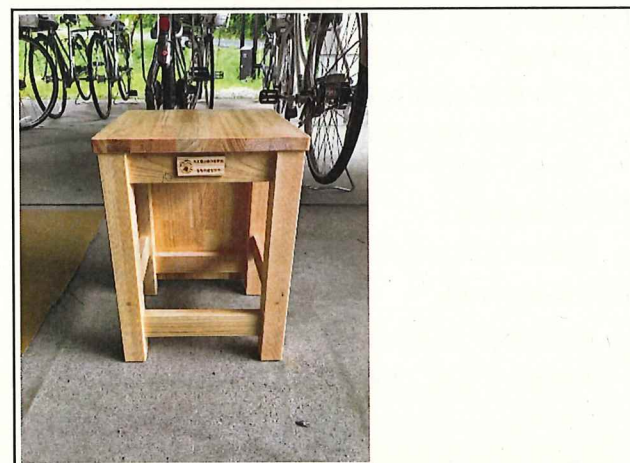


写真6

資材導入（玉城町立玉城中学校技術室用椅子購入）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	玉城町
------	-------------------	-----	-----

事業名	公共施設（学び場）整備事業
-----	---------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
・田丸小学校特別支援教室 57.4㎡の床を木質化	式	1.00	3,248,300	3,248,300	
事業費					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
・田丸保育所 80.0㎡の床を木質化	直接工事費	式	1.00	2,026,358	2,026,358	
	共通仮設費	式	1.00	87,768	87,768	
	現場管理費	式	1.00	404,855	404,855	
	一般管理費	式	1.00	434,272	434,272	
	工事価格				2,953,000	上記合算千円止
	消費税相当額	%	10.00		295,300	
	計				3,248,300	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
・田丸保育所 80.0㎡の床改修工 事の設計業務	設計業務	式	1.00	300,000	300,000	
	消費税相当額	%	8.00		24,000	
	計				324,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
玉城中学校技術室 用椅子導入	木製作業椅子	脚	41.00	10,700	438,700	
	消費税相当額	%	8.00		35,096	
	計				473,796	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	玉城町
------	--------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
3	森林ふれあい創出事業				
事 業 費	423,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			423,500		

1. 事業の目的	子どもたちが施設（広場）を利用する際に木製ベンチを利用することで、緑の自然環境を大切に思う心を育む。
2. 事業実績概要	【事業内容】 アスパピア玉城の広場に木製ベンチを導入する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 玉城町 【補助率等】 補助事業ではないため、該当なし。 【箇所数】 ・アスパピア玉城 1箇所 【事業量】 ・木製ベンチ 1脚 【事業実施期間】 令和元年11月 ～ 令和2年1月 【受益者、参加者、利用者数等】 広場利用者数（延べ） 約6,000人 子どもが家庭でベンチを利用してのよさを伝えることにより、保護者等の森林・木材への理解、関心向上の波及効果も期待できる。
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 自然環境を大切に思う心を育むため、子どもたちの利用がある公共施設（アスパピア玉城）内の広場への木製ベンチ導入を選定した。 【事業実施により得られた効果】 ベンチを整備することで、自然に親しむ時間の創出、自然環境を大切に感じる心の育みを得ることが出来た。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 緑に囲まれた環境（広場）で遊ぶ楽しさを感じる機会に繋げる。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 広場で遊ぶ子どもが増え、子供を見守る緑の心地よさを保護者も実感されている。引き続き、子どもに身近な緑の環境を整備していくよう努める。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり
------	--------------------

市町名	玉城町
-----	-----

事業名	森林ふれあい創出事業
-----	------------

7. 写真



写真1

公共施設（アスパピア玉城）内県産材備品導入



写真2

公共施設（アスパピア玉城）内県産材備品導入



写真3



写真4



写真5

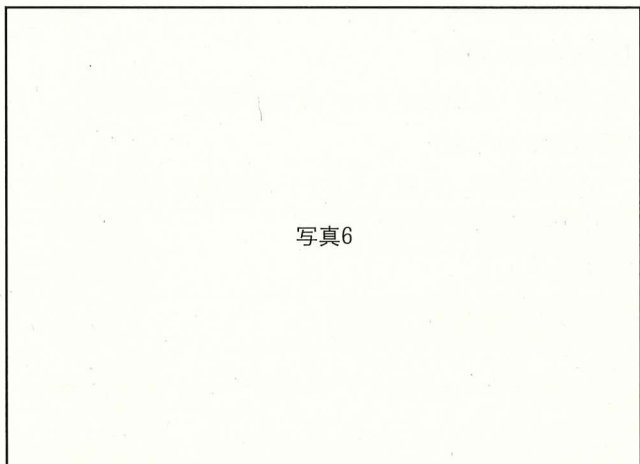


写真6

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	玉城町
------	--------------------	-----	-----

事業名	森林ふれあい創出事業
-----	------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
・公共施設内（アスパア玉城）内備品導入	式	1.00	423,500	423,500	
事業費					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木製ベンチ導入 (1脚)	導入費	式	1.00	385,000	385,000	
	消費税相当額	%	10.00	38,500	38,500	
	計				423,500	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

玉城町

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	⑰ 基金積立（森林整備等）	1,912	1,912
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	1,912	1,912

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

度会町

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

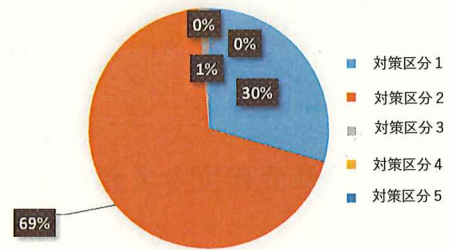
市町名	度会町	三重県
人口（人）	7,950	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	11.6%	12.4%
森林面積(ha)	11,410.44	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	11,410.44	348,833.49
森林率(%)	85.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	9.6	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）						内当年度 交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	3	森林環境教育推進事業	95,040	95,000			95,000			95,000
2	1	流倒木撤去事業	2,090,000	2,090,000	2,090,000					2,090,000
3	2	危険木伐採事業	4,910,800	4,910,000		4,910,000				4,910,000
4		みえ森と緑の県民税市 町交付金積立事業	2,233,000	0						2,233,000
5										0
6										0
7										0
計			9,328,840	7,095,000	2,090,000	4,910,000	95,000	0	0	9,328,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	8.00ha	2,970,000	2,970,000	間伐
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	「災害に強い森林づくり」を目指し、防災・減災を図るとともに、住民に森林について学ぶ場と触れ合う場を提供する。
事業実施により得られた効果	道路沿い等については住民に危害を与える恐れのある危険木を伐採し、河川沿いについては大雨時に下流へ倒木等が流出しないよう撤去し、防災・減災に努めた。 また小学校においては出前授業を行い、森林について学ぶ場・触れ合う場を提供した。
情報発信への取組	・町ホームページ及び町広報紙により取組みを周知 ・森林環境教育推進事業については記者提供をおこない、出前授業の取り組みが伊勢新聞（令和2年2月22日朝刊）に掲載される。 ・庁舎内掲示板にて事業事例の紹介 ・現地に県民税ののぼり旗の設置

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	度会町
------	-------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	森林環境教育推進事業				
事 業 費	95,040 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			95,000	0	40

1. 事業の目的	
町や山林の将来を担う子供たちの森林・林業への関心を高め、森や緑の大切さについての理解を深める。また実際に木に触れる場を提供することで、五感を通して森林について感じてもらう。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 小学3年生を対象に森林・林業に関する出前授業を実施。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 度会町、委託契約先（森林組合） 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 1箇所（度会小学校） 【事業量】 4回 【事業実施期間】 令和2年2月20日 【受益者、参加者、利用者数等】 受講者 63名（小学3年生児童）	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【実施箇所の選定理由】 小学生に森林・林業へ関心を持つきっかけを作り、森や緑の大切さについての理解を深めるため。 【事業実施により得られた効果】 木や森と接する機会が少ない現代の子供たちにとって、貴重な教育であり、森林に興味を持つ良い機会となった。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 施設整備等ではなく、該当しない。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 児童からは「森のことをいろいろ知ることができて良かった」「家族で一緒に行ってみたい」と回答を得ている。	

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	度会町
-----	-----

事業名	森林環境教育推進事業
-----	------------

7. 写真

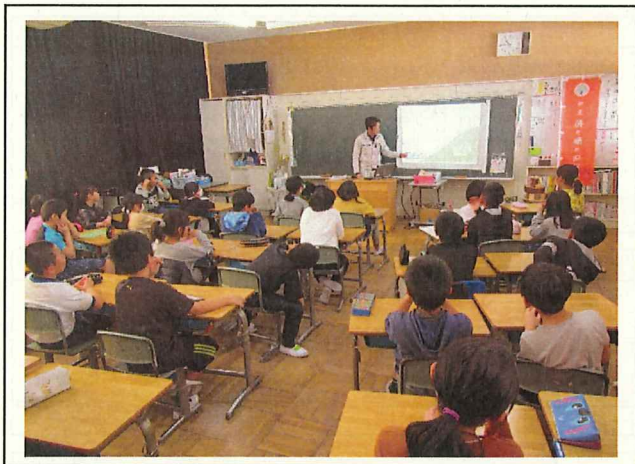


写真1

実施状況①

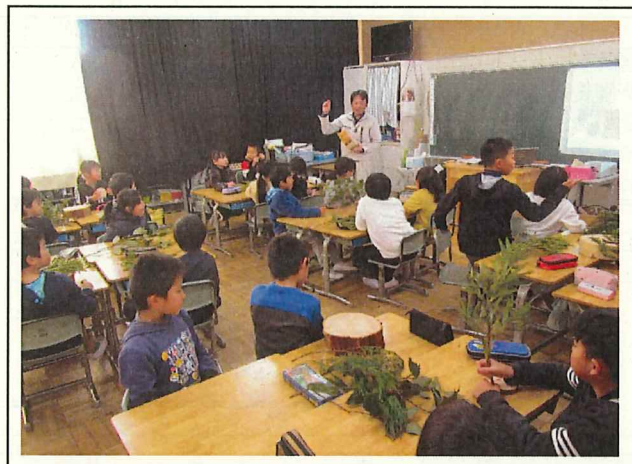


写真2

実施状況②



写真3

実施状況③



写真4

実施状況④



写真5

実施状況⑤



写真6

実施状況⑥

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	度会町
------	-------------	-----	-----

事業名	森林環境教育推進事業
-----	------------

積算資料（実績報告参考資料）						
作業内容	単位	数量	単価	金額	備考	
講師料	人	2.00	18,000	36,000		
準備費	式	1.00	24,000	24,000		
資材費	式	1.00	12,000	12,000		
諸経費	式	1.00		14,400		
消費税	%	10.00		8,640		
事業費				95,040		

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	度会町
------	-------------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	流倒木撤去事業				
事 業 費	2,090,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,090,000	0	0

1. 事業の目的

度重なる大雨により、河川上流の護岸が浸食され、多くの木が倒れかかっており、また、堆積した土砂により 川の
流れが変わり、本来河川でない山の裾など低い所が水が流れその土地も浸食されている。これにより、立木や間伐され
た残木も流されて橋に詰まる等、下流域において災害を拡大させるおそれがあるため、護岸付近の倒木や根本の表土が
流失している立木を除去し、災害の拡大を抑制する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

河川沿いの流倒木の除去および根本の表土が流失している立木の伐採

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

度会町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

7箇所（川上地区）

【事業量】

倒木93本

【事業実施期間】

令和元年12月5日～令和2年3月9日

【受益者、参加者、利用者数等】

下流域 19世帯、66名（川上地区 R2.3月末時点）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効
な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

流倒木等の下流への流出の危険がある箇所を実施

【事業実施により得られた効果】

河川に倒れかかっている立木や河川内の流木を除去することにより、道路や下流域への災害の拡大が抑制された。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

森林所有者、河川管理者で維持管理を行う。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

当該河川の下流域の住民より、倒木が除去されたことで流れ出る心配がなくなったとの回答を得ている。

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり			市町名	度会町
番 号	事 業 名				
2	流倒木撤去事業				
事 業 費	2,090,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,090,000	0	0
4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】					
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 業務委託 【実施方法の選定理由】 林業事業体に委託することで、効率的かつ安全に配慮した施行が可能 【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札（３社）落札率80％ 【契約相手方の選定理由】 最低金額入札者 【事業費の積算根拠】 参考見積書					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【事業参加や整備施設等の公益性】 下流域 20世帯、66名（川上地区 R2.3月末時点） 【公的関与の必要性】 河川沿い等では森林所有者による整備が困難なため、町が実施することで災害拡大を抑制する。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 流倒木の撤去であり、実施箇所の転用、目的外使用の規制等は設けない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の手段（該当するものに○）】 ○ＨＰ掲載 ○広報紙掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ） ・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ） ○その他（方法：事業事例の紹介 ）（場所：庁舎内掲示板 ） 【情報発信の対象】 広報に掲載し、住民へ周知 庁舎訪れる方へ事業の紹介 【情報発信の内容】 事業内容を掲載。施行前後の写真を掲載することで事業の内容をより分かりやすく伝えるようにした。					
7. 写真					
別紙のとおり					
8. その他特記事項					

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり
------	-------------------------

市町名	度会町
-----	-----

事業名	流倒木撤去事業
-----	---------

7. 写真



写真1

川上地区① 施行前



写真2

川上地区① 施行後

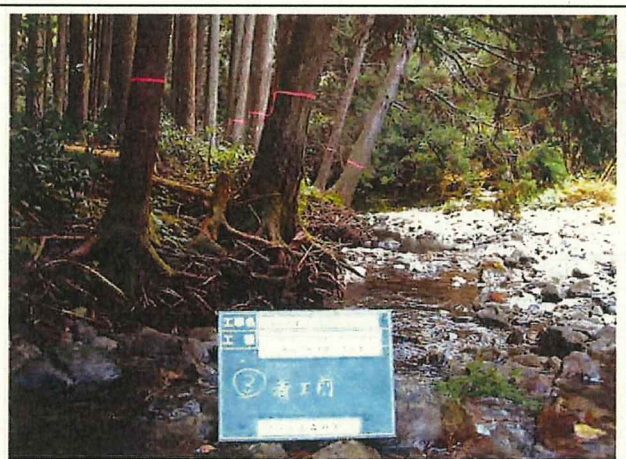


写真3

川上地区② 施行前



写真4

川上地区② 施行後



写真5

庁舎内掲示(遠景)



写真6

庁舎内掲示(近景)

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	度会町
------	-------------------------	-----	-----

事業名	流倒木撤去事業
-----	---------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
流倒木撤去作業	式	1.00		1,290,000	
諸経費	式			1,084,000	森林整備B
消費税	%	10.00		237,400	
事業費				2,611,400	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
流倒木撤去作業	1号箇所	式	1.00		138,233	
	2号箇所	式	1.00		276,465	
	3号箇所	式	1.00		92,155	
	4号箇所	式	1.00		138,233	
	5号箇所	式	1.00		230,388	
	6号箇所	式	1.00		322,543	
	7号箇所	式	1.00		92,155	
	計				1,290,172	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	度会町
番 号	事 業 名				
3	危険木伐採事業				
事 業 費	4,910,800 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,910,000	0	800

1. 事業の目的	施行箇所は、通学路や生活道路として多くの住民が利用している道路に隣接した森林及び多くの住民が利用する公園の植木であり、暮らしに身近な森林として、防災・減災を図るために、危険木を伐採し、住民の安全を確保する。
2. 事業実績概要	【事業内容】 県道伊勢大宮線および町道棚橋牧戸線、農道鮎川下久具線、農道原山線、宮リバー度会パークの隣接箇所における危険木の伐採。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 度会町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 4 箇所 【事業量】 0.2ha 【事業実施期間】 令和元年9月26日～令和2年3月30日 【受益者、参加者、利用者数等】 利用者 県道：30,000人/日、町道：200人/日、農道：200人/日、公園：166,200人/年
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 通学路、生活道路等で危険な箇所として要望があったため。 【事業実施により得られた効果】 利用する生徒や住民の安全を確保することができた。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 町が管理を行う。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 学校職員および住民より、風が強い日に心配なく通行できると回答を得ている。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	度会町	
番 号	事 業 名				
3	危険木伐採事業				
事 業 費	4,910,800 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,910,000	0	800
4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】					
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託 【実施方法の選定理由】 樹高が高く、林業事業体に委託することで、安全に配慮した施行が可能。 【契約方法と落札率または補助率等】 ①指名競争入札（３社）落札率94％（町道棚橋牧戸線） ②指名競争入札（３社）落札率93％（宮リバー度会パーク） ③随意契約 落札率100％（農道鮎川下久具線） ④随意契約 落札率100％（農道原山線） 【契約相手方の選定理由】 最低価格見積者 実績のある業者へ少額随意契約 【事業費の積算根拠】 参考見積書					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【事業参加や整備施設等の公益性】 利用者 県道：30,000人/日、町道：200人/日、広域農道：200人/日、公園：166,200人/年(入込客数) 【公的関与の必要性】 町有地であるため、町が実施。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 町有地であるため、転用等が想定されず該当しない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の手段（該当するものに○）】 ○ＨＰ掲載 ○広報紙掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ） ・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ） ○その他（方法： 施行時にのぼり旗を設置 ）（場所： 施行地 ） 【情報発信の対象】 広報に掲載し、住民へ周知 施行時にのぼり旗を設置することで、周辺を利用する住民へ周知 【情報発信の内容】 事業の内容を掲載					
7. 写真					
別紙のとおり					
8. その他特記事項					

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり
------	----------------

市町名	度会町
-----	-----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7. 写真

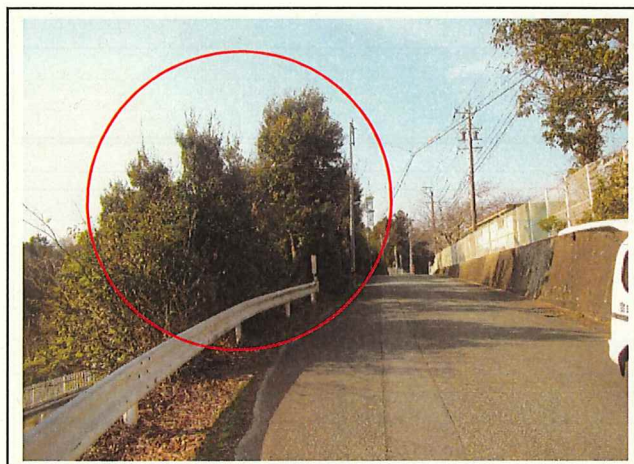


写真1

伐採箇所（町道棚橋牧戸線）伐採前

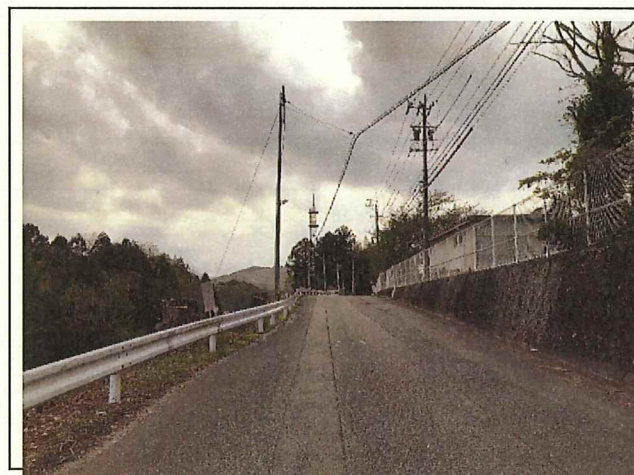


写真2

伐採箇所（町道棚橋牧戸線）伐採後

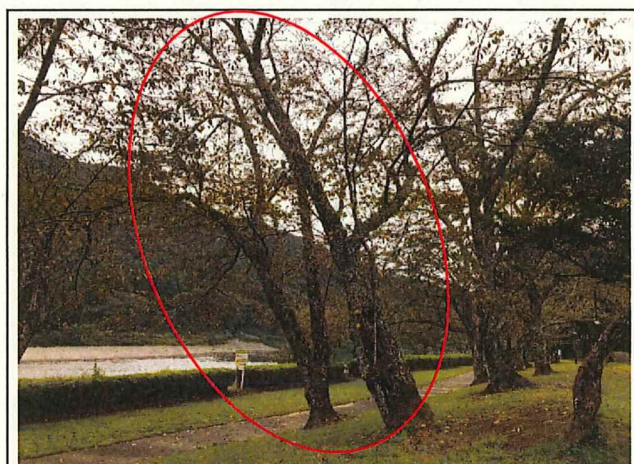


写真3

伐採箇所（宮リバー度会パーク）伐採前

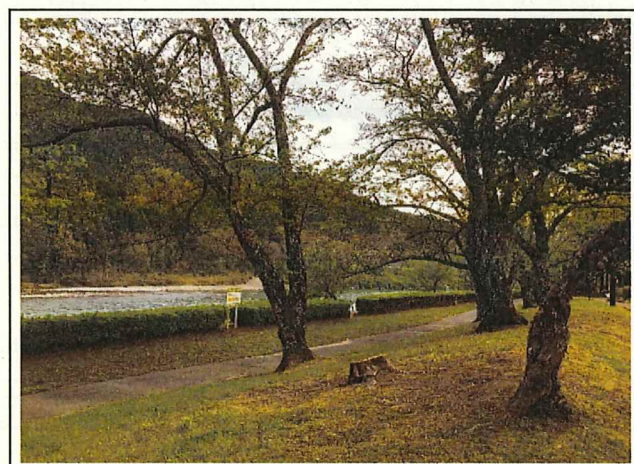


写真4

伐採箇所（宮リバー度会パーク）伐採後



写真5

伐採箇所（農道原山線）伐採前



写真6

伐採箇所（農道原山線）伐採後

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	度会町
-----	-----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
危険木伐採	式	1.00		5,254,000	
事業費				5,254,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
町道棚橋牧戸線	伐採・運搬作業	式	1.00		2,931,000	
	諸経費	式	1.00		961,000	
	消費税	%	10.00		389,200	
	計				4,281,200	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
宮リバー度会パーク	伐採・運搬作業(処分費込)	式	1.00		461,000	
	諸経費	式	1.00		245,000	
	消費税	%	10.00		70,600	
	計				776,600	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
農道鯉川下久具線	伐採・運搬作業	式	1.00		81,500	
	諸経費	式	1.00		8,500	
	消費税	%	10.00		9,000	
	計				99,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
農道原山線	伐採・運搬作業	式	1.00		76,350	
	諸経費	式	1.00		13,650	
	消費税	%	8.00		7,200	
	計				97,200	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

(参考資料)

5. 令和元年度森林環境譲与税事業の実績

度会町

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	① 意向調査の準備作業	437	437
2	⑰ 基金積立（森林整備等）	11,619	11,619
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	12,056	12,056

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

大紀町

大紀町

第16号様式

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

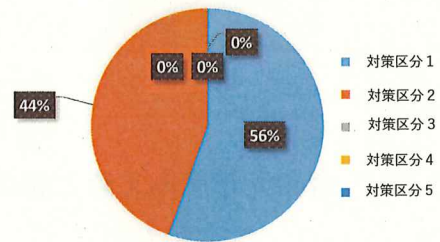
市町名	大紀町	三重県
人口（人）	8,068	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	7.8%	12.4%
森林面積(ha)	21,131.83	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	20,406.17	348,833.49
森林率(%)	91.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	13.2	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）						内当年度 交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	2	生活環境林整備事業	4,000,700	4,000,700		4,000,700				4,000,700
2	1	溪流倒木等処理事業	5,000,600	5,000,600	5,000,600					5,000,600
3		三重森と緑の県民税市町交付金積立事業	3,347,700	0						3,347,700
										0
										0
計			12,349,000	9,001,300	5,000,600	4,000,700	0	0	0	12,349,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	15.1ha	5,410,900	5,410,900	本数調整伐
森林再生力強化対策事業	2547m	986,037	986,037	植栽タイプ

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	基本方針1の「災害に強い森林づくり」を強力に進める為、生活環境林整備事業と溪流倒木等処理事業を実施し、町民生活の安全安心の向上させていく。また、非常時における森林内の危険木流出による被害拡大を軽減させる為、河川の上流部に位置する大紀町としての役割を果たすことが、県民全体の安心安全に繋がっていく。
事業実施により得られた効果	事業実施により、通常時、住民が利用する生活道路や、公共施設等の利用への安全性が向上したことと、非常時における避難や、被害拡大防止の観点からも、住民の安心安全を向上することが出来た。
情報発信への取組	事業実施について、森林所有者や地区代表者に税事業での実施を説明している。また、当年行った事業において、事業実績が分かるようPRポスターを作成し、来庁者に見て頂けるよう通年掲示している。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	大紀町
------	-----------------	--	--	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	生活環境林整備事業				
事 業 費	4,000,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,000,700	0	0

1. 事業の目的

人家裏、公共施設及び生活道路沿いの危険木を除去し、通常の暮らしの安全を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

暮らしの安全を向上させるため、公共施設や、生活道路及び人家裏の倒木や、その可能性がある危険木を除去した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

大紀町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

公共施設危険木：2箇所 生活道路危険木：4箇所 人家裏危険木：2箇所 計8箇所

【事業量】

公共施設危険木：352本 生活道路危険木：70本 人家裏危険木：66本 計488本

【事業実施期間】

令和元年6月24日～令和2年3月26日

【受益者、参加者、利用者数等】

受益戸数402戸

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

特に危険度が高く、緊急を要する箇所から、公共施設、生活道路及び人家裏等の危険木の除去を実施。

【事業実施により得られた効果】

危険木を除去することにより、通常の生活の安心安全を確保できた。また、危険木を伐採したことにより、台風等の非常時に倒木等による通行止め等になる可能性を下げ、住民の避難への安全性が向上した。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

施設整備でなく、該当しない。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

地域の代表者への聴き取りによると、地域の安全性が向上し喜んでいる。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大紀町
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	生活環境林整備事業				
事 業 費	4,000,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,000,700	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託契約

【実施方法の選定理由】

森林所有者による整備が困難な箇所において、町が実施することにより、公共施設や生活道路等の特に緊急性の高い箇所において整備を進めた。

【契約方法と落札率または補助率等】

見積りによる随意契約。落札率97.4%

【契約相手方の選定理由】

現地及び、当該事業に精通している森林組合を選定。

【事業費の積算根拠】

組合による各箇所の見積りを参考とし、積算し事業費を決定した。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

公共施設や生活道路の危険木を除去したことにより、当該該当受益戸数より不特定多数の受益効果が見込まれる。

【公的関与の必要性】

森林所有者による整備が困難な為、町による緊急性の高い箇所を整備する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者に、税事業での実施を説明する際に、その他目的に転用しないよう説明をする。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

・HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ○ポスター掲示（掲示場所：大紀町役場庁舎）

・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

来厅者

【情報発信の内容】

事業実施前、実施後を比較できる写真により、税事業で事業実施状況と効果がわかる様ポスターを作成し掲示している（別紙ポスター参照）また、事業実施中に県民税徴を立て、県民税での事業実施をPRしている。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	大紀町
-----	-----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

7. 写真



写真1
錦釜戸地区避難所避難路（危険木伐採前）



写真2
錦釜戸地区避難所避難路（危険木伐採後）



写真3
錦釜戸地区避難所避難路（危険木伐採前）



写真4
錦釜戸地区避難所避難路（危険木伐採後）



写真5
野添地区県道伊勢大宮線（危険木伐採前）



写真6
野添地区県道伊勢大宮線（危険木伐採後）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	大紀町
-----	-----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

7. 写真



写真7
永会木屋地内県道（危険木伐採前）



写真8
永会木屋地内県道（危険木伐採後）



写真9
崎桁ヶ久保地内生活道路（危険木伐採前）



写真10
崎桁ヶ久保地内生活道路（危険木伐採後）



写真11
事業実績事務所掲示（PRポスター）



写真12
事業実績事務所掲示（PRポスター）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	大紀町
-----	-----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備 考
伐採	人	66.00	22,100	1,458,600	
搬出等	人	74.00	19,100	1,413,400	
諸経費	式	1.00		861,000	
消費税	式	1.00		373,300	
事業費				4,106,300	請負4,000,700円

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計				0	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり			市町名	大紀町
番 号	事 業 名				
2	渓流倒木等処理事業				
事 業 費	5,000,600 円	(財源内訳)	当年度交付金 5,000,600	市町基金 0	その他 0

1. 事業の目的	過去の台風や豪雨により発生した、山間部渓流沿いの倒木や流木は、今後豪雨が発生した際には、下流域へ流出する危険があり、災害が増幅することが予想されることから、継続して倒木、流木の伐採・撤去を行うことにより、自然災害の拡大化を抑制する。
2. 事業実績概要	【事業内容】 山間部渓流沿いの危険倒木・流木を伐採・除去（渓流外に搬出）する。（県事業対象外の小規模箇所） 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 大紀町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 8箇所 【事業量】 大内山地内：1箇所、巨木2本 金輪地内：1箇所、30本 永会地内：2箇所、8本 崎地内：1箇所、5本 錦地内：1箇所、50本 大内山地内：2箇所、4本 計8箇所 99本（内2本巨木） 【事業実施期間】 令和元年6月14日～令和2年3月26日 【受益者、参加者、利用者数等】 受益戸数307戸
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 渓流沿いの人家の近くや、下流に橋梁等がある箇所で、危険木等が流出する可能性がある箇所から実施 【事業実施により得られた効果】 流木等の危険木を除去したことにより、下流域での流木の橋梁等への衝突や堆積の危険性が減少し、流域広範囲における住民の安全性が向上した。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 施設整備でなく、該当しない。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 地域の代表者への聴き取りによると、地域の安全性が向上し喜んでいる。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり			市町名	大紀町
------	-------------------------	--	--	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	溪流倒木等処理事業				
事 業 費	5,000,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,000,600	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託契約

【実施方法の選定理由】

森林所有者による整備が困難な箇所及び、溪流内に堆積する所在不明の流木であることから、町が実施することにより、特に緊急性の高い箇所において整備を進めた。

【契約方法と落札率または補助率等】

見積りによる随意契約。落札率96.4%

【契約相手方の選定理由】

現地及び、当該事業に精通している大紀森林組合を選定。

【事業費の積算根拠】

組合による各箇所の見積りを参考とし、積算し事業費を決定した。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

危険木を除去したことにより、直下の集落の受益より、更に下流域の集落まで多数の受益効果が見込まれる。

【公的関与の必要性】

森林所有者による整備が困難であることと、溪流内に堆積する流木の所有者が判別できない為、町により緊急性の高い箇所を整備する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

危険木発生源の森林が分かる場合は、税事業での実施を説明する際に、その他目的に転用しないよう説明をしている。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

・HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ○ポスター掲示（掲示場所：大紀町役場庁舎）

・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

来庁者

【情報発信の内容】

事業実施前、実施後と比較できる写真により、税事業で事業実施状況と効果がわかる様ポスターを作成し掲示している（別紙ポスター参照）また、事業実施中に県民税職を立て、県民税での事業実施をPRしている。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり
------	-------------------------

市町名	大紀町
-----	-----

事業名	溪流倒木等処理事業
-----	-----------

7. 写真

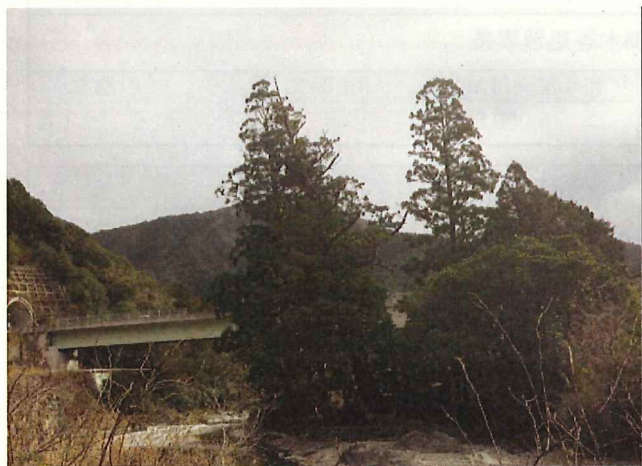


写真1
大内山小川口地内（危険木伐採撤去前）



写真2
大内山小川口地内（危険木伐採撤去後）



写真3
金輪大谷地内（危険木伐採撤去前）



写真4
金輪大谷地内（危険木伐採撤去後）



写真5
永会藤地内（危険木撤去前）



写真6
永会藤地内（危険木撤去後）

対策区分 1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり

市町名 大紀町

事業名 溪流倒木等処理事業

7. 写真



写真7

錦大岩地内（危険木伐採撤去前）



写真8

錦大岩地内（危険木伐採撤去後）



写真9

大内山池ノ谷越地内（危険木伐採撤去前）



写真10

大内山池ノ谷越地内（危険木伐採撤去後）



写真11

事業実績事務所掲示（PRポスター）



写真12

事業実績事務所掲示（PRポスター）

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	大紀町
------	-------------------------	-----	-----

事業名	渓流倒木等処理事業
-----	-----------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
巨木伐採・撤去	式	1.00		2,101,000	
通常分	式	1.00		1,528,000	
諸経費	式	1.00		1,088,000	
消費税	式	1.00		471,700	
事業費				5,188,700	請負5,000,600円

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
巨木伐採・撤去	伐採	人	33.00	19,100	630,300	
	搬出等	人	77.00	19,100	1,470,700	
	計				2,101,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
通常分	伐採	人	24.00	19,100	458,400	
	搬出等	人	56.00	19,100	1,069,600	
	計				1,528,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

大紀町

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	② 意向調査	1,200	1,200
2	⑭ 基金積立（木材利用等）	20,293	20,293
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	21,493	21,493

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

南伊勢町

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

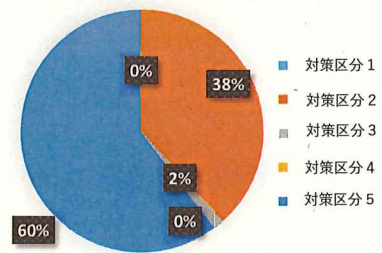
市町名	南伊勢町	三重県
人口（人）	11,461	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	6.1%	12.4%
森林面積(ha)	20,629.37	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	20,429.98	348,833.49
森林率(%)	85.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	0.2	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）						内当年度 交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	2	危険木除去事業	4,823,500	4,809,000		4,809,000				4,809,000
2	3	森林環境教育事業	179,300	179,000			179,000			179,000
3	5	阿曾浦公園ウッドチップ舗装整備事業	7,580,100	7,580,000					7,580,000	7,580,000
計			12,582,900	12,568,000	0	4,809,000	179,000	0	7,580,000	12,568,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	公共施設の周辺や通学路・避難道等の危険木の除去や、森林環境教育事業で森を大切に思う子どもの育成、住民が木材に触れながら快適に過ごすことができる空間づくりなど、町民が将来にわたって安全安心に過ごしながらか森や緑と関わる機会を創出するため、県民税を活用させて頂いている。
事業実施により得られた効果	危険木の除去については、自然災害等による倒木を未然に防ぐことで、安全安心して暮らすことに寄与している。 森林環境教育事業については、森や緑の働きを知ったり触れ合うことで森と緑の大切さを理解し、将来の森林を守り続けていくことに寄与している。 阿曾浦公園ウッドチップ舗装整備事業については、町民が日常的に使用する公園をウッドチップ舗装することにより、木材に親しみ身近に感じてもらうことができている。また、区民が一堂に会する夏祭り等のイベントで使用されることにより、木や県民税を身近に感じてもらう機会となっている。
情報発信への取組	町の広報誌やHPへの掲載を行い、情報発信を行っている。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	南伊勢町
------	-----------------	--	--	-----	------

番 号	事 業 名				
1	危険木除去事業				
事 業 費	4,823,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,809,000		14,500

1. 事業の目的	公共施設の周辺や通学路、避難道等の危険木を除去し、安心安全な街づくりを目指し生活環境の向上を図る。
2. 事業実績概要	【事業内容】 公共施設の周辺や通学路、避難道等の危険木の除去を行う。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 南伊勢町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 4箇所（阿曽浦、贅浦、東宮、相賀浦）すべて私有林 【事業量】 阿曽浦：約300㎡、贅浦：大木3本、東宮：杉15本の枝払い、相賀浦：桜6本の枝払い、伐倒 【事業実施期間】 令和元年8月23日～令和2年2月14日 【受益者、参加者、利用者数等】 阿曽浦 702名 贅浦 448名 東宮 318名 相賀浦 486名 計1,954名 阿曽浦・贅浦・相賀浦は避難道沿いであり、災害時でも安全安心に避難できることに寄与した。東宮は通学路沿いであり、子どもたちが安全安心に通学できることに寄与した。
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 全地区への要望調査を行い、その要望箇所を職員が現地確認して緊急性で優先順位をつけて実施箇所を決定した。 【事業実施により得られた効果】 通学路、避難道など、町民が日常に多く利用する道路や、緊急時に必要となる道路周辺の危険な状態の木が除去されたことにより、安全安心な街づくりに寄与した。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 日常の管理は区が行う。規模が大きい整備については町が実施する。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 区長への聞き取りにより、事前に危険や災害を防ぐことができて良かった、ありがたいとの声が上がってきている。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分		2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名		南伊勢町	
番 号		事 業 名					
1		危険木除去事業					
事 業 費		4,823,500 円	(財源内訳)	当年度交付金 4,809,000	市町基金	その他 14,500	

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

町からの業務委託により実施。緊急を要する事業であり、また伐採技術が必要なことから住民活動での実施は難しく、業務委託とした。

【契約方法と落札率または補助率等】

3者による指名競争入札 落札率97.0%

【契約相手方の選定理由】

町の規定に基づき、町内及び度会町・大紀町・大台町の認定林業事業体から、指名競争入札で選定した。

【事業費の積算根拠】

見積りをもとに積算し、箇所をとりまとめたうえで発注した。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

阿曾浦 702名 賛浦 448名 東宮 318名 相賀浦 486名 計1,954名 阿曾浦・賛浦・相賀浦は避難道沿いであり、災害時でも安全安心に避難できることに寄与した。東宮は通学路沿いであり、子どもたちが安全安心に通学できることに寄与した。

【公的関与の必要性】

通学路や避難道の安全は確保する必要がある。しかし高齢化も進んでおり、また技術が必要であることや、緊急に実施する必要性があるため、所有者による整備は困難であると考えられる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

今回は通学路や避難道の安全のための緊急の危険木除去であり、箇所の転用の制限等は実施せず、今後も柔軟に対応していきたい。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

・HP掲載

○広報誌掲載

・新聞掲載

・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者：)

・ポスター掲示（掲示場所：)

・パネル展示（展示場所：)

・看板設置（設置場所：)

・その他（方法：)（場所：)

【情報発信の対象】

南伊勢町民や、県民に対して広く情報発信を行った。

【情報発信の内容】

実施前と実施後の写真を載せ、事業目的と成果を分かりやすいように掲載した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	南伊勢町
-----	------

事業名	危険木除去事業
-----	---------

7. 写真

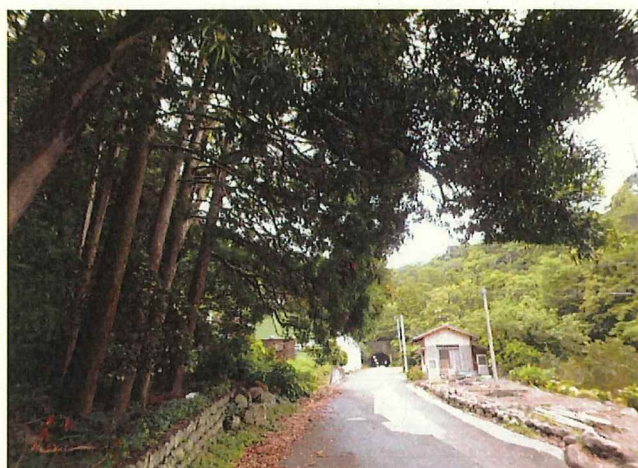


写真1
東宮 実施前

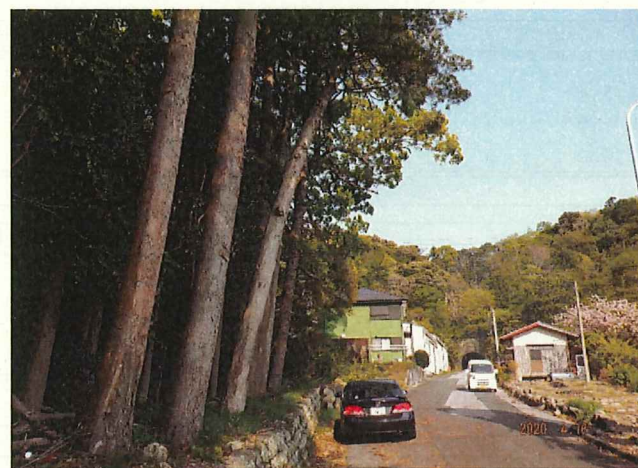


写真2
東宮 実施後

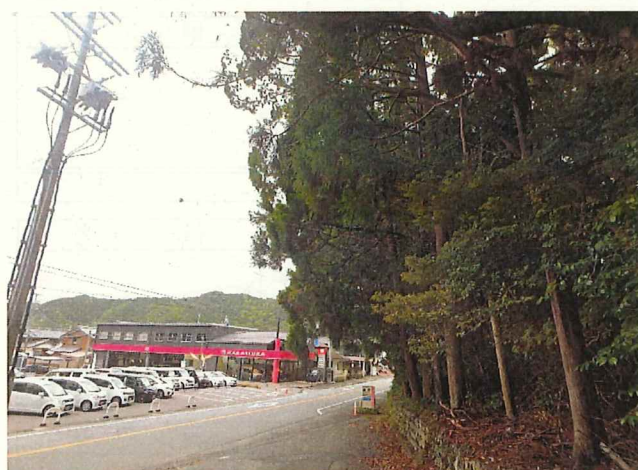


写真3
東宮 実施前



写真4
東宮 実施後

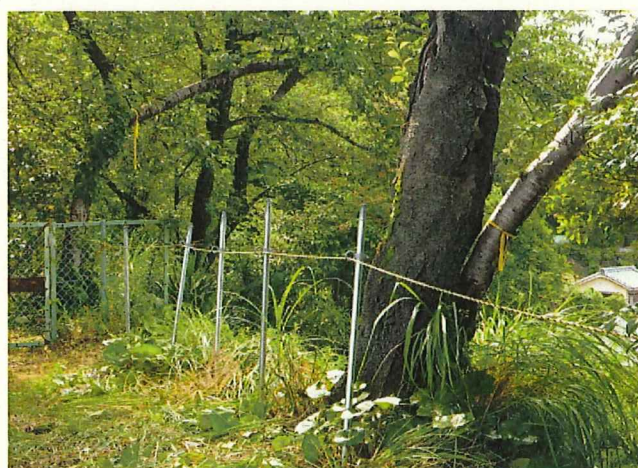


写真5
相賀浦 実施前

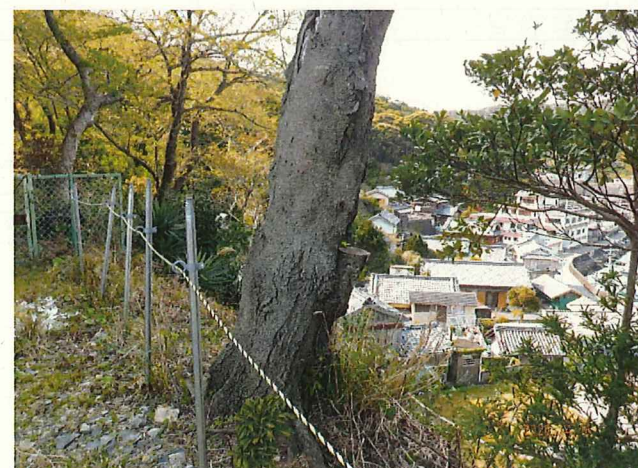


写真6
相賀浦 実施後

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	南伊勢町
-----	------

事業名	危険木除去事業
-----	---------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
危険木伐採工	4	箇所		2,131,000	
諸経費	1	式		1,830,000	
処分費	1	式		424,000	
消費税	10	%		438,500	
事業費				4,823,500	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	南伊勢町
------	-------------	--	--	-----	------

番 号	事 業 名				
2	森林環境教育事業				
事 業 費	179,300 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			179,000		300

1. 事業の目的

森林や緑を大切に思い育む人づくりや、森林への理解を深めるため、小学生を対象に、森林の働きや木材について学びふれあう機会となる森林環境教育を実施する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

町内の小学生を対象に、森や緑について学びふれあうことを目的とした木育教室を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

南伊勢町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

3箇所（南島西小学校・南島東小学校、南勢小学校）

【事業量】

南島西小学校：1年生10名・2年生7名
南島東小学校：1年生10名
南勢小学校：1年生34名 計61名

【事業実施期間】

令和2年2月6日～令和2年2月28日

【受益者、参加者、利用者数等】

南島西小学校17名、南島東小学校10名、南勢小学校34名及び学校関係者に対し、森林のもつ働きや海との関係性を話すとともに、木の葉や幹の輪切りの提供や、木のマグネット作りを通して触れ合う機会を創出したことで、森林についての理解が進んだ。

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

興味を持って話を聞き、軽作業を楽しみながらできる低学年をベースに検討し、町内の3小学校のすべての1年生を対象とした。学校の希望によっては2年生も実施した。

【事業実施により得られた効果】

森林や木材にふれあう機会が少ない現代の子どもたちにおいて、木や緑とふれあう貴重な機会であり、森林に興味を持ってもらえたとても良い機会になった。木のマグネットを作ったことは、保護者にも喜ばれたと先生からお聞きした。先生からも子どもたちも楽しんで取り組めたとの声をいただいた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

木とふれあう貴重な機会であり、楽しみながら体験が出来るので、今後も継続的に森林環境教育を実施していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

対象児童から森林への興味や理解が深まったと手紙が届いた。先生方からも好評であり、今後も継続して実施していく。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	南伊勢町
番号	事業名				
2	森林環境教育事業				
事業費	179,300 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			179,000		
4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】					
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託 【実施方法の選定理由】 委託することで、専門的な立場から森林環境教育の重要性を認識した上で、適切な教育を実施することができるため。 【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約 【契約相手方の選定理由】 町の規定に基づき、随意契約を行なった。県民税を活用して設立されたみえ森づくりサポートセンターに森のせんせーとして登録がある方を選定した。 【事業費の積算根拠】 参考見積り					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がさるか。】					
【事業参加や整備施設等の公益性】 南島西小学校17名、南島東小学校10名、南勢小学校34名及び学校関係者に対して実施している。事業を継続して実施することは森林を大切に育む子どもたちを育成することであり、公益性に寄与していると判断している。 【公的関与の必要性】 通常の授業のほか、総合的な学習として森林環境教育を実施することは、これからの地域を支える子どもたちにとって重要である。森林環境教育を校外の先生が行うことで、子どもたちへの波及効果が高まることが期待できるため。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 森林環境教育事業であるため、転用等が想定されず、該当しない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用し、害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の手段（該当するものに○）】 ・HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ） ・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ） ・その他（方法： ）（場所： ） 【情報発信の対象】 南伊勢町民に対して情報発信を行った。 【情報発信の内容】 県民税を活用して森林環境教育事業を行ったことを写真入りで掲載した。					
7. 写真 別紙のとおり					
8. その他特記事項					

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 南伊勢町

事業名 森林環境教育事業

7. 写真

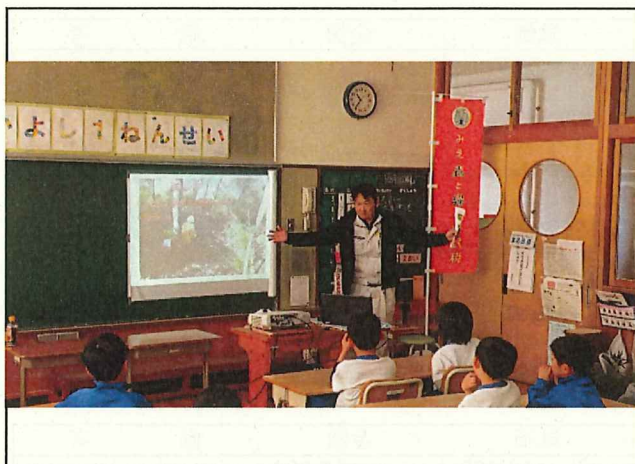


写真1

森林環境教育 南島東小学校 令和2年2月10日



写真2

森林環境教育 南島東小学校 令和2年2月10日



写真3

森林環境教育 南島西小学校 令和2年2月12日

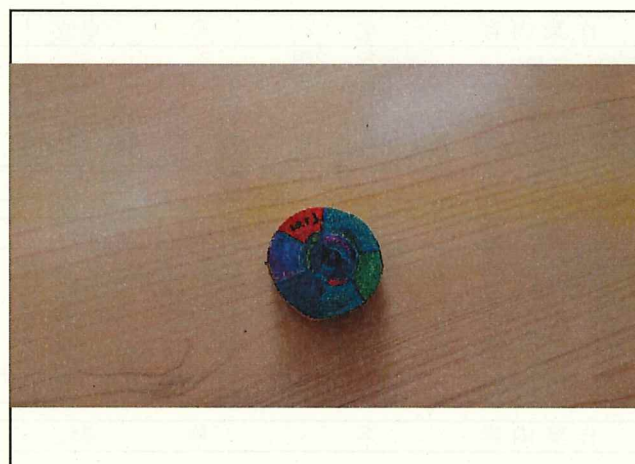


写真4

森林環境教育 木のマグネット完成品



写真5

森林環境教育 南勢小学校 令和2年2月18日

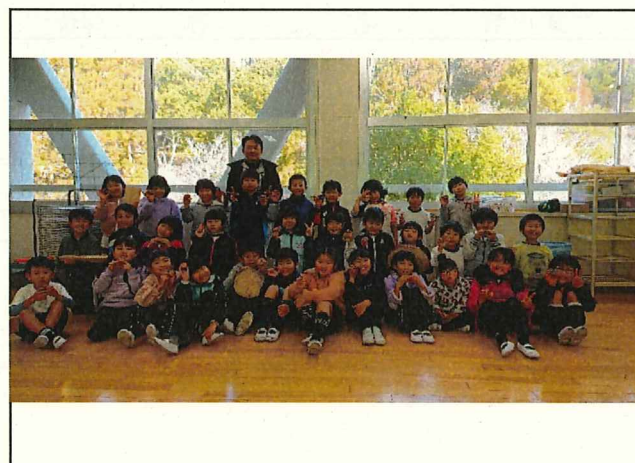


写真6

森林環境教育 南勢小学校 令和2年2月18日

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	南伊勢町
------	-------------	-----	------

事業名	森林環境教育事業
-----	----------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
森林環境教育	式	1.00			
直接費	校	3.00		149,450	
間接費	校	3.00		13,550	
消費税	%	10.00		16,300	
事業費				179,300	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
南島東小学校	講師料 2限	式	1.00	18,000	18,000	
	準備費	式	1.00	12,000	12,000	
	資材費	式	1.00	8,000	8,000	
	交通費	式	1.00	1,000	1,000	
	計				39,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
南島西小学校	講師料 2限	式	1.00	18,000	18,000	
	準備費	式	1.00	12,000	12,000	
	資材費	式	1.00	8,000	8,000	
	交通費	式	1.00	1,700	1,700	
	計				39,700	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
南勢小学校	講師料 2限	式	2.00	18,000	36,000	
	準備費	式	1.00	18,000	18,000	
	資材費	式	1.00	16,000	16,000	
	交通費	式	1.00	750	750	
	計				70,750	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	南伊勢町		
番 号	事 業 名				
3	阿曾浦公園ウッドチップ舗装整備事業				
事 業 費	7,580,100 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,580,000		100

1. 事業の目的	町民が利用する公園をウッドチップで木質化することにより、森林や木材、緑に対する理解や関心を深めるとともに、木にふれあう機会を増やし、誰もが身近に感じ、利用できるように4か年計画で整備する。
2. 事業実績概要	【事業内容】 公園をウッドチップで木質化することで、森林や木材、緑に対する理解や関心を深めるとともに、誰もが身近に木にふれあう機会を増やす。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 南伊勢町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない 【箇所数】 1箇所（阿曾浦） 【事業量】 316㎡のウッドチップ舗装（1,290㎡の公園を4か年計画で舗装） 【事業実施期間】 令和元年9月26日～令和元年12月24日 ※4か年計画のうち2年目 【受益者、参加者、利用者数等】 阿曾浦 702名 当該公園は区民が集う憩いの場であり、子どもたちや高齢者が安全快適に過ごすことに寄与している。
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 公園をウッドチップで整備することで、子どもから高齢者までが身近に森林や木材にふれる機会を増やし、また園児や小学生については裸足で遊べるような場として、さらに木と直接ふれあう機会を創出する。また、砂が多い場所であり、舗装することで飛散を防いでいる。 【事業実施により得られた効果】 公園の整備が一部未完成の部分があるため、森林とふれあう機会はまだまだ少ないが、完成すればさらに理解が深まり喜ばれることが期待される。また、ウッドチップ舗装は滑りにくい上にクッション性も高く、また水はけが良いのでコケも生えにくいことから、子どものケガの防止や高齢者の膝への負担が少なく景観も損なわないことより心身の健康面での効果が期待される。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 町が維持管理を行い、区民が日常的に活用できるようにしていく。 阿曾浦区の大きなイベントである夏祭り等をこの公園で実施して活用する。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 区長や区民より、砂の飛散が少なくなったことや、クッション性があって利用しやすいと感謝の声が上がってきている。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	南伊勢町
------	--------------------	-----	------

番号	事業名				
3	阿曾浦公園ウッドチップ舗装整備事業				
事業費	7,580,100 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,580,000		100

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
工事請負
【実施方法の選定理由】
町が管理する施設であるため
【契約方法と落札率または補助率等】
指名競争入札。落札率97.8%
【契約相手方の選定理由】
町の規定に基づき、町内に本店を有する舗装（Aランク・Bランク）業者から、指名競争入札で選定した。
【事業費の積算根拠】
治山林道必携の公園工事及び見積もりによる

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】
【事業参加や整備施設等の公益性】
阿曾浦 702名
当該公園は区民が日常使用する公園であり、子どもたちから高齢者まで安全安心に活用できる。
【公的関与の必要性】
町が管理する施設であるため。子どもから高齢者まで広く木材に触れながら活用してほしいことや、砂の飛散で区民が困っていたこともあり、優先的に公的な整備が必要であった。
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
公共施設の整備であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】
【情報発信の手段（該当するものに○）】
・HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
・チラシ配布（配布対象者： ） ○チラシ掲示（掲示場所： 区の掲示板 ）
・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
・その他（方法： ）（場所： ）
【情報発信の対象】
阿曾浦区民に対して情報発信を行った。完成に際してはより広く周知していく。
【情報発信の内容】
区の掲示板上に「県民税」のチラシを貼ってPRした。また、区長から利用者にも周知を行ってもらった。

7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 南伊勢町

事業名 阿曽浦公園ウッドチップ舗装整備事業

7. 写真



写真1

阿曽浦公園 ウッドチップ舗装 前



写真2

阿曽浦公園 ウッドチップ舗装 後



写真3

阿曽浦公園 ウッドチップ舗装 前



写真4

阿曽浦公園 ウッドチップ舗装 後



写真5

阿曽浦公園 ウッドチップ舗装



写真6

阿曽浦公園 ウッドチップ舗装

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	南伊勢町
------	--------------------	-----	------

事業名	阿曾浦公園ウッドチップ舗装整備事業
-----	-------------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
純工事費	式	1		4,254,000	
現場管理費	式	1		1,804,000	
一般管理費	式	1		833,000	
消費税	%	10		689,100	
事業費				7,580,100	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
純工事費	舗装工	式	1		3,840,000	
	共通仮設費	式	1		414,000	
		式	1			
		%	10			
	計				4,254,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

南伊勢町

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	② 意向調査	1,581	1,581
2	⑰ 基金積立（森林整備等）	10,199	10,199
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	11,780	11,780

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

名張市

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

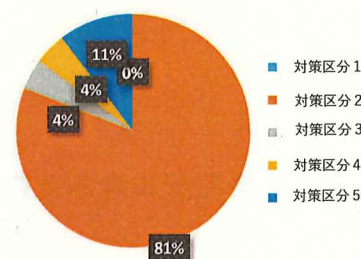
市町名	名張市	三重県
人口（人）	76,729	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	12.4%	12.4%
森林面積(ha)	6,835.43	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	6,835.43	348,833.49
森林率(%)	53.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	13.3	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）						内当年度 交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	2	危険木伐採事業	5,500,000	5,500,000		5,500,000				5,500,000
2	5	森林公園等環境活用整備事業	900,000	900,000					900,000	900,000
3	2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	1,368,425	1,368,425		1,368,425				1,368,425
4	2	人家裏危険木伐採事業	2,440,000	2,440,000		2,440,000				2,440,000
5	4	学校林整備事業	500,000	500,000				500,000		500,000
6	3	森林環境教育推進事業	100,000	100,000			100,000			100,000
7	5	桧並木保全管理事業	300,000	300,000					300,000	300,000
8	3	みて・さわって・森のわくわく体験事業	396,000	396,000			396,000			396,000
9	-	みえ森と緑の県民税市町交付金積立事業	781,575	0						781,575
計			12,286,000	11,504,425	0	9,308,425	496,000	500,000	1,200,000	12,286,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	10.94	3,960,000	3,960,000	
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	名張市では「暮らしに身近な森林づくり」に優先的に取り組み、市民が安全に生活を送れるように、道路沿いなどで繁茂している木々の伐採や、人家裏にあって倒木の恐れのある危険木の伐採費用を補助することによって、生活環境の向上を図っています。また、児童の森林環境教育を積極的に推進しており、地域の自然を大切にし身近な森林環境をつくるボランティア団体の活動を支援することで、保育・幼稚園児～小学生が森林や緑を楽しむ環境を整備しています。
事業実施により得られた効果	「災害に強い森林づくり」に沿った事業を実施するまでは、あまり手入れをされることなく放置され、市民の生活圏を脅かしていた森林が整備されたことにより、市民がより安心して暮らせるようになった。また、「県民全体で森林を支える社会づくり」に沿った事業の実施により、森林への関心が高まる昨今において、森林環境教育を推進し、次代を担う子どもたちが森林や緑に対する関心を深めることで森林の重要な役割に気付くきっかけづくりとなった。
情報発信への取組	事業内容やその成果については広報誌及びHP、ラジオ放送により、広く市民に周知している。また、事業実施現場にはのぼり旗や看板を設置することで、みえ森と緑の県民税の存在を最大限周知できるよう努めた。保育・幼稚園、小学校関連の事業については、保護者だより等で事業実施を周知に財源にはみえ森と緑の県民税が活用されていることを記載した。 ほかに、秋の農産物等イベント（とれたて!なばり2019）で、三重森づくりサポートセンターや三重県伊賀農林事務所とともに、木育ブース・木製おもちゃ体験の実施、みえ森と緑の県民税に関するパネル展示やみえ森と緑の県民税に関するアンケート等を実施し、名張市役所庁舎内で、みえ森と緑の県民税に関するパネル展示、アンケートを実施し、県民税の周知に努めた。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	名張市
番号	事業名				
1	危険木伐採事業				
事業費	5,500,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,500,000	0	0

1. 事業の目的

市道、通学路等及び市有施設の周辺や緑地（市有地）にあって、倒木の恐れがある危険木の伐採を行い、道路施設・公共施設や市民の財産を保全し、暮らしの安心・安全を確保する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市道、通学路、スクールバス通行路及び市が所有する公共性・公益性の高い施設（小学校・中学校・保育所・幼稚園・公民館・市民センター・図書館等）の周辺にあって、台風等により倒木の恐れのある危険木の伐採を行う。また、緑地（市有地）にあって、台風等により道路や周辺の人家等に倒木の恐れのある危険木の伐採を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

名張市

【補助率等】

補助事業ではないため該当しない。

【箇所数】

23箇所

【事業量】

危険木伐採除去箇所数 23箇所

【事業実施期間】

平成31年4月1日～令和2年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

名張市民（77,891人）【R2.4.1時点】

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

地域住民及び学校関係者の声や、市による現地確認等により、危険性や緊急性等を総合的に検討し、優先順位を決定した。

【事業実施により得られた効果】

通学路沿いの危険木を除去したことにより、災害時等に倒木の危険が無くなり、子ども達の通学時の安心・安全が確保された。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

実施箇所は、市道沿いであるため、市民の通行の妨げになる可能性もあり、税をPRする看板を設置することは難しい。しかし、今後、市広報や学校教育の場において、住民に森林づくりの重要性を周知していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

地域住民や学校関係者等に、「道路に覆いかぶさっていた木が無くなって安心できる。」等の声をいただいた。今後も、通学路の安全が維持されるよう、パトロールを行い、危険木が発見した場合には早急に対応していく。

24-3

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	危険木伐採事業				
事 業 費	5,500,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,500,000	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

市による委託契約

【実施方法の選定理由】

市有地にある災害時等に倒木等の恐れがある危険木の中でも、緊急性の高い通学路沿いの整備が進んだ。

【契約方法と落札率または補助率等】

市の契約関係規則に基づき、23件を実施

【契約相手方の選定理由】

設計の範囲内であったため、全て見積り業者と契約している。

【事業費の積算根拠】

職員が造園修景積算マニュアル等によって詳細に設計

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

市道や緑地の安全性の確保により、通行する可能性のある名張市民全員が受益を受けられる。

【公的関与の必要性】

市が所有する緑地等の立木を伐採することから、市が実施する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）

○その他（方法：のぼり旗）（場所：作業現場）

【情報発信の対象】

危険木立木箇所付近に居住する、または付近を通行する者

【情報発信の内容】

市のHPや広報紙に掲載した。

また、のぼり旗を設置することで事業を周知すると共に県民税を活用していることをPRした。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	名張市
-----	-----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7. 写真



写真1

伐採作業実施前【梅が丘北1番町】



写真2

伐採作業完了【梅が丘北1番町】



写真3

伐採作業実施前【つつじが丘北4番町緑地】



写真4

伐採作業完了【富貴ヶ丘4番町緑地】

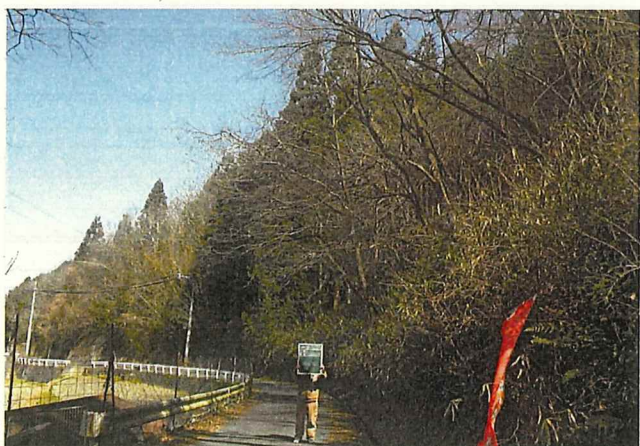


写真5

伐採作業前【市道下比奈知夏見線】



写真6

伐採作業後【市道下比奈知夏見線】

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
通学路沿い等樹木伐採作業	箇所	23.00		5,500,000	
事業費				5,500,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
八幡工業団地5号 緑地	樹木伐採作業	式	1.00		256,500	
	消費税額				20,520	
	計				277,020	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
八幡工業団地5号 緑地	樹木伐採作業	式	1.00		256,500	
	消費税額				20,520	
	計				277,020	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
つつじが丘北8番 町緑地	樹木伐採作業	式	1.00		214,000	
	消費税額				17,120	
	計				231,120	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
市道下比奈知つつ じが丘線	樹木伐採作業	式	1.00		264,000	
	消費税額				21,120	
	計				285,120	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
つつじが丘南5番 町緑地	樹木伐採作業	式	1.00		37,037	
					2,963	
	計				40,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
市道里緑ヶ丘線	樹木伐採作業	式	1.00		277,000	
	消費税額				22,160	
	計				299,160	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
市道里緑ヶ丘線	樹木伐採作業	式	1.00		277,000	
	消費税額				22,160	
	計				299,160	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
市道新田蔵持線	樹木伐採作業	式	1.00		275,000	
	消費税額				22,000	
	計				297,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
市道桜ヶ丘12号線	樹木伐採作業	式	1.00		82,000	
					8,200	
	計				90,200	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
桔梗が丘西4号緑 地	樹木伐採作業	式	1.00		270,000	
	消費税額				27,000	
	計				297,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
市道新田南古山線	樹木伐採作業	式	1.00		272,000	
	消費税額				27,200	
	計				299,200	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
つつじが丘南2番 町緑地	樹木伐採作業	式	1.00		90,000	
	消費税額				9,000	
	計				99,000	
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
市道鹿高8号線外	樹木伐採作業	式	1.00		272,000	
	消費税額				27,200	
	計				299,200	
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
市道夏見青蓮寺線	樹木伐採作業	式	1.00		272,000	
	消費税額				27,200	
	計				299,200	
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
市道下比奈知夏見 線	樹木伐採作業	式	1.00		270,000	
	消費税額				27,000	
	計				297,000	
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
春日丘1号緑地	樹木伐採作業	式	1.00		270,000	
	消費税額				27,000	
	計				297,000	
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
桔梗が丘5番町地 内	樹木伐採作業	式	1.00		85,400	
	消費税額				8,540	
	計				93,940	
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
桔梗が丘8番町緑 地	樹木伐採作業	式	1.00		74,400	
	消費税額				7,440	
	計				81,840	
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
つつじが丘北4番 町緑地	樹木伐採作業	式	1.00		259,600	
	消費税額				25,960	
	計				285,560	
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
つつじが丘北4番 町緑地	樹木伐採作業	式	1.00		266,300	
	消費税額				26,630	
	計				292,930	
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
緑ヶ丘中緑地	樹木伐採作業	式	1.00		272,000	
	消費税額				27,200	
	計				299,200	
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
梅が丘北1番町緑 地	樹木伐採作業	式	1.00		254,600	
	消費税額				25,460	
	計				280,060	
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
すづらん台西2番 緑地	樹木伐採作業	式	1.00		166,427	
	消費税額				16,643	
	計				183,070	

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり			市町名	名張市
------	--------------------	--	--	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	森林公園等環境活用整備事業				
事 業 費	900,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			900,000	0	0

1. 事業の目的

市民の憩いの場である森林公園などを地域住民らによるボランティアで整備することにより、住民の森林や緑に対する理解をさらに深めるとともに、自然に親しむ豊かな生活環境を作る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

事業内容は次の通り。

①東山ふれあいの森：多くの住民が自然に親しむ公園として利用できるよう、倒木等を整理し、遊歩道を整備した。

②桔梗が丘10号公園：森林環境教育や地域の植樹イベントなどに利用できるよう、ナラ枯れなどによる枯れ木や倒木の整理、苗木の購入・植栽などを行い、里山としての保全活動を進めた。

③箕曲地内の森林：箕曲地内の森林を森林公園として利用できるよう、遊歩道や木製ベンチ等を整備した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

市内地域づくり組織（ひなち地域ゆめづくり委員会、桔梗が丘自治連合協議会、箕曲地域づくり委員会）

【補助率等】

定額補助（上限300千円）（東山ふれあいの森、桔梗が丘10号公園、箕曲地内の森林）

【箇所数】

3箇所

【事業量】

東山ふれあいの森：17.08ha 遊歩道・駐車場の整備、立木の除去・剪定、除草、注意喚起看板設置

桔梗が丘10号公園：3.20ha 枯れ木の伐倒、植樹イベントでの植樹、遊歩道の整備

箕曲地内の森林：0.20ha 枯れ木の伐倒、植樹、除草、ベンチの整備

【事業実施期間】

令和元年5月23日～令和2年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

整備によって森林に親しむ豊かな生活環境が向上する地域住民：

比奈知地域：人口1,237人、580世帯 桔梗が丘：人口8,557人、3,876世帯

箕曲地域：人口2,706人、1,345世帯（人口統計資料）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

地域づくり組織からの補助申請箇所について、職員が書類確認、聞き取り、現地確認等により現状を確認し、実施の必要性を検討して交付を決定している。

【事業実施により得られた効果】

公園整備を住民主体の地域づくり活動の一環として実施することにより、愛着や親しみが生まれ、それによって優しく公園を利用し、市民がこころ豊かな生活が送れるようになった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

今回の整備によって、身近な森林公園の整備の必要性を再認識しており、今後も引き続き、地域づくり組織によって実施後の状況が保たれるよう管理される。購入した備品は今後も公園の管理に活用される。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

地域づくり組織からは、「今回の補助によって、イベントや整備活動を通じて地域住民の交流を深めることができた。」

「子どもたちの森林環境教育に活用することができ、やりがいを感じた。」との声をいただいている。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり			市町名	名張市
番号	事業名				
2	森林公園等環境活用整備事業				
事業費	900,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			900,000	0	
4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】					
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】					
補助事業					
【実施方法の選定理由】					
地域住民が自ら整備することにより、地域で親しまれ、使いやすい森林公園になる。また、地域住民が公園に愛着とで、より公園を大切にしていっきかけとなる。					
【契約方法と落札率または補助率等】					
補助率：定額補助（森林公園等を地域づくり組織が自ら整備し、維持し、又は管理する事業に要する経費）					
【契約相手方の選定理由】					
補助事業であるため、該当しない。					
【事業費の積算根拠】					
森林公園等を地域づくり組織が自ら整備し、維持し、又は管理する事業に要する経費を補助対象としており、職員より支出内容を確認している。					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫ができたか。】					
【事業参加や整備施設等の公益性】					
事業は地元住民のボランティア活動によって実施					
【公的関与の必要性】					
実施箇所は市の所有地や都市公園のため、公的関与の必要がある。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
実施箇所は市の所有地や都市公園のため、転用等の可能性は無い。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用しに強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の手段（該当するものに○）】					
○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映					
○チラシ配布（配布対象者：地域づくり住民） ・ポスター掲示（掲示場所： ）					
・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）					
○その他（方法：のぼり旗、標柱 ） （場所：整備した公園内 ）					
【情報発信の対象】					
整備する公園の利用者					
【情報発信の内容】					
市のHPや広報紙に掲載した。					
また、標柱やのぼり旗を設置することで、事業を周知すると共に県民税を活用していることをPRした。					
7. 写真					
別紙のとおり					
8. その他特記事項					

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり
------	--------------------

市町名	名張市
-----	-----

事業名	森林公園等環境活用整備事業
-----	---------------

7. 写真

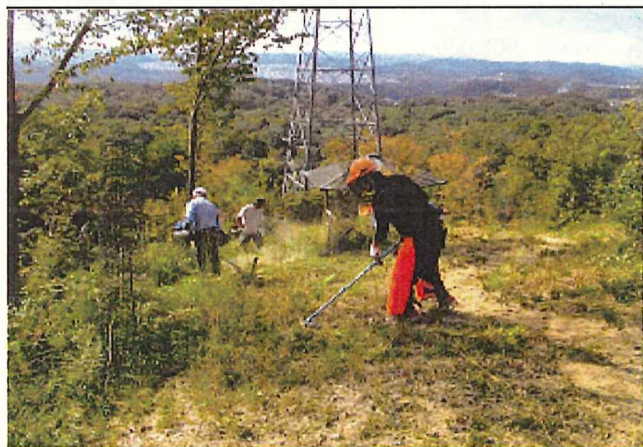


写真1

除草作業【東山ふれあいの森】



写真2

伐木の運搬作業【東山ふれあいの森】



写真3

植樹作業【桔梗が丘10号公園】



写真4

植樹作業後状況【桔梗が丘10号公園】



写真5

枯木伐採作業【箕曲地内の森林】



写真6

ベンチの設置と植樹後状況【箕曲地内の森林】

事業名	森林公園等環境活用整備事業
-----	---------------

作業内容	単位	数量	単価	金額	備 考
東山ふれあいの森整備	箇所	1.00	300,000	300,000	
桔梗が丘10号公園整備	箇所	1.00	300,000	300,000	
箕曲地内の森林	箇所	1.00	300,000	300,000	
事業費			900,000	900,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
桔梗が丘１０号公園整備	植樹用苗木	本	1.00		28,200	
	機材・消耗品等	式	1.00		274,950	
	自己資金による減額				-3,150	
	計				300,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	名張市
番 号	事 業 名				
3	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事 業 費	1,368,425 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,368,425	0	0

1. 事業の目的	森林所有者による未利用間伐材の利用を推進することにより、木質バイオマス資源の活用を図ると共に、森林の水土保全機能の回復を図る。 間伐材の搬出困難等で森林内に放置されている未利用間伐材を名張市内の森林から搬出及び運搬する経費の支援を助成することで搬出を促進し、木質バイオマス燃料として活用するとともに、森林の持つ多面的機能の向上を図る。
2. 事業実績概要	【事業内容】 木質バイオマスの促進を図るため、未利用間伐材を名張市内の山林から伊賀管内のF I Tに基づく木質バイオマス燃料買取実施場所まで搬出及び運搬に要する経費を助成した。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 名張市内の森林において木質バイオマス用未利用間伐材の搬出を行う者として名張市に登録した者 【補助率等】 定額補助(2,500円/トン) 【箇所数】 補助事業実施者：9名 【事業量】 未利用間伐材の搬出 547.37トン 【事業実施期間】 平成31年4月1日～令和2年3月31日 【受益者、参加者、利用者数等】 受益者：補助事業実施者 6名
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 補助事業実施者により選定 【事業実施により得られた効果】 利用率の低い未利用間伐材のバイオマス資源利用が推進された。また、未利用残材の処理を推進することにより、水土保全機能の回復、災害時の林地残材の流失防止に繋がった。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 森林所有者によって管理 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 補助事業実施者からは、本補助事業によって「林地残材の搬出に取り組みやすくなった。今後もこの補助を活用して山の整備を行いたい。」といった意見があった。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
3	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事 業 費	1,368,425 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,368,425	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助事業

【実施方法の選定理由】

補助事業のため、該当しない。

【契約方法と落札率または補助率等】

補助率：定額補助（2,500円/トン）

【契約相手方の選定理由】

補助事業のため、該当しない。

【事業費の積算根拠】

名張市内の山林から搬入先事業所までの間伐材の搬出・運搬経費を上回らない額

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

市内各地の山林から資材が搬出されることで、森林の水土保持機能の回復がなされ、森林の持つ多面的機能の向上が図られたため、地元住民へと還元される。

【公的関与の必要性】

名張市では未利用間伐材の利用推進及び、木質バイオマス資源の活用を図っているため、市が関与し実施する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者が適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）

○その他（方法：のぼり旗 ） （場所：木質バイオマス燃料買取り実施場所）

【情報発信の対象】

市内の林家

【情報発信の内容】

市のHPや広報紙に掲載した。

また、木質バイオマス燃料買取実施場所にのぼり旗を設置することで事業を周知すると共に県民税を活用していることをPRした。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	名張市
-----	-----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

7. 写真



写真1

搬出状況



写真2

搬出状況



写真3

搬出状況



写真4

搬出材



写真5

搬出材



写真6

PRのぼり旗

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
間伐材の搬出・運搬にかかる経費補助	t	547.37	2,500	1,368,425	
事業費		547.37	2,500	1,368,425	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
未利用間伐材搬出 森林の所在地（神 屋）	搬出経費	t	8.32	2,500	20,800	
	計		8.32	2,500	20,800	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
未利用間伐材搬出 森林の所在地（奈 垣）	搬出経費	t	5.16	2,500	12,900	
	計		5.16	2,500	12,900	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
未利用間伐材搬出 森林の所在地（長 瀬）	搬出経費	t	246.32	2,500	615,800	
	計		246.32	2,500	615,800	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
未利用間伐材搬出 森林の所在地（布 生）	搬出経費	t	87.88	2,500	219,700	
	計		87.88	2,500	219,700	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
未利用間伐材搬出 森林の所在地（布 生）	搬出経費	t	16.61	2,500	41,525	
	計		16.61	2,500	41,525	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
未利用間伐材搬出 森林の所在地（神 屋）	搬出経費	t	6.11	2,500	15,275	
	計		6.11	2,500	15,275	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
未利用間伐材搬出 森林の所在地（長 瀬）	搬出経費	t	59.29	2,500	148,225	
	計		59.29	2,500	148,225	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
未利用間伐材搬出 森林の所在地（布 生）	搬出経費	t	102.44	2,500	256,100	
	計		102.44	2,500	256,100	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
未利用間伐材搬出 森林の所在地（美 旗中村）	搬出経費	t	15.24	2,500	38,100	
	計		15.24	2,500	38,100	

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	名張市
番 号	事 業 名				
4	人家裏危険木伐採事業				
事 業 費	2,440,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,440,000	0	0

1. 事業の目的

人家裏にある危険木の伐採をすることで、災害を未然に防止し住民の通常の暮らしの安心・安全を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

人家裏にあり、災害時等に倒木の危険がある木で、おおむね樹高が人家と木との距離以上の木の伐採について、伐採に要する費用のうち1本あたり10,000円以内で助成を行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

地域住民

【補助率等】

1本あたり10,000円以内での補助（上限 300,000円）

【箇所数】

11箇所

【事業量】

648本の危険木を伐採

【事業実施期間】

平成31年4月1日～令和2年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

11世帯

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

補助事業申請から人家裏にあり、災害時等に倒木の危険がある木で、おおむね人家と木との距離が樹高以下の木を選定

【事業実施により得られた効果】

災害時等に人家に危険を及ぼす恐れのある樹木の伐採により、災害を未然に防止し、住民の通常の暮らしの安心・安全が確保された。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

森林所有者によって管理

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

補助事業実施者からは、本補助事業によって「実施前は災害のたび倒木の心配をしていたが、今では安全に生活をおくっている。」などの反応があった。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり		市町名		名張市	
番 号	事 業 名					
4	人家裏危険木伐採事業					
事 業 費	2,440,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			2,440,000	0	0	
4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】						
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助事業 【実施方法の選定理由】 補助事業のため該当しない。 【契約方法と落札率または補助率等】 1本あたり10,000円以内での補助（上限 300,000円） 【契約相手方の選定理由】 補助事業のため、該当しない。 【事業費の積算根拠】 参考見積りによる。						
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】						
【事業参加や整備施設等の公益性】 市内11の地域で事業を実施し、幅広く受益を受けることができた。 【公的関与の必要性】 災害を未然に防止し住民の通常の暮らしの安心・安全を図るため、市が関与し実施する必要がある。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 森林所有者が適切に管理する。						
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】						
【情報発信の手段（該当するものに○）】 ○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ） ・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ） ○その他（方法：のぼり旗 ） （場所：作業現場 ） 【情報発信の対象】 事業実施箇所を通る地元住民 【情報発信の内容】 市のHPや広報紙に掲載した。 また、作業現場にのぼり旗を設置することで、事業を周知すると共に県民税を活用していることをPRした。						
7. 写真						
別紙のとおり						
8. その他特記事項						

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	名張市
-----	-----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

7. 写真



写真1

事業実施後（百々）



写真2

事業実施後（つつじが丘）



写真3

事業実施後（黒田）



写真4

事業実施後（奈垣）



写真5

事業実施後（滝之原）



写真6

事業実施後（滝之原）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
人家裏危険木伐採事業	箇所	648.00	3,765	2,440,000	
事業費				2,440,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
百々	人家裏危険木伐採	式	51.00	5,882	300,000	
	計				300,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
大屋戸	人家裏危険木伐採（税込）	式	6.00	10,000	60,000	
	計				60,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
上比奈知	人家裏危険木伐採（税込）	式	30.00	10,000	300,000	
	計				300,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
東田原	人家裏危険木伐採（税込）	式	20.00	10,000	200,000	
	計				200,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
平尾	人家裏危険木伐採	式	25.00	10,000	250,000	
	計				250,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
つつじが丘	人家裏危険木伐採（税込）	本	400.00	750	300,000	
	計				300,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
黒田	人家裏危険木伐採（税込）	式	6.00	10,000	60,000	
	計				60,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
奈垣	人家裏危険木伐採（税込）	式	40.00	7,500	300,000	
	計				300,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
赤目町一ノ井	人家裏危険木伐採（税込）	式	7.00	10,000	70,000	
	計				70,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
赤目町長坂	人家裏危険木伐採（税込）	式	33.00	9,091	300,000	
	計				300,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
滝之原	人家裏危険木伐採（税込）	式	30.00	10,000	300,000	
	計				300,000	

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり			市町名	名張市
番号	事業名				
5	学校林整備事業				
事業費	500,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			500,000	0	0

1. 事業の目的

これまで放置され、荒廃が進んでいた学校林を整備することにより、小学生が学校生活において森林に親しむ豊かな環境を再生し、森林や緑に対する理解を深める機会を創出する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

小学校の荒廃していた学校林において、危険木や枯損木の除伐、歩道の整備、古タイヤを活用した遊具などの整備を行った。さらに、整備した学校林において、木育体験として間伐体験を実施することで森林の手入れの重要性等を学習し、森林や緑に対する理解をより深める。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

薦原地域づくり委員会

【補助率等】

全額補助

【箇所数】

1箇所（薦原小学校 学校林）

【事業量】

学校林までのアクセス道整備、山林広場整備
「森の先生」を招いて間伐の見学や丸太運び体験の実施
学校林面積 1,334㎡

【事業実施期間】

平成31年4月1日～令和2年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

受益者：学校林を活用する薦原保育所・薦原小学校の児童、PTA、地域団体 約200名

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

補助事業実施者により選定

【事業実施により得られた効果】

学校林を整備したことにより、学校林を活用した森林環境教育を行うことができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

学校林は今後も地域づくり組織等により、継続的に整備していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

参加児童は林業体験をする貴重な機会となった。学校関係者、地域ボランティアが多く参加し、整備した学校林を教育活動を行うことができる有益な場とすることができた。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市
------	-------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
5	学校林整備事業				
事 業 費	500,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			500,000	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助事業

【実施方法の選定理由】

補助事業のため該当しない。

【契約方法と落札率または補助率等】

全額補助

【契約相手方の選定理由】

補助事業のため、該当しない。

【事業費の積算根拠】

地域づくり組織が徴取した参考見積りによる。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

薦原小学校の児童のみでなく薦原保育所の児童も森林環境教育の場として活用した。また、市内の保育士への森林環境教育研修の会場としても活用した。

【公的関与の必要性】

森林環境教育の推進を図るため、市が関与し実施する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

所有者から学校林として継続使用することについて了承を得ており、今後も学校林として学校や地域が適切に管理していく。また、既に何十年に渡り学校林として提供を受けており、今後も学校林として学校授業などで継続利用していく予定であり、転用などは想定していない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

・パネル展示（展示場所： ） ○看板設置（設置場所：学校林内 ）

○その他（方法：のぼり旗 ） （場所：伐採箇所 ）

【情報発信の対象】

学校林を活用する児童、PTA、地域団体、保護者

【情報発信の内容】

市のHPや広報紙に掲載する。また、作業現場にのぼり旗を設置することで県民税を活用していることをPRした。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	名張市
-----	-----

事業名	学校林整備事業
-----	---------

7. 写真



写真1

森の先生による授業



写真2

森の先生による授業



写真3

森の先生による授業



写真4

森の先生による授業



写真5

整備後の学校林



写真6

整備後の学校林

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	名張市
-----	-----

事業名	学校林整備事業
-----	---------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
学校林整備	式	1.00	500,000	500,000	
事業費				500,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
学校林整備	学校林整備	式	1.00	500,000	500,000	
	計				500,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	名張市
番 号	事 業 名				
6	森林環境教育推進事業				
事 業 費	100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			100,000	0	0

1. 事業の目的	
全国的に森林環境教育の重要性が高まる中で、初等教育の過程において森林・自然への理解や関心を高めるため、小学校が森林教育を行う場合に補助する。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 市内小学校が実施する、森林公園・学校林等でのフィールドワークなどの体験型学習及び森林の公益的機能に関する学習会等、森林環境教育として相応しい活動内容の事業に対し、活動費用の補助を行った。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 桔梗が丘自治連合協議会 【補助率等】 全額補助 ただし、1校につき100,000円を上限とする。 【箇所数】 1校（桔梗が丘東小学校） 【事業量】 1校（桔梗が丘東小学校） 補助事業費：100,000円 【事業実施期間】 令和元年5月23日～令和2年3月31日 【受益者、参加者、利用者数等】 受益者：桔梗が丘東小学校 3,4年生 55名 参加したボランティアスタッフ 58名	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【実施箇所の選定理由】 桔梗が丘地内の小学生に自然環境の大切さ、里山の役割について学習の機会を設けるとともに、その保全の取り組みについて理解を深めるため。 【事業実施により得られた効果】 東山ふれあいの森を自然環境に関するクイズラリーをしながら散策し、自然環境と里山の役割について学習することができた。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 施設等整備ではなく、該当しない。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 児童は豊かな自然環境の中でのクイズラリーや木工体験に真剣に取り組み、ボランティアで参加した地域住民とも交流を深めることができた。先生方からも「貴重な機会をいただき大変ありがたい。今後も継続してほしい。」との声をいただいた。	

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
------	-------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
6	森林環境教育推進事業				
事 業 費	100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			100,000	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助事業

【実施方法の選定理由】

補助事業のため該当しない。

【契約方法と落札率または補助率等】

全額補助

【契約相手方の選定理由】

補助事業のため、該当しない。

【事業費の積算根拠】

桔梗が丘自治連合協議会が徴取した参考見積りによる。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

森林環境教育を受けた、桔梗が丘東小学校の3,4年生のみでなくボランティアに参加した桔梗が丘地内の住民も幅広く受益を受けた。

【公的関与の必要性】

森林環境教育の推進を図るため、市が関与し実施する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設等整備ではなく、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【媒体（該当するものに○）】

○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）

○その他（方法：のぼり旗）（場所：伐採箇所）

【上記の具体的な内容】

市のHPや広報紙に掲載することで、事業を周知すると共に県民税を活用していることをPRした。

【上記以外の広報活動】

学校だよりや学校のHPに活動内容を掲載した。

また、事業実施中にのぼり旗を設置することで県民税を活用していることをPRした。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分

3. 森を育む人づくり

市町名

名張市

事業名

森林環境教育推進事業

7. 写真

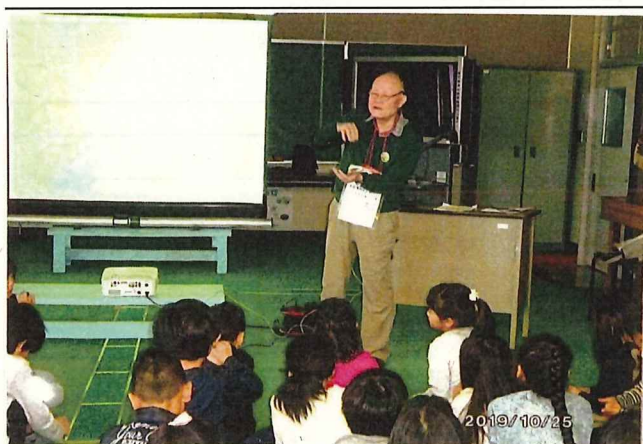


写真1

森林環境教育講座



写真2

集合写真



写真3

クイズラリー



写真4

クイズラリー



写真5

ボランティアスタッフ

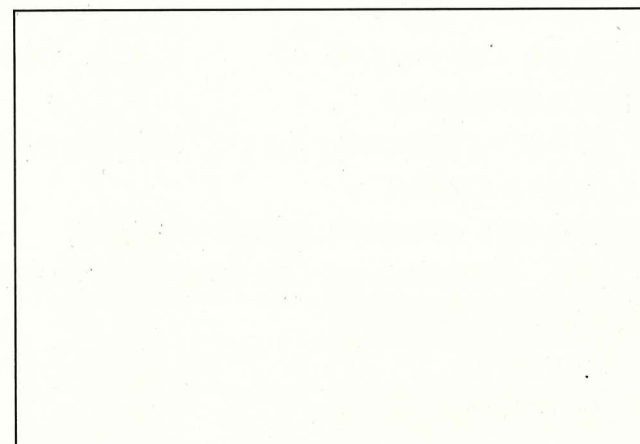


写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
------	-------------	-----	-----

事業名	森林環境教育推進事業
-----	------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
森林環境教育推進事業	式	1.00	100,000	100,000	
事業費				100,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
森林環境教育推進事業	学習用資材等購入費	式	1.00		100,083	
	自己資金による減額	式	1.00		-83	
	計				100,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり			市町名	名張市
------	--------------------	--	--	-----	-----

番 号	事 業 名				
7	桜並木保全管理事業				
事 業 費	300,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			300,000	0	0

1. 事業の目的

樹勢が衰え開花状況が悪くなった名張中央公園の桜並木に地域住民らがボランティアで施肥することにより、住民の森林や緑を思う気持ちの醸成や身近な緑に親しむ機会を創出する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

毎年多くの市民が参加する「名張桜まつり」の会場である名張中央公園の桜並木の樹勢が衰え、開花状況が悪くなっている。地域住民から子どもを中心に参加者を募り、ボランティア活動によって施肥を行うことで、森林を思う気持ちの醸成や樹木も適切に管理しなければ枯れてしまうこと、身近な森林に親しむためには手入れが必要であることが実感できる機会を創出する。さらに、森の働きや森林の手入れの重要性等について講義を行うことで森林への理解をより深める。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

名張市

【補助率等】

補助事業ではないため該当しない。

【箇所数】

1箇所（名張中央公園）

【事業量】

桜並木（約600m）への施肥料 300,000円

【事業実施期間】

令和元年12月14日

【受益者、参加者、利用者数等】

名張中央公園で毎年開催される「名張桜まつり」の参加者 約30,000人

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

毎年、多くの市民が参加する「名張桜まつり」において、来場者に美しい桜を見ることで自然に親しんでもらうため。

【事業実施により得られた効果】

多くの市民ボランティアの参加により、樹勢の衰えた桜の木に施肥を実施することができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

今後も名張桜まつりの開催を通じて、市民が自然に親しむことのできる機会を創出していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

参加したボランティアからは、「桜満開プロジェクトに参加して、名張の春の風物詩である桜まつりの開催に一役買うことができて良かった。」との声も聞かれた。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり			市町名	名張市
------	--------------------	--	--	-----	-----

番 号	事 業 名				
7	桜並木保全管理事業				
事 業 費	300,000 円	(財源内訳)	当年度交付金 300,000	市町基金 0	その他 0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

市民からボランティアを募り、施肥を実施

【実施方法の選定理由】

桜並木の管理を通じて、参加者に自然の大切さや管理の必要性等を理解いただくため、ボランティアを募集して実施することとした。

【契約方法と落札率または補助率等】

随意契約

【契約相手方の選定理由】

肥料取扱事業者への随意契約

【事業費の積算根拠】

事業者の参考見積による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

多くの市民ボランティアの参加し、名張中央公園で毎年開催される「名張桜まつり」の参加者 約30,000人が受益を受けた。

【公的関与の必要性】

「名張桜まつり」は市主催のイベントであり、桜を満開にイベントを成功させる為に市が関与し実施する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設等整備ではなく、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【媒体（該当するものに○）】

○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

○チラシ配布（配布対象者：地域住民 ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）

○その他（方法：のぼり旗 ） （場所：伐採箇所 ）

【上記の具体的な内容】

市のHPや広報紙に掲載し、またチラシを配布することで、事業を周知すると共に県民税を活用していることをPRする。

【上記以外の広報活動】

・名張桜まつり実行協議会が発行するチラシ等で事業参加者へ周知した。

・名張桜まつり開催中にチラシ等により事業成果の周知した。

・整備事業実施中のはのぼり旗や看板の掲示により事業の周知した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 名張市

事業名 桜並木保全管理事業

7. 写真

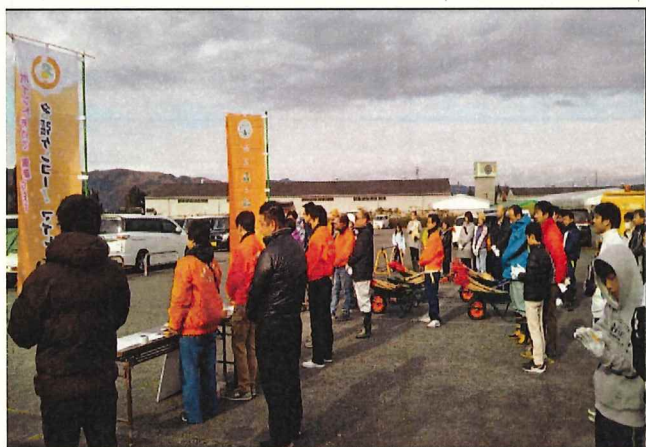


写真1

ボランティアスタッフ集合



写真2

ボランティアスタッフ集合



写真3

施肥状況



写真4

施肥状況



写真5

施肥状況



写真6

施肥状況

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

事業名	桜並木保全管理事業
-----	-----------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
桜並木保全管理事業	式	1.00	300,000	300,000	
事業費				300,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
桜並木保全管理事業	肥料購入費	式	1.00		300,000	
	計				300,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	名張市
------	-------------	--	--	-----	-----

番 号	事 業 名				
8	みて・さわって・森のわくわく体験事業				
事 業 費	396,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			396,000	0	0

1. 事業の目的

上野森林公園内の探検や木製品の製作を通し、森の豊かな自然に親しみふれあう、野外体験保育を実施する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内公立保育所4施設と公立幼稚園2園が3グループに分かれ、上野森林公園を探検したり、自然物を使って製作を楽しんだ。

(①赤目保育所・錦生保育所 ②薦原保育所・大屋戸保育所 ③名張幼稚園・桔梗南幼稚園)

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

名張市

【補助率等】

補助事業ではないため該当しない。

【箇所数】

公立保育所4箇所・公立幼稚園2箇所

【事業量】

各グループ年1回実施

【事業実施期間】

令和2年1月10日、15日、16日、21日

【受益者、参加者、利用者数等】

錦生保育所 23名、赤目保育所 25名、桔梗南幼稚園 68名

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

上野森林公園では職員により、上野森林公園内の探検や木製品の製作時に森林や木々の形状、香り、肌触りについて講義を行っていただくことができる。

【事業実施により得られた効果】

森林公園での体験を通して、森林への興味関心を持つ素地を育成することができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

施設等整備ではなく、該当しない。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

参加した児童からは、「また来たい。」「お家の人と来る。」というような声が聞かれ、次も楽しみにしている姿が見られました。また、保護者からも「自然の中で気持ちよく普段できないあそびを楽しむことができました。自然の中で過ごすことで新たな発見や経験をさせていただきました。」という声が聞かれた。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
------	-------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
8	みて・さわって・森のわくわく体験事業				
事 業 費	396,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			396,000	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

借り上げたバスで上野森林公園まで移動し、森林公園の職員から森についての講義を受けた。

【実施方法の選定理由】

上野森林公園では職員により、上野森林公園内の探検や木製品の製作時に森林や木々の形状、香り、肌触りについて講義を行っていただくことができる。

【契約方法と落札率または補助率等】

隨意契約

【契約相手方の選定理由】

森林公園内の探索ができ、講義を受けることができるため、

【事業費の積算根拠】

事業者の参考見積による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

市内の公立保育・幼稚園児が参加した。

【公的関与の必要性】

森林環境教育の推進を図るため、市が関与し実施する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設等整備ではなく、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【媒体（該当するものに○）】

○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

○チラシ配布（配布対象者：保護者） ・ポスター掲示（掲示場所：）

・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）

・その他（方法： ） （場所： ）

【上記の具体的な内容】

市のHPや広報紙に掲載し、またチラシを配布することで、事業を周知すると共に県民税を活用していることをPRした。

【上記以外の広報活動】

事業実施後に保護者だよりを配布し、活動の趣旨や財源にみえ森と緑の県民税が活用されたことを周知した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	名張市
-----	-----

事業名	みて・さわって・森のわくわく体験事業
-----	--------------------

7. 写真



写真1

ぶんぶんこま回し



写真2

森林公園内探索



写真3

森の遊園地（ハンモック）



写真4

森の遊園地（松ぼっくり釣り）



写真5

森の遊園地（ロープの綱渡り）

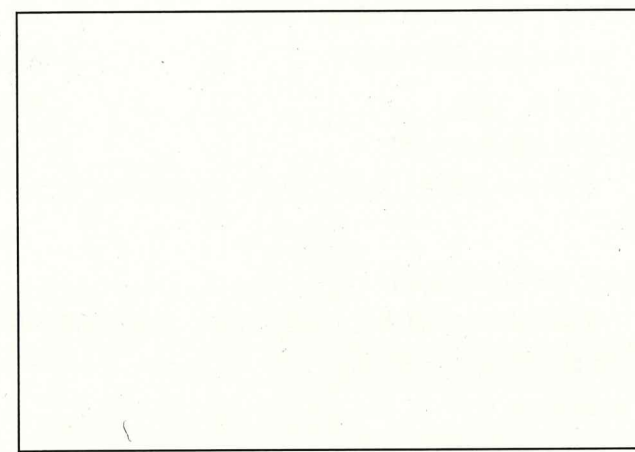


写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
------	-------------	-----	-----

事業名	みて・さわって・森のわくわく体験事業
-----	--------------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
森林公園バス研修	式	1.00	396,000	396,000	
事業費				396,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
自然体験プログラム実施による講師謝礼	報償費	式	1.00	132,000	132,000	
	計				132,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
自然体験プログラム実施による自動車借上げ料	自動車借上げ料	式	1.00	264,000	264,000	
	計				264,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

名張市

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	① 意向調査の準備作業	1,870	1,870
2	⑬ 木造公共建築物の整備等	6,000	6,000
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	7,870	7,870

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

伊賀市

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

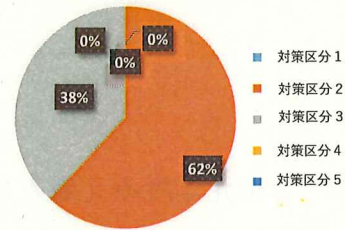
市町名	伊賀市	三重県
人口（人）	87,416	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	11.4％	12.4％
森林面積(ha)	33,951.95	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	32,598.85	348,833.49
森林率(％)	61.0％	64.0％
都市公園面積（㎡/人口）＊3	11.9	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）					内当年度 交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	
1	3	親子ではじめる木育推進事業	2,330,440	2,330,440			2,330,440		2,330,440
2	2	みんなの里山整備活動推進事業	6,071,000	6,071,000		6,071,000			6,071,000
3	3	伊賀の森っこ育成推進事業	2,391,952	2,391,952			2,391,952		2,391,952
4	3	地域の森と緑のつながり支援事業	800,000	800,000			800,000		800,000
5	2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	3,882,925	3,882,925		3,882,925			3,882,925
6	3	森のやすらぎ空間整備事業 （伊賀の木活用人材育成）	577,867	577,867			577,867		577,867
7	-	みえ森と緑の県民税市町交付金基金積立事業	5,553,816	0					5,553,816
計			21,608,000	16,054,184	0	9,953,925	6,100,259	0	21,608,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	67.34	19,987,000	19,987,000	現地調査及び調整伐等
森林再生力強化対策事業	—	—	—	—

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	当市の森林面積率は、61％であり、周囲が森林に囲まれた立地にある。そのような背景を踏まえ、災害に強い森林づくりと住民全体で森林を支える仕組みづくりの両立を図るため、暮らしに身近な森林を住民自らの手で整備する事業を推進しているとともに、木育を始めとして森林や緑を大切に思う人づくりに繋がる教育活動を支援する事業を推進している。
事業実施により得られた効果	みんなの里山整備活動推進事業では、事業を通して地域の山林として位置づけることで、維持管理する方向性が地区等で拡がっている。未利用間伐材バイオマス利用推進事業においても、木材搬出量が年々増加傾向にあり、森林所有者が間伐作業へ携わる機会の増大に貢献している。木育関連事業で実施したアンケートでは、木のぬくもりの良さについて回答する意見も見受けられ、森林の持つ重要性についての周知が進んでいる。
情報発信への取組	市民全体に周知を行うため、市内で放映されるCATV（伊賀上野ケーブルテレビ）を活用して、「みえ森と緑の県民税」の目的や必要性を周知した。伊賀市では、木育から森林整備まで幅広く事業展開している市町交付金事業の全事業について紹介し、中でも、「森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）」の紹介では、生徒がプレゼンテーションしている様子の写真や完成品の写真、配置箇所等を説明し、県民税を身近に感じられる内容で周囲した。また、市内の農産物等イベント（菜のはなまつり、海の幸・山の幸 物産まつり等）では、三重森づくりサポートセンターや三重県伊賀農林事務所とともに、木育ブースの展示・おもちゃ体験の実施や、みえ森と緑の県民税に関するアンケート等を実施したほか、伊賀市役所庁舎内では、みえ森と緑の県民税に関するパネル展示、アンケートを実施し、県民税の周知に努めた。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	伊賀市
番 号	事 業 名				
1	親子ではじめる木育推進事業				
事 業 費	2,330,440 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,330,440		

1. 事業の目的

親子での「木育」推進。
古くから「森」や「木」身近にあった伊賀市では、健やかな子どもの成長と森林の持続的整備に必要な適切な木材利用の推進を図り、森をささえる社会づくりにより地域そのものの価値を高める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

- ・幼児期からの「木育」と「食育」を関連させた事業として、親子共に木のぬくもりを共有できる物として、出生のお祝いに伊賀のヒノキの薫る木製フォトフレームをプレゼントする。
- ・1歳半検診時に木製（伊賀産材）のスプーンを、3歳児検診時に木製（三重県産材）の子ども用のお箸を保健師の手から、木育リーフレットの配布にあわせてプレゼントする。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

伊賀市

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

市内全域

【事業量】

フォトフレーム	出生時	240個
木のスプーン	1歳半検診時	630本
木の子ども用お箸	3歳児検診時	650膳

【事業実施期間】

平成31年4月1日～令和2年3月31日

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

乳幼児期から親子で木と触れ合える機会を幅広く提供するため。

【事業実施により得られた効果】

親子で木の薫りとぬくもりを感じることで、ふれあいを通じた「木育」「食育」を組み合わせた子どもの健全育成

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

施設整備等ではなく、該当しない。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

「木育」のチラシと共に直接プレゼントしており、三重県産材及び伊賀産材であるため好評が続いている。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	親子ではじめる木育推進事業				
事 業 費	2,330,440 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,330,440		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】					
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 入札（スプーン、箸）、物品の購入、配布 【実施方法の選定理由】 伊賀産材、三重県産材を指定、みえ森と緑の県民税を活用した事業であることを伝え、可能な限り手渡しできる方法を選定 【契約方法と落札率または補助率等】 木のスプーン、木のお箸については一般競争入札、木製フォトフレームについては市規定により発注購入した。 【契約相手方の選定理由】 会計規則に基づき、木のスプーン、木のお箸については一般競争入札、木製フォトフレームについては市内の木材取引実績のある事業者への発注 【事業費の積算根拠】 去年度実績及び参考見積により積算し入札					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【事業参加や整備施設等の公益性】 出生され、伊賀市に住民登録された児童を対象 保健師より「木育」のチラシと共に直接プレゼント 検診対象児全員 【公的関与の必要性】 多くの市民（乳幼児）に木育による木のぬくもりを感じてもらうため。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の手段（該当するものに○）】 ○HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ○テレビ（行政チャンネル）放映 ○チラシ配布（配布対象者：木製品を配布される人） ・ポスター掲示（掲示場所： ） ○パネル展示（展示場所：市庁舎等 ） ・看板設置（設置場所： ） ・その他（方法： ）（場所： ） 【情報発信の対象】 木製品を配布された乳幼児・親、市民 【情報発信の内容】 ・スプーンやお箸と共に、チラシを活用してみえ森と緑の県民税や木育についての告知した。 ・市民全体にPRをするため、行政TVを活用してみえ森と緑の県民税の必要性や各事業の告知を行った。					
7. 写真					
別紙のとおり					
8. その他特記事項					

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	伊賀市
-----	-----

事業名	親子ではじめる木育推進事業
-----	---------------

7. 写真



写真1
フォトフレーム（表面）



写真2
フォトフレーム（表面）



写真3
フォトフレーム、お箸、スプーン



写真4
配布チラシ（木育推進ver.）



写真5
親子ではじめる木育推進事業チラシ

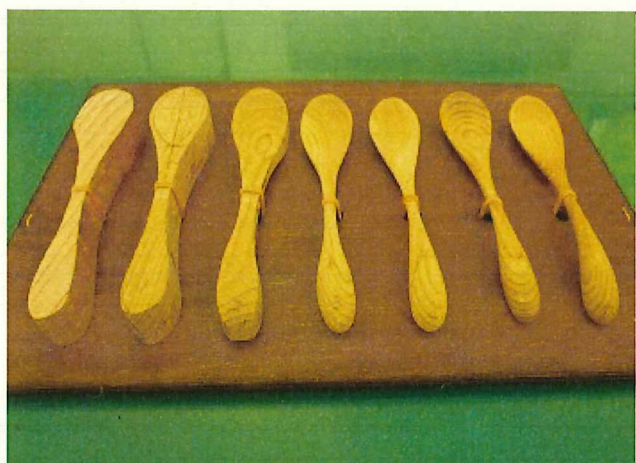


写真6
スプーンのイメージ

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	伊賀市
-----	-----

事業名	親子ではじめる木育推進事業
-----	---------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
木製スプーン	本	630.00	1,900	1,316,700	
木製子ども用箸	膳	650.00	1,000	715,000	
木製フォトフレーム	個	240.00	1,100	290,400	
封筒				5,719	
切手				770	
チラシ用ラベル				1,851	
事業費				2,330,440	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	伊賀市
番 号	事 業 名				
2	みんなの里山整備活動推進事業				
事 業 費	6,071,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,071,000		

1. 事業の目的

地域住民の主体的な参加のもと、地域や生活に密着した緑の環境づくりや里山・竹林の再生をするための自治会等が行う活動に支援することにより、地域住民による持続的な森を支える社会づくりを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

緑の環境づくりや生活に密着した里山の再生、荒廃竹林や危険木伐採を行う自治会等の地域ボランティア活動に対して、その活動に必要な費用を補助金として交付する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

地域住民が組織する自治会等の団体

【補助率等】

対象活動に必要な用具費等の経費 10/10 （ただし。上限25万円/団体）

【箇所数】

市内全域 28箇所

【事業量】

事業量：市内の自治会等 28団体で実施
事業費：6,071,000円（補助金額）

【事業実施期間】

平成31年4月1日～令和2年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

延べ参加者数 1,087人、整備面積 約21.9ha
波及効果：地域の人々が身近な森林の整備を行うことで、幅広い人に森林への興味関心を育むことが出来た。

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

補助金交付申請により、事業目的に沿ったものであるか判断した。

【事業実施により得られた効果】

既存の森林整備事業では整備が難しい暮らしに身近な里山等の整備を、地域住民の作業によって実施できた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

持続的に管理する地域の里山等として位置づけ、地域住民の生活環境に欠かせないものとして活用される。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

住民参加による森林整備の必要性に対する理解が深まり、継続的に取り組みたいとの声が多かった。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	みんなの里山整備活動推進事業				
事 業 費	6,071,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,071,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

自治会等から提出された補助金交付申請を審査し、交付要綱に適合している場合は、補助金を支出する。

【実施方法の選定理由】

里山や竹林等を地域住民の手で再生していくため、補助金制度として運用している。

【契約方法と落札率または補助率等】

対象活動の用具費等経費10/10以内（ただし、上限25万円/団体）

【契約相手方の選定理由】

該当なし

【事業費の積算根拠】

対象活動の用具費等経費10/10以内（ただし、上限25万円/団体）

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

地域住民で場所を選定し、主体的に整備することから、地域住民が幅広く利用できる事業である。

【公的関与の必要性】

地域の里山等として整備するため、特定の個人への利益となるものでなく、公的な支援が妥当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

地域共有の場としての里山等を事業対象としているため、転用等は想定されない。

持続管理する必要性について指導している。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ○テレビ（行政チャンネル）放映

○チラシ配布（配布対象者：各地域 ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

○パネル展示（展示場所：市庁舎等 ） ・看板設置（設置場所： ）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

市民全員を対象に告知した。事業案内については、各自治協・地区市民センターに文書にて発信した。

【情報発信の内容】

みえ森と緑の県民税の方針や、各市町交付金事業の目的、森林の持つ多面的機能等について、HPや行政チャンネルを通じて、市民全体に情報が届くように告知した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	伊賀市
-----	-----

事業名	みんなの里山整備活動推進事業
-----	----------------

7. 写真



写真1
ナラ枯れによる危険木伐採のようす



写真2
荒廃竹林整備のようす



写真3
支障木伐採のようす



写真4
竹林整備のようす



写真5
危険木伐採後のようす

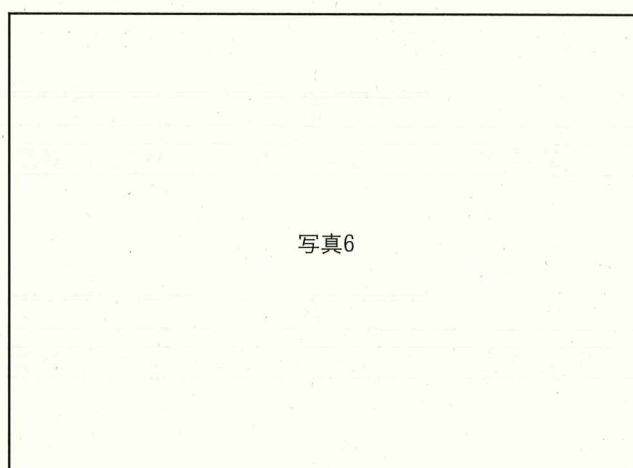


写真6

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
------	-----------------	-----	-----

事業名	みんなの里山整備活動推進事業
-----	----------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
みんなの里山整備活動推進事業補助金	団体	28.00	上限250,000円	6,071,000	
事業費				6,071,000	

作業内容	名 称	人数	整備面積	活動日	金額	備考
みんなの里山整備活動推進事業	法花区	92	0.40	6/16.9/29草刈 7/6.12/7登山道整備	250,000	
	坂下区	54	0.50	7/2.7/21.11/9 樹木伐採、枝落とし	242,000	
	伊勢路区	34	1.00	8/4.8/25 支障木撤去	249,000	
	中矢区	92	2.00	6/29.7/20.11/16.12/7.1/19雑木林及び竹林伐採	250,000	
	妙楽地区	85	2.70	7/13.11/9 森林保全整備	249,000	
	音羽区	23	0.10	11/24.2/28 危険木伐採	250,000	
	諸木区	20	0.50	10/20.11/24 雑木竹伐採	234,000	
	勝地区	85	2.00	7/14～11/11 森林整備	188,000	
	上之庄区	30	0.70	11/24.12/13.1/13 竹林整備	250,000	
	北山区	14	0.10	8/19.8/27.8/29 支障木撤去	250,000	
	青山羽根区	27	0.07	10/20.10/26.10/28 支障木撤去	250,000	
	丸柱区	25	0.10	9/23.11/24 支障木撤去	250,000	
	猪田大東自治会	42	0.50	8/18,12/15 里山内山林整備	42,000	
	小杉区	100	0.70	9/29.11/10.12/1 雑木竹伐採、枝落とし	117,000	
	大内区	17	0.10	10/14.15 11/16 危険木撤去	250,000	
	田中区	25	0.02	11/12.17竹伐採、11/16危険木撤去	119,000	
	西高倉自治会	57	0.06	11/30,12/14.2/8 竹林伐採	206,000	
	炊村区	10	0.10	10/20,11/9 危険木撤去	250,000	
	西山自治会	66	2.00	12/17,12/18 竹林整備	250,000	
	須原区	29	0.10	12/7,1/26	250,000	
	瀧区	16	2.00	11/10,12/1 竹伐採、枝切り	150,000	
	下阿波区	15	0.10	11/23.12/15 竹伐採、樹木伐採	224,000	
	東高倉区	29	5.50	12/7.1/25 里山危険木伐採	244,000	
	大野木区	33	0.40	12/8.2/23 支障木伐採	250,000	
	下川原区	20	0.02	1/11.1/15.2/9 支障木枝切り	250,000	
	霧生区	19	0.01	1/20.1/25 支障木伐採	250,000	
	佐那具町自治会	18	0.01	2/1.2/2 桜の剪定	57,000	
	四十九町自治会	10	0.10	2/21,22 危険木伐採	250,000	
	計	1087	21.89		6,071,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	伊賀市
番 号	事 業 名				
3	伊賀の森っこ育成推進事業				
事 業 費	2,391,952 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,391,952		

1. 事業の目的	
森林環境への関心や要望が高まるなか、次代を担う子ども達の森林・林業への理解と関心を学校教育の場においても学習できるようにする。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等が実施する、森林のはたらきや森林・林業の歴史についての学習活動、木工利用、木工体験（竹材等も含む）、間伐体験、里山整備活動、植物・樹木観察、野生生物・昆虫観察など、森林・自然や木に関連した森林環境教育にふさわしい内容の活動に対して、活動費用を補助する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等 【補助率等】 補助率：10/10 ※小学校を対象とする場合、6年生の学級数×10万円を、中学校を対象とする場合、3年生の学級数×10万円を交付上限とする。 【箇所数】 16箇所（学校） 【事業量】 事業量：市内小中学校 16校79学級で実施 事業費：2,391,952円（補助金額） 【事業実施期間】 平成31年4月1日～令和2年3月31日	
【受益者、参加者、利用者数等】 参加生徒児童総数1,118人 波及効果：生徒に森林環境教育や木工体験を実施し、身近な森林への興味関心を育んだ。	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【実施箇所の選定理由】 補助金交付申請による。事業目的にあった事業であるか確認した。 【事業実施により得られた効果】 市内に在学している小中学生が「森のせんせい」などの講師から、森のはたらきや林業について学習することができ、森林環境や木材等に関して知識理解を深めることが出来た。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 取組の成果として、学級通信等への掲載や事後学習などが積極的に行われ、森林について学ぶ機会を持続的に構築できている。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 各学校からは、児童生徒の森林に対する興味・関心・意欲が深まり、実生活に活かすことが出来ているとの声を多数頂いている。学校担当者からは、森林教育を行う上で、必要不可欠な取り組みとの声もある。	

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
3	伊賀の森っこ育成推進事業				
事 業 費	2,391,952 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,391,952		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 実行委員会等から提出された補助金交付申請を審査し、交付要綱に適合している場合は、補助金を支出する。 【実施方法の選定理由】 森林環境教育等に対して意欲的な団体を選定する必要があるため、補助金制度として運用している。 【契約方法と落札率または補助率等】 補助率：10/10 ※小学校を対象とする場合、6年生の学級数×10万円を、中学校を対象とする場合、3年生の学級数×10万円を交付上限とする。 【契約相手方の選定理由】 該当なし 【事業費の積算根拠】 補助率：10/10 ※小学校を対象とする場合、6年生の学級数×10万円を、中学校を対象とする場合、3年生の学級数×10万円を交付上限とする。	
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】	
【事業参加や整備施設等の公益性】 市内の小中学校生徒を対象としており、多くの生徒に森林環境を学ぶ機会を与えている。 【公的関与の必要性】 市内の小中学校生徒を対象としており、より多くの生徒に森林環境教育を実施するため必要である。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 施設等整備ではなく転用や目的外使用は想定されない。	
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】	
【情報発信の手段（該当するものに○）】 ○HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ○テレビ（行政チャンネル）放映 ○チラシ配布（配布対象者：学校担当者 ） ・ポスター掲示（掲示場所： ） ○パネル展示（展示場所：市庁舎等 ） ・看板設置（設置場所： ） ・その他（方法： ）（場所： ） 【情報発信の対象】 各学校で、学校だよりやホームページで保護者や生徒に対し、「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知した。 【情報発信の内容】 市民全体にPRを行うために、行政チャンネル（CATV）を通じて、県民税及び事業のPRした。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分 2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名 伊賀市

事業名 伊賀の森っこ育成推進事業

7. 写真



写真1

森林環境教育のようす



写真2

木工体験のようす



写真3

原木を用いたシイタケ菌打ち体験



写真4

木材を利用した製作作業



写真5

森林環境教育のようす



写真6

木製ベンチの修繕のようす

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

事業名	伊賀の森っこ育成推進事業
-----	--------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
伊賀の森っこ育成推進事業補助金交付	学級			2,391,952	16団体
事業費				2,391,952	

作業内容	名 称	学級数	参加人数	単価	金額	備考
学校教育における 森林環境教育・木 工体験・林業体験	崇高中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	5	159.00		286,200	
	府中小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	39.00		100,000	
	柘植小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	24.00		100,000	
	西柘植小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	3	61.00		100,000	
	上野西小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	27	240.00		400,000	
	成和西小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	28.00		100,000	
	島ヶ原小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	6	73.00		100,000	
	成和東小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	22.00		100,000	
	阿山小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	6	60.00		188,490	
	神戸小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	4	39.00		97,262	
	玉滝小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	14.00		50,000	
	青山中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	62.00		200,000	
	三訪小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	29.00		70,000	
	新居小学校森っこ実行委員会	1	21.00		100,000	
	上野東小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	15	213.00		300,000	
	壬生野小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	34.00		100,000	
	計	79	1118.00		2,391,952	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
4	地域の森と緑のつながり支援事業				
事 業 費	800,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			800,000		

1. 事業の目的	地域住民が森林・林業にふれあう機会が少なくなっているため、地域の子ども達が地域住民と共に森林・林業等への関心を持ち、つながりを感じられることを目的とする。
2. 事業実績概要	【事業内容】 補助事業：住民自治協議会等が実施主体として、森・緑・木材と地域とのつながりを目的に行う一般募集の森林・林業・環境学習・木工などのイベントや研修活動に対して、必要な費用を補助する。 直営事業：イベントなどに森林・林業PRブースなどを設置し、地域産材のクラフトやアンケートなど行う。森林・林業の推進に関する講演会や森林整備の安全講習などを開催する。 三重大と連携して、地域の森づくりのプラン作成の支援をおこなう。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 補助事業：住民自治協議会等 直営事業：市、県、森林組合などが共同で森林林業のPRや森林整備や林業についての研修を行う。 地域の林業の再生プラン支援及び伊賀市の山づくりに関する検討を三重大と共同で行う。 【補助率等】 補助事業：対象経費に10/10（ただし上限5万円） 【箇所数】 市内全域 6箇所 【事業量】 補助事業：6事業 直営事業：PRイベント 4回 共同研究委託 1件 森林・バイオマスに関する研修等 1回 【事業実施期間】 平成31年4月1日～令和2年3月31日
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 補助金交付申請による 【事業実施により得られた効果】 森林を支える地域において、補助事業によるイベント等を通して、県民税のばり等をPRに活用して、森を育む人づくり・森を支える社会組織づくりに貢献した。 直接的に、森づくりやみえ森と緑の県民税の趣旨について、市民に伝えることができた。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 施設整備等ではなく、該当しない。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 地域における森林の大切さを知らせることが出来た。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
4	地域の森と緑のつながり支援事業				
事 業 費	800,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			800,000		

4 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

住民自治協議会等から提出された補助金交付申請を審査し、交付要綱に適合している場合は、補助金を支出する。
多くの市民が集まるイベントに出店し、みえ森と緑の県民税事業のPRを行った。

【実施方法の選定理由】

森林環境教育等に対して意欲的な団体を選定し、事業効果を高める必要があるため、補助金制度として運用している。

【契約方法と落札率または補助率等】

補助事業：10/10 ※5万円を交付上限とする。

【契約相手方の選定理由】

該当なし

【事業費の積算根拠】

補助事業：10/10 ※5万円を交付上限とする。

5 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がさ

【事業参加や整備施設等の公益性】

各地域の住民自治協議会が開催する身近な森林関係イベントであり、幅広い地域住民の受益となった。

【公的関与の必要性】

住民自治協議会が行うイベントに対する補助事業であり、市民の森林教育を幅広く実施するため必要な支援である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用し

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○ＨＰ掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ○テレビ（行政チャンネル）放映
・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
○パネル展示（展示場所：市庁舎等 ） ・看板設置（設置場所： ）
・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

各住民自治協議会、市民

【情報発信の内容】

より多くの市民に発信するため、ケーブルテレビを活用して、みえ森と緑の県民税を財源とした事業であること、みえ森と緑の県民税の必要性を告知した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

平成29年度実績：市内住民自治協議会 6 団体 参加者数178人

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 伊賀市

事業名 地域の森と緑のつながり支援事業

7. 写真



写真1

イベントでの木育ブース運営のようす



写真2

イベントでの木育ブース運営のようす



写真3

地域における木工品製作体験イベントのようす

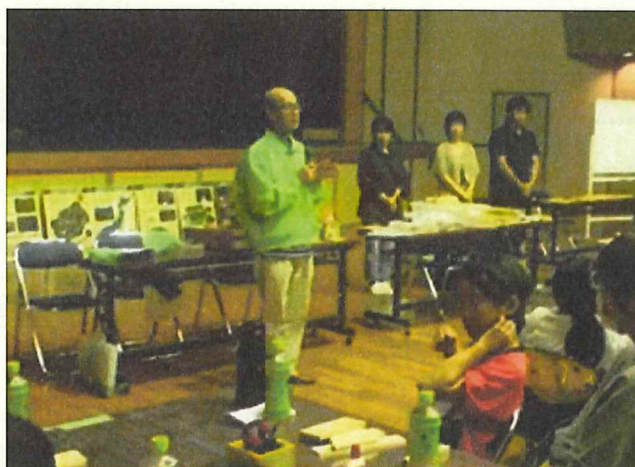


写真4

外部講師による森林教育のようす



写真5

原木市場見学のようす



写真6

林業事業体視察のようす

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

事業名	地域の森と緑のつながり支援事業
-----	-----------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
補助金	団体	6.00	50,000	300,000	
研究業務委託（ ）			500,000	500,000	
事業費				800,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
補助金	丸柱地域まちづくり協議会				50,000	
	府中地区住民自治協議会				50,000	
	山田地域住民自治協議会				50,000	
	阿波地域住民自治協議会				50,000	
	柘植地域まちづくり協議会				50,000	
	布引地域住民自治協議会				50,000	
	計				300,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
研究業務委託					500,000	
	計				500,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名		伊賀市
------	-----------------	--	-----	--	-----

番 号	事 業 名				
5	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事 業 費	3,882,925 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,882,925		

1. 事業の目的

森林所有者等による未利用間伐材の利用を推進することにより、木質バイオマス資源の有効活用を図ると共に、森林所有者等の意識啓発や暮らしに身近な森林における林地残材の減少を図り森林整備の促進につなげる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

発電用チップに係る間伐材等由来の木質バイオマス証明材を、市内の木質バイオマス発電証明ガイドライン認定事業者に買い取ってもらうために必要な搬出及び運搬に要する経費の一部を助成する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

補助事業：森林所有者等

【補助率等】

補助率： 間伐材等由来の木質バイオマス証明材 1 t 当り 2,500円

※当該年度における造林補助事業等の搬出材積として加算している間伐材を除く。

【箇所数】

補助申請毎の伐採届による間伐箇所と連動する。

【事業量】

補助事業：未利用間伐材搬出 1,553t 搬出件数 延べ30件

【事業実施期間】

平成31年4月1日～令和2年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

森林所有者等搬出件数 30件

波及効果：森林の整備が進むことにより、森林の持つ公益的機能の向上の恩恵を受けることができる。

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

補助金交付申請による

【事業実施により得られた効果】

土砂災害等に被害拡大につながる林地残材を減らすことにより、くらしの安心・安全を守る災害に強い森林づくりに寄与したほか、森林所有者等に森林整備の必要性を身近に感じ、森林への意識が高まった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

森林所有者自らが取り組むことをきっかけに、森林整備の必要性に対する意識が高まった。

間伐材を搬出することで、流木等被害が軽減されることが想定される。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

今年度助成を受けた複数の森林所有者などから継続的に取り組みたいとの声があった。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
5	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事 業 費	3,882,925 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,882,925		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

申請時に提出された補助金交付申請書を審査し、交付要綱に適合している場合は、補助金を支出する。

【実施方法の選定理由】

森林整備の必要性に対する意識向上のため、適正なバイオマス材であるか等を判断するため、補助金制度として運用している。

【契約方法と落札率または補助率等】

補助率：未利用間伐材 1t当たり 2,500円

【契約相手方の選定理由】

該当なし

【事業費の積算根拠】

補助率：未利用間伐材 1t当たり 2,500円 間伐・搬出コスト未滿となるように補助率を設定。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

補助金の実績報告書により確認している。

【公的関与の必要性】

市内の森林整備を進めていくため、公的支援（経費補助）による間伐材搬出作業の推進が必要であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

引き続き、森林が適正に管理されるよう指導している

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ・ 広報誌掲載 ・ 新聞掲載 ○テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

○パネル展示（展示場所：市庁舎等） ・看板設置（設置場所：）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

森林所有者等の搬出者

【情報発信の内容】 ☆評価の分類「⑮情報発信の方法」「⑯情報発信の内容」

搬出者以外にもPRするため、市ホームページやCATV等で、県民税の方針とともに事業内容について告知した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

平成29年度実績 未利用間伐材 874.4t 森林所有者等搬出者 延べ13名

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	伊賀市
-----	-----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

7. 写真



写真1
バイオマス材の搬出のようす



写真2
バイオマス材の搬出のようす



写真3
バイオマス材の搬出のようす



写真4
バイオマス材の搬出のようす



写真5
バイオマス材の搬出のようす

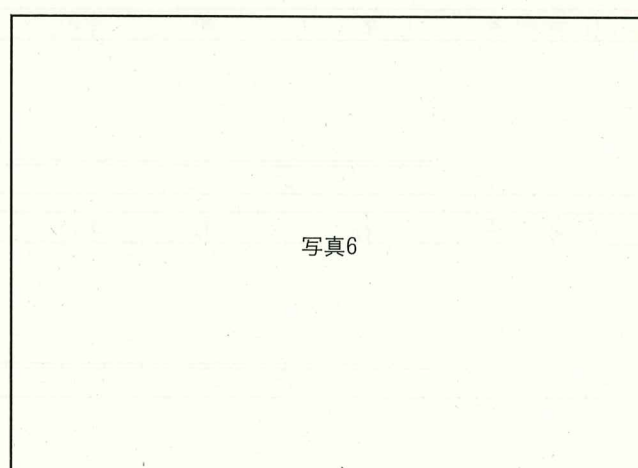


写真6

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	伊賀市
-----	-----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
補助金交付	t	1553.17	2,500	3,882,925	
事業費				3,882,925	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
補助金交付	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	t	1553.17	2,500	3,882,925	
	計				3,882,925	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	伊賀市
番号	事業名				
6	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）				
事業費	577,867 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			577,867		

1. 事業の目的

市内の間伐材の利用と地域の木材を活用できる人材の育成を目的とする。

市民から必要とされている木製品を開発する中で、若い人材や地域の商工団体などが、伊賀の木の活用ノウハウを身に着ける。伊賀市内外の方が利用する農産物直売所に適した木製品を直売所事業者の意見を参考に、学校生徒などが共同で設計開発することで、森を営む社会と住みよい環境を両立する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

伊賀白鳳高等学校の木材工芸部員が伊賀の木の活用ノウハウを知るため、森林・林業について現地に出向き研修体験をする。

そのノウハウと地域の林業家や製材所とのつながりを利用して、伊賀の木の特性を活かした木製ベンチなどを製作して、多くの市民が行き会う場に設置する。

伊賀産材を用いた木製品を青空ネット伊賀と高校生が共同で開発し、森を営む社会づくりにつなげる。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

事業実施主体：木製品等設置事業体（製作主体は、白鳳高等学校の木工部員）

【補助率等】

一定の範囲内で補助金100%、材料費（地域産材等）、製作道具費等

【箇所数】

市民が行きかう場（青空ネット伊賀管内の農産物直売所）に、3箇所に設置する木製品を開発する。

【事業量】

木製パンフレットラックを開発 1校

【事業実施期間】

平成31年4月1日から令和2年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

受益者 農産物直売所利用者（青空ネット伊賀管内の直売所）

参加者 伊賀白鳳高等学校 木材工芸部員 約十数名、指導者、地域の木材生産者等

波及効果 あらゆる市民が、白鳳高校の生徒が作成した木製パンフレットラックに触れることで、木のぬくもりを通じて森林へ思いを馳せる機会を醸成した。

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

木工や建築を志す高校生が木材生産者や地元商工事業者など共同で木製パンフレットラックなどを開発することで、地域材の活用技術が継承され、市民に直接木材の良さと木材利用の必要性を伝えられる。

【事業実施により得られた効果】

三重県産の木の肌さわりを楽しみながら感じられるの場所を、幅広い市民が体験できる市内の3箇所に提供することができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

今後も、農産物直売所の事業者によって木製パンフレットラックを効果的な活用して頂き、市民全体に木のぬくもりを感じさせながら、森林の持つ重要性を伝える媒体として活用することが期待される。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

事業主体からは、木のぬくもりが感じられるほか、農産物直売所での利用を想定して工夫されたデザインであると好評を得ている。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
6	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）				
事 業 費	577,867 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			577,867		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

事業実施主体（青空ネット伊賀）が利用頻度が高いと思われる農産物直売所を選定し、市内の高校生（白鳳高校工芸部）が木製パンフレットラックを開発した。

【実施方法の選定理由】

- ①設置場所を無料で提供いただける場所
- ②基本的に誰でも自由に使える場所
- ③観光客や市民の利便に供しやすい場所
- ④交通事故の危険性が低く、適度のスペースを確保できる場所

【契約方法と落札率または補助率等】

木製パンフレットラック：整備費用、製作設置費用、研究開発費等込み10/10（ただし上限70万円/1か所当たり）

【契約相手方の選定理由】

補助事業による選定のため、該当なし

【事業費の積算根拠】

木製パンフレットラック：整備費用、製作設置費用、研究開発費等込み10/10（ただし上限70万円/1か所当たり）

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

設置箇所はあらゆる市民が行き来する場（農産物直売所）であり、幅広い市民が使用することが想定される。

【公的関与の必要性】

製作主体が伊賀白鳳高等学校の生徒であり、その生徒達の木育・木活用人材育成となるような取り組みを目指しているものであるため、公的関与が必要であると考えられる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

木製パンフレットラックは、青空ネット伊賀の3つの農産物直売所に設置するという目的の元で開発・製作されるものであるため、転用の懸念はないと考えられる。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○ＨＰ掲載 ・ 広報誌掲載 ・ 新聞掲載 ○テレビ（行政チャンネル）放映
・ チラシ配布（配布対象者： ） ・ ポスター掲示（掲示場所： ）
○パネル展示（展示場所：市庁舎等 ） ・ 看板設置（設置場所： ）
○その他（方法：木製パンフレットラック付近に県民税のぼりを設置する）（場所： ）

【情報発信の対象】

木製品設置事業体等、市民

【情報発信の内容】

みえ森と緑の県民税市町交付金事業について、みえ森と緑の県民税の必要性

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 伊賀市

事業名 森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）

7. 写真



写真1

木製パンフレットラック材料

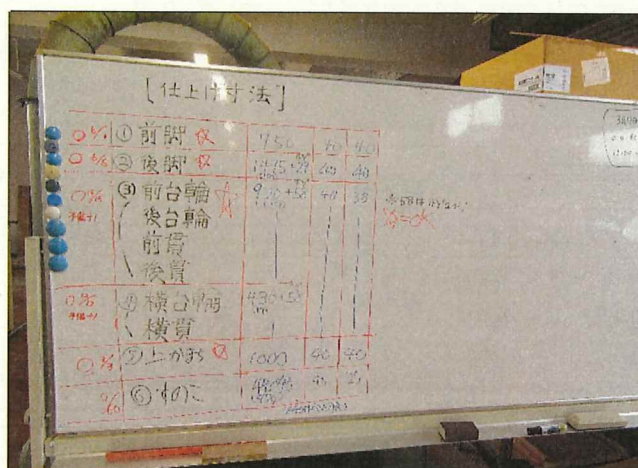


写真2

部員生徒による仕上げ寸法



写真3

木製パンフレットラックの模型



写真4

高校生によるプレゼンテーション



写真5

高校生によるプレゼンテーション



写真6

高校生によるプレゼンテーション

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

事業名	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）
-----	--------------------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
補助金				577,867	
事業費				577,867	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
伊賀白鳳高等学校 生徒による製品開 発	原材料費				172,000	
	需用費				395,310	
	その他（振込手数料）				10,557	
	計				577,867	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

伊賀市

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	③ 私有林整備	11,253	11,253
2	① 意向調査の準備作業	8,370	8,370
3	⑬ 木造公共建築物の整備等	2,552	2,552
4	⑰ 基金積立（森林整備等）	4,270	4,270
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	26,445	26,445



令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

尾鷲市

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

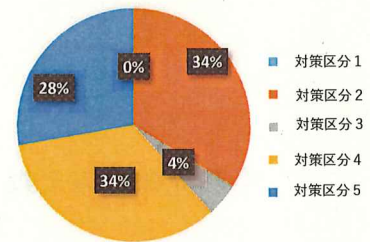
市町名	尾鷲市	三重県
人口（人）	16,567	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	9.1%	12.4%
森林面積(ha)	17,703.01	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	14,933.86	348,833.49
森林率(%)	92.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	6.0	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）						内当年度 交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	2	学校危険木除去事業	2,498,029	2,498,029		2,498,029				2,498,029
2	2	人家裏危険木伐採事業	979,000	979,000		979,000				979,000
3	5	中村山公園整備事業	2,860,000	2,860,000					2,860,000	2,860,000
4	3	クップ普及推進事業	471,199	471,199			471,199			471,199
5	4	木とふれあう学校環境づくり事業	2,395,160	2,395,160				2,395,160		2,395,160
6	4	木とふれあう木育活動推進事業	1,100,000	1,100,000				1,100,000		1,100,000
7		みえ森と緑の県民税基金積立	788,612	0						788,612
計			11,092,000	10,303,388	0	3,477,029	471,199	3,495,160	2,860,000	11,092,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(m)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業	1,101(m)	677,213	677,213	獣害防止施設等整備

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	近年の災害による被害が拡大傾向にあることから、災害に強い森林づくりは大変重要なものと考えている。また、危険木を伐採したままにするのではなく、園児や児童、生徒への木育の機会を設けるツールとして利用する方法を考え、防災と森林教育の観点から事業の選定と実施している。
事業実施により得られた効果	小中学校内や人家裏、公園の危険木伐採は、災害に強い町づくりに一定の効果が得られたと考えている。この点については、事業実施にあたっての住民の反応等を見ても、好意的な意見であった点からも、安心安全の確保に十分な効果が得られたと感じている。 木製遊具の設置や伐採した危険木の再利用については、木の温もりに触れる機会を提供することで木育に繋げつつ、小学校については、木工体験や森林に関する説明を聴く機会を設けることで、木の循環について学ぶことが出来たと思う。
情報発信への取組	木とふれあう学校環境づくり事業については、県民税当初から実施されていることから多くのマスコミにも来ていただいており、体験の場をそのまま情報発信の場として活用した。また、学校だよりへの掲載等、他の保護者にも知っていただけるようにした。 また、その他の事業についても、市の広報誌やホームページ、公園への看板設置等により広く住民にPRを行った。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名			
1	学校危険木除去事業			
事 業 費	2,498,029 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			2,498,029	その他

1. 事業の目的	学校内等に見られる倒木や枝折れの恐れのある危険木などを除去し、児童・生徒の安全を確保するとともに、対象となる学校において森林教室を実施し、森林の重要性・必要性について学ぶ機会を与えることを目的とする。
2. 事業実績概要	【事業内容】 学校内等の危険木などの除去を行い、森林の重要性・必要性について学ぶ機会を与える森林教室を開催する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 尾鷲市教育委員会（委託先：森林組合、シルバー人材センター） 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 4 小学校（尾鷲小学校、矢浜小学校、向井小学校、賀田小学校） 1 中学校（尾鷲中学校） 【事業量】 危険木の除去を21本（小学校10本、中学校11本） 職員等による木工教室などを小学生（高学年）と中学生に実施予定。（新型コロナウイルスの影響により延期。） 【事業実施期間】 平成31年4月～令和2年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 各小中学校の児童・生徒 約1,000名
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 市内小中学校の校内に生えている樹木の中で、特に危険性の高いものを選定して伐採した。 【事業実施により得られた効果】 風の強い日などで時々枝折れが散見されており、また、腐食等により倒木の危険性がある樹木が見受けられたため、危険木を伐採することにより、児童・生徒の安全を確保することができた。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 小中学校の校内であるため、市が管理を行う。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 従前から危険性があったことから、教師、保護者、児童から大変喜ばれている。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	学校危険木除去事業				
事 業 費	2,498,029 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,498,029		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

業務委託

【実施方法の選定理由】

小中学校であるため、市からの発注で実施した。

【契約方法と落札率または補助率等】

隨意契約、指名競争入札

【契約相手方の選定理由】

安全面と専門的な技術が必要となるため。

【事業費の積算根拠】

業者からの見積徴収により積算

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

中学校については、伐採した樹木を活用した記念品として教室案内板を作成し、また、小学校については、伐採した樹木を活用してキューブカレンダーを作成し、併せて危険木から再利用されたことを児童、生徒や保護者に説明することで、危険木の再利用が木の循環に繋がることを学ぶ場として活用した。

また、他にも伐採した樹木を活用して児童がベンチを作成していく予定であったが、新型コロナウイルスにより急遽休校となったため、次年度において実施する。

【公的関与の必要性】

小中学生の安全性の確保と森林教育を実施するため、

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市が管理者である。

小中学校であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

市民（特に児童、生徒、保護者）

【情報発信の内容】

市で県民税を活用して行われる全ての事業において、市民に知っていただくために一括で行い周知した。

学校だよりにより、保護者の方にも周知した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	尾鷲市
-----	-----

事業名	学校危険木除去事業
-----	-----------

7. 写真



写真1
危険木伐採、剪定（尾鷲小学校）施工前

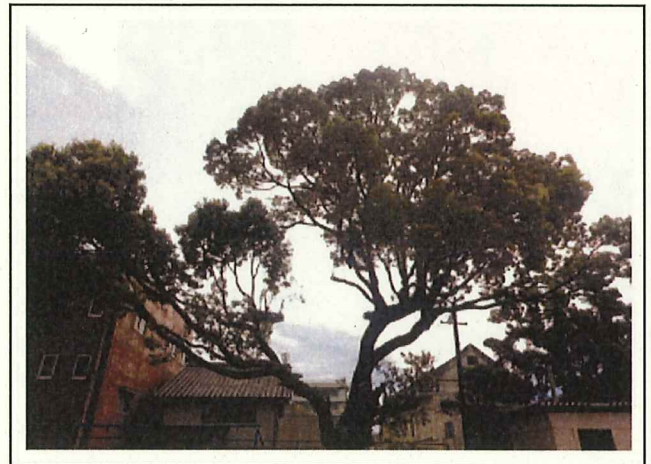


写真2
危険木伐採、剪定（尾鷲小学校）施工後



写真3
危険木伐採、剪定（賀田小学校）施工前



写真4
危険木伐採、剪定（賀田小学校）施工後



写真5
危険木伐採、剪定（尾鷲中学校）施工前



写真6
危険木伐採、剪定（尾鷲中学校）施工後

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	尾鷲市
-----	-----

事業名	学校危険木除去事業
-----	-----------

7. 写真



写真7
伐採樹木を利用した教室案内板



写真8
伐採樹木を利用したキューブカレンダー

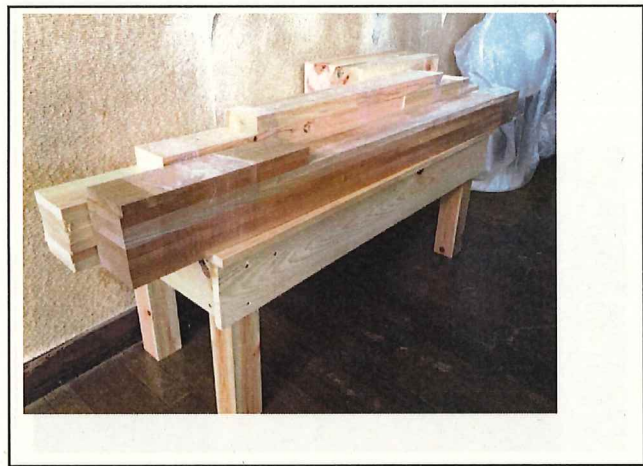


写真9
伐採樹木を利用したベンチ作成用パーツ
(新型コロナウイルスの影響により延期)



写真10

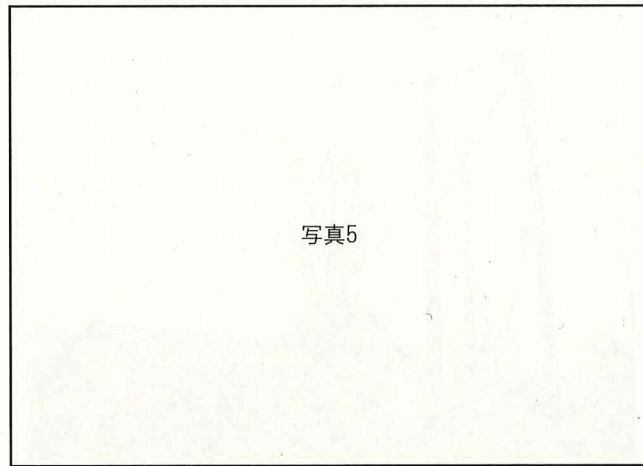


写真11

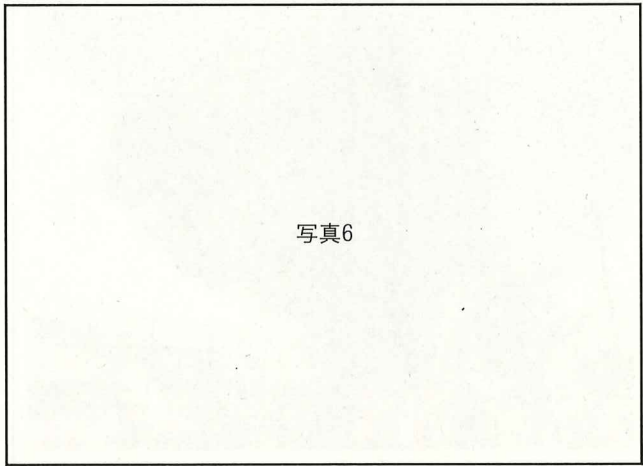


写真12

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市
------	-----------------	-----	-----

事業名	学校危険木除去事業
-----	-----------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額（見積）	備考（請負）
小学校樹木伐採剪定業務（尾鷲小学校・矢浜小学校・賀田小学校） 請負者：森林組合	式	1.00	1,418,040	1,418,040	1,339,200
向井小学校樹木伐採剪定業務 請負者：シルバー人材センター	式	1.00	175,829	175,829	175,829
尾鷲中学校樹木伐採剪定業務 請負者：森林組合	式	1.00	963,360	963,360	912,600
製材加工手数料	式	1.00	70,400	70,400	70,400
事業費				2,627,629	2,498,029

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
小学校樹木伐採剪定業務（尾鷲小学校・矢浜小学校・賀田小学校）	尾鷲小学校	式	1.00	770,040	770,040	明細1
	矢浜小学校	式	1.00	401,760	401,760	明細5
	賀田小学校	式	1.00	246,240	246,240	明細9
	計				1,418,040	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
明細1 尾鷲小学校	伐採・集積	式	1.00	371,650	371,650	明細2
	積込・運搬	式	1.00	165,790	165,790	明細3
	処理費	式	1.00	11,700	11,700	明細4
	諸経費	式	1.00	163,860	163,860	30%以内
	消費税	%	8.00	713,000	57,040	
	計				770,040	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
明細2 伐採・集積	特殊作業員	人	5.50	21,300	117,150	
	とび工	人	4.00	26,000	104,000	
	土木一般世話役	人	1.00	22,500	22,500	
	25トンラフタークレーン賃	日	2.00	64,000	128,000	
	計				371,650	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
明細3 積込・運搬	特殊作業員	人	3.50	21,300	74,550	
	4トントラック	車	4.00	12,310	49,240	
	0.10m3グラップル付きバックホウ賃料	日	2.00	15,000	30,000	
	グラップル回送費	回	2.00	6,000	12,000	
	計				165,790	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
明細4 処理費	伐採木処理費	トン	3.90	3,000	11,700	
	計				11,700	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり				市町名	尾鷲市
事業名	学校危険木除去事業					
積算資料（実績報告参考資料）						
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
明細5 矢浜小学校	伐採・集積	式	1.00	214,700	214,700	明細6
	積込・運搬	式	1.00	67,220	67,220	明細7
	処理費	式	1.00	4,500	4,500	明細8
	諸経費	式	1.00	85,580	85,580	30%以内
	消費税	%	8.00	372,000	29,760	
	計				401,760	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
明細6 伐採・集積	特殊作業員	人	4.00	21,300	85,200	
	とび工	人	2.00	26,000	52,000	
	土木一般世話役	人	1.00	22,500	22,500	
	12トンラフタークレーン賃料	日	1.00	55,000	55,000	
	計				214,700	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
明細7 積込・運搬	特殊作業員	人	2.00	21,300	42,600	
	4トントラック	車	2.00	12,310	24,620	
	計				67,220	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
明細8 処理費	伐採木処理費	トン	1.50	3,000	4,500	
	計				4,500	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
明細9 賀田小学校	伐採・集積	式	1.00	103,800	103,800	明細10
	積込・運搬	式	1.00	66,860	66,860	明細11
	処理費	式	1.00	6,000	6,000	明細12
	諸経費	式	1.00	51,340	51,340	30%以内
	消費税	%	8.00	228,000	18,240	
	計				246,240	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
明細10 伐採・集積	特殊作業員	人	3.50	21,300	74,550	
	とび工	人	0.50	26,000	13,000	
	土木一般世話役	人	0.50	22,500	11,250	
	牽引具損料	日	1.00	5,000	5,000	
	計				103,800	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり				市町名	尾鷲市
事業名	学校危険木除去事業					
積算資料（実績報告参考資料）						
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
明細11 積込・運搬	特殊作業員	人	2.00	21,300	42,600	
	2トントラック	車	2.00	12,130	24,260	
	計				66,860	
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
明細12 処理費	伐採木処理費	トン	2.00	3,000	6,000	
	計				6,000	
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
向井小学校樹木伐 採剪定業務 請負者：シルバー 人材センター	伐採	時間	39.00	1,330	51,870	
	草刈	時間	52.00	920	47,840	
	草刈機使用	時間	49.00	360	17,640	
	軽トラック使用料	時間	10.00	1,600	16,000	
	諸経費	件	1.00	10,500	10,500	
	ゴミ処理費	回	10.00	2,500	25,000	
	事務費	式	1.00	6,979	6,979	
	計				175,829	
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
尾鷲中学校樹木伐 採剪定業務 請負者：森林組合	伐採・集積	式	1.00	376,450	376,450	明細13
	積込・運搬	式	1.00	299,600	299,600	明細14
	処理費	式	1.00	10,500	10,500	明細15
	諸経費	式	1.00	205,450	205,450	30%以内
	消費税	%	8.00	892,000	71,360	
	計				963,360	
	作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額
明細13 伐採・集積	特殊作業員	人	6.50	21,300	138,450	
	とび工	人	2.50	26,000	65,000	
	土木一般世話役	人	1.00	22,500	22,500	
	25トンラフタークレーン賃料	日	2.00	64,000	128,000	
	14m高所作業車	日	1.00	22,500	22,500	
	計				376,450	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	尾鷲市
-----	-----

事業名	学校危険木除去事業
-----	-----------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
明細14 積込・運搬	特殊作業員	人	8.50	21,300	181,050	
	4トントラック	車	5.00	12,310	61,550	
	0.10m3グラップル付きバックホウ賃料	日	3.00	15,000	45,000	
	グラップル回送費	回	2.00	6,000	12,000	
	計				299,600	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
明細15 処理費	伐採木処理費	トン	3.50	3,000	10,500	
	計				10,500	

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	人家裏危険木伐採事業				
事 業 費	979,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			979,000		

1. 事業の目的	
人家に密接する放置林において、災害を未然に防止する観点から、地域住民が組織する自治会等により人家裏山林の危険木伐採費用の一部を補助する。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 自治会等が事業主体となり、人家に隣接する山林内の危険木で緊急に伐採するものに対し、その費用の一部を補助する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 自治会・自主防災会等 【補助率等】 補助率は伐採経費の10分の8とし、1申請者につき1年度50万円を上限とする。 （主な要件）・補助対象経費は伐採経費のみとする。 ・緊急的な伐採が必要な危険木であること。 ・地目は山林であること。 【箇所数】 3地区（北浦町地区、三木浦町地区、馬越町地区） 【事業量】 北浦町地区 12本、三木浦町地区 3本、馬越町地区 20本 【事業実施期間】 令和元年5月～令和2年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 危険木の伐採により生活環境が向上した3地区（北浦地区 267人、三木浦地区 516人、馬越地区 31人）	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【実施箇所の選定理由】 広報などでこの補助事業の趣旨を周知し、事前に倒木などの災害を防ぐため地区会や自主防災会から要望のあった危険木の箇所を職員が確認し、実施の必要性や緊急性を検討したうえで選定した。 【事業実施により得られた効果】 地域住民自ら行動することで災害に対しての心構えが芽生えるなどの効果に併せ、危険が想定される人家裏山林の危険木を伐採することにより、災害を未然に防止し、森林の適正な整備が促進された。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 危険木伐採のため今後の活用計画はない。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 倒木等に不安となっている自治会等からの要望により実施していることから、地区住民にも大変喜ばれている。	

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	尾鷲市
番 号	事 業 名			
2	人家裏危険木伐採事業			
事 業 費	979,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			979,000	その他
4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】				
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助事業				
【実施方法の選定理由】 地域住民から組織されている地区会などへの補助事業であるため、地域内で危険箇所を把握し、住民が一体となり山林に対する防災意識が生まれる。また、対象地区の住民が動くことで、事業がスムーズに進むことができる。				
【契約方法と落札率または補助率等】 補助率は伐採経費の10分の8とし、1申請者につき1年度50万円を上限とする。				
【契約相手方の選定理由】 補助事業であるため、該当しない。				
【事業費の積算根拠】 危険木の伐採に係る費用のみを補助対象としており、申請時に見積書を提出させ金額を確定し、実施報告書では領収書を提出させ支出内容の確認と現地確認を行なっている。				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【事業参加や整備施設等の公益性】 災害時の倒木等が懸念される箇所の選定、作業を実施することは、住民が普段から不安視している箇所であるため、住民の安全確保に繋がる公益性の高い取り組みであると考えられる。				
【公的関与の必要性】 市が補助金を出すことで住民自ら危険木の伐採を進めることにより、災害時の倒木等を未然に防止する観点があるため				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 森林所有者との調整は申請者（自治会等）が行っている。 申請者（自治会等）が森林所有者から事業実施の同意を得て危険木を伐採する事業であることから転用等の一定の制限はかけていない。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の手段（該当するものに○）】 ○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ） ・パネル展示（展示場所： ） ○看板設置（設置場所：事業実施箇所付近） ・その他（方法： ）（場所： ）				
【情報発信の対象】 市民全般				
【情報発信の内容】 市で県民税を活用して行われる全ての事業において、市民に知っていただくために一括で周知した。 広報や市HPにて補助金の案内をする際に県民税の必要性を説明するとともに、選定箇所の地域住民にも説明を行なった。				
7. 写真				
別紙のとおり				
8. その他特記事項				

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	尾鷲市
-----	-----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

7. 写真



写真1

実施前（北浦町地区）

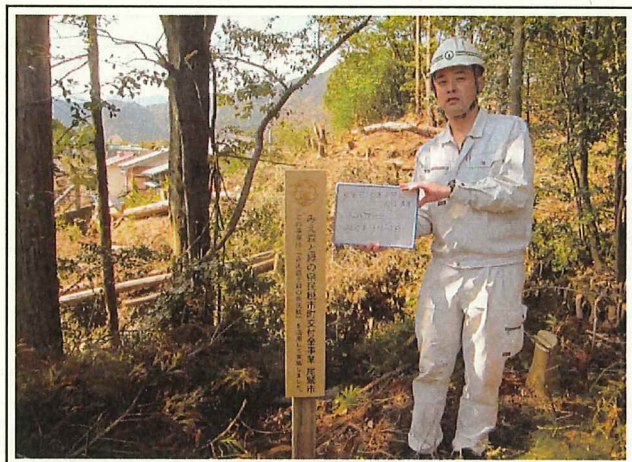


写真2

実施後（北浦町地区）



写真3

実施前（三木浦町地区）



写真4

実施後（三木浦町地区）

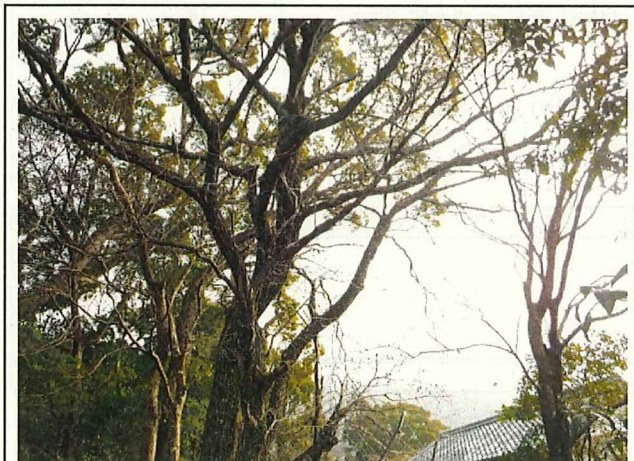


写真5

実施前（馬越町地区）

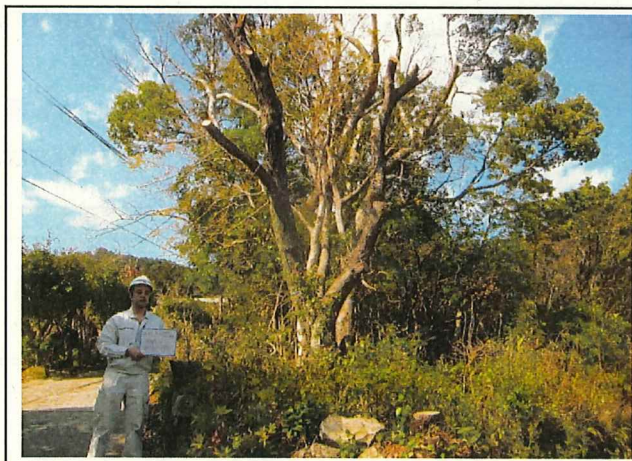


写真6

実施後（馬越町地区）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市
------	-----------------	-----	-----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考（伐採経費）
三木浦町内会	式	1.00	250,000	250,000	312,500
北浦町第4自治会	式	1.00	220,000	220,000	275,000
馬越自治会	式	1.00	443,000	443,000	553,750
需用費	式	1.00	66,000	66,000	
事業費				979,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
三木浦町内会	危険木伐採（3本）	式	1.00	250,000	250,000	補助金
	計				250,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
北浦町第4自治会	危険木伐採（12本）	式	1.00	220,000	220,000	補助金
	計				220,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
馬越自治会	危険木伐採（20本）	式	1.00	443,000	443,000	補助金
	計				443,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
需用費	みえ森と緑の県民税看板	個	3.00	22,000	66,000	
	計				66,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考

※補助率等

補助率は伐採経費の10分の8とし、1申請者につき1年度50万円を上限とする。

（主な要件）・補助対象経費は伐採経費のみとする。

・緊急的な伐採が必要な危険木であること。

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり			市町名	尾鷲市
------	--------------------	--	--	-----	-----

番 号	事 業 名				
3	中村山公園整備事業				
事 業 費	2,860,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,860,000		

1. 事業の目的

木と親しむことのできる市街地の中心にある自然豊かな中村山公園を整備し、安心安全に多くの市民が自然に触れあえる機会を設け、豊かな生活環境を実現することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

住民が自然と触れ合える親しみやすい公園を整備し、公園を訪問する者の安心安全な環境を提供するため、枯損木などの危険木や雑草木の除去を実施した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市（委託先：森林組合）

【補助率等】

補助事業ではないため、該当しない。

【箇所数】

中村山公園 1 箇所

【事業量】

中村山に植生している危険木除去11本（高木、大径木の枯損木等）

【事業実施期間】

平成31年5月～令和2年3月

【受益者、参加者、利用者数等】

公園を利用される住民、遊歩道を利用する住民、頂上に天文科学館があることから利用する住民

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

市街地の中心にあり、住民が多く集まる場所であるため

【事業実施により得られた効果】

枯損木などの危険木や雑草木を除去したことで、倒木の危険性が軽減され災害を未然に防止する効果が得られたことで、多くの住民が安心安全に活用できる場所となった。

また、高台となっていることから、景観も良くなり住民が集まりやすい環境となった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

市有地であるため、市が管理する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

公園を利用する住民、遊歩道を利用する住民、頂上に天文科学館があることから活用する住民などから景観も良くなり、公園を活用しやすくなったと評判である。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市
------	--------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
3	中村山公園整備事業				
事 業 費	2,860,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,860,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

業務委託

【実施方法の選定理由】

安全面と専門的な技術が必要となるため

【契約方法と落札率または補助率等】

指名競争入札

【契約相手方の選定理由】

4 社による指名競争入札

【事業費の積算根拠】

業者からの見積りにより積算

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

市が管理する市街地の中心にある公園であることから、利用者の安全性を確保することにより、より多くの市民に利用していただける場の提供に繋がると考える。

【公的関与の必要性】

市が管理する公園であり、利用者の安全性確保が必要であるため

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市有地であるため、市が管理を行う。

市有地であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

・パネル展示（展示場所： ） ○看板設置（設置場所：公園の入り口付近）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

市民（中でも、公園を利用される方）

【情報発信の内容】

市で県民税を活用して行われる全ての事業において、市民に知っていただくために一括で行い周知した。

併せて、地域の団体がこの公園を活用してイベントを実施していることから、このイベントを通じて周知をした。

7 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり
------	--------------------

市町名	尾鷲市
-----	-----

事業名	中村山公園整備事業
-----	-----------

7. 写真



写真1
危険木伐採① 施工前

写真2
危険木伐採① 施工後

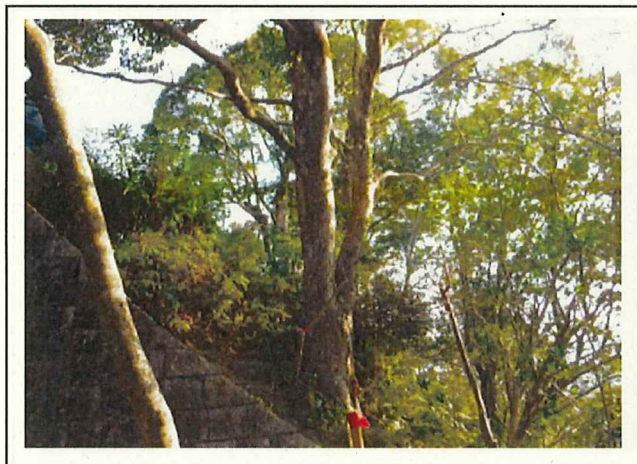


写真3
危険木伐採② 施工前

写真4
危険木伐採② 施工後



写真5
危険木伐採後の根株（根株直径約80cmの大径木）

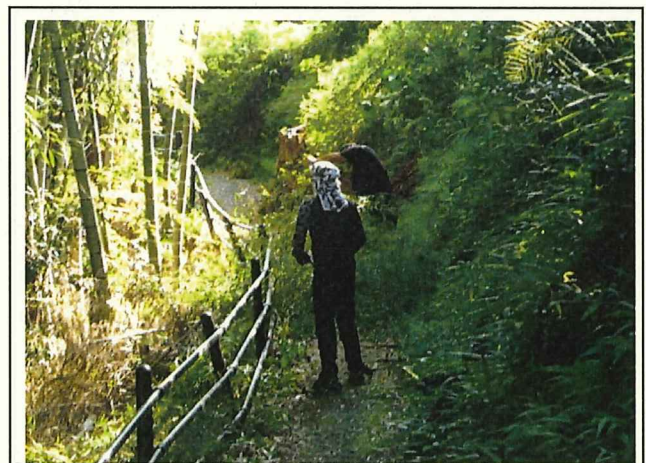


写真6
公園整備活動①（ボランティアによる竹の整備状況）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり
------	--------------------

市町名	尾鷲市
-----	-----

事業名	中村山公園整備事業
-----	-----------

7. 写真



写真7

公園整備活動②（ボランティアによる竹の整備状況）

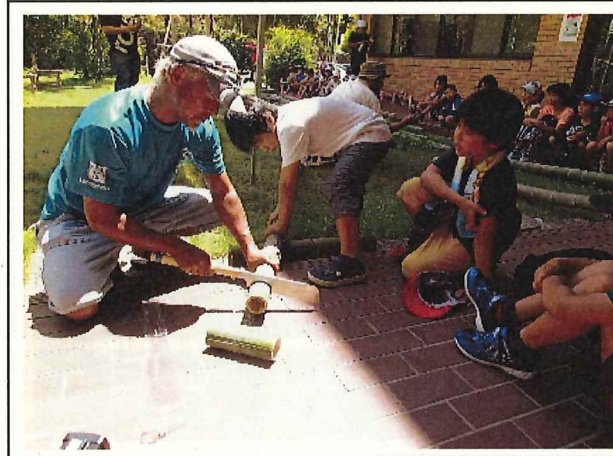


写真8

流しそうめん①（ボランティアにより伐採した竹を活用した中村山公園における森林レクリエーションの状況）



写真9

流しそうめん②（ボランティアにより伐採した竹を活用した中村山公園における森林レクリエーションの状況）



写真10

青竹ふみ作成（ボランティアにより伐採した竹を活用した中村山公園における森林レクリエーションの状況）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市
------	--------------------	-----	-----

事業名	中村山公園整備事業
-----	-----------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考（請負額）
中村山公園危険木伐採	式	1.00	2,992,000	2,992,000	2,838,000
需用費	式	1.00	22,000	22,000	22,000
事業費				3,014,000	2,860,000

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
中村山公園危険木伐採	伐採・集積	式	1.00	650,600	650,600	明細1
	積込・運搬	式	1.00	1,375,950	1,375,950	明細2
	処理費	式	1.00	66,000	66,000	明細3
	諸経費	式	1.00	627,450	627,450	30%以内
	消費税	%	10.00	2,720,000	272,000	
	計				2,992,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
明細1 伐採・集積	特殊作業員	人	19.00	22,100	419,900	
	とび工	人	7.00	26,700	186,900	
	土木一般世話役	人	1.00	22,800	22,800	
	牽引具損料	日	7.00	3,000	21,000	
	計				650,600	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
明細2 積込・運搬	特殊作業員	人	42.00	22,100	928,200	
	土木一般世話役	人	1.00	22,800	22,800	
	2トンドンプトラック（30km）	車	15.00	12,130	181,950	
	3t グラップルバックハウ	日	11.00	15,000	165,000	
	グラップルバックハウ回送費	回	2.00	6,000	12,000	
	軽トラック賃料（小運搬）	日	11.00	6,000	66,000	
	計				1,375,950	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
明細3 処理費	伐採木処理費	トン	22.00	3,000	66,000	
	計				66,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
明細4 需用費	みえ森と緑の県民税看板	基	1.00	22,000	22,000	
	計				22,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	尾鷲市
番 号	事 業 名				
4	クップ普及推進事業				
事 業 費	471,199 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			471,199		

1. 事業の目的	クップ普及の推進は、地元産の木材を利用した木育事業と併せ、生涯スポーツの振興につなげるべく行っており、三重国体においても本市で実施されることから、先進地である岩手県住田町を視察し、より競技の普及振興や木とふれあう木育事業を推進していく事はもとより、競技や木材をとおした交流につなげていく。
2. 事業実績概要	【事業内容】 スポーツ振興と木育活動の一環として「クップ」を普及するため、先の国体で「クップ」を実施し、その後も全国規模の大会を行うなど、スポーツ振興だけでなく、地元産木材の活用につなげている岩手県住田町を視察し、木材を通じた交流や、「クップ」の普及を図る。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 尾鷲市教育委員会（委託先：印刷会社（啓発シール印刷）） 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 該当しない。 【事業量】 岩手県住田町への旅費4名分（職員2名分、外部2名分）、配布用の普及啓発用品 【事業実施期間】 令和元年5月～令和2年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 参加者名簿等の作成、目視による数の確認。今年度イベント、講習会参加者約1,000人
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有	【実施箇所の選定理由】 視察を通じて、生涯スポーツとして確立した手法を学び、スポーツ振興と木育活動の一環として「クップ」を市内外に対して広く普及を行ない、競技人口を増やすため。 【事業実施により得られた効果】 「クップ」という木材を利用した競技を普及させ、地元の尾鷲ヒノキを身近に感じ、触れることで、児童生徒や、保護者等の幅広い利用者に対し、木育と森林の重要性や必要性の認識を深めることができた。 また、今回の視察を参考にしつつ、近隣市町の各種イベント等に積極的に参加することでPRが図られ、競技人口拡大に向けて一定の効果が得られたと思われる。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 森林整備、物品購入でないため、該当しない。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 参加者にはとても興味を持っていただき、市内だけでなく県内の方にもかなり浸透してきた。市内小学校の放課後などにもクップをする学校もある。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市
------	-------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
4	クップ普及推進事業				
事 業 費	471,199 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			471,199		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

請負契約、その他（出張）

【実施方法の選定理由】

市の関係規定による。

【契約方法と落札率または補助率等】

隨意契約

【契約相手方の選定理由】

市の関係規定による。

【事業費の積算根拠】

業者からの見積りによる積算

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がさ

【事業参加や整備施設等の公益性】

年代を問わず幅広い層が参加しやすいスポーツであり、生涯スポーツの推進に加えて木育にも寄与することから、多くの人が木と触れ合えるきっかけとなると思われる。

【公的関与の必要性】

小中学校や市民全般にクラブの普及を図るため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林等の整備でないため、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用し

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

市民全般

【情報発信の内容】

市で県民税を活用して行われる全ての事業において、市民に知っていただくために一括で行い周知した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名

尾鷲市

事業名 クップ普及推進事業

7. 写真



写真1

クップ体験の様子①（視察先）

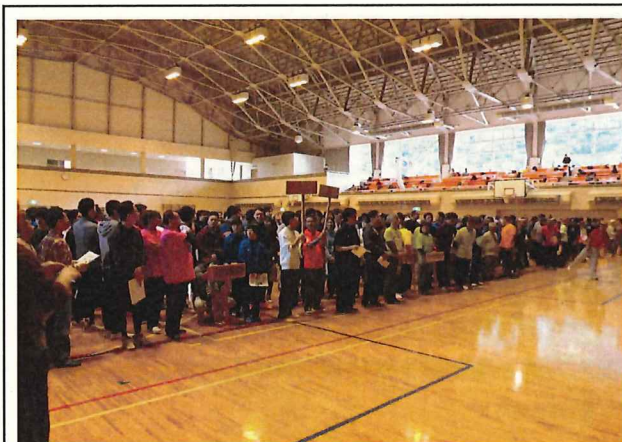


写真2

クップ体験の様子②（視察先）



写真3

クップ体験の様子③（視察先）



写真4

クップ体験の様子④（地域イベント等）

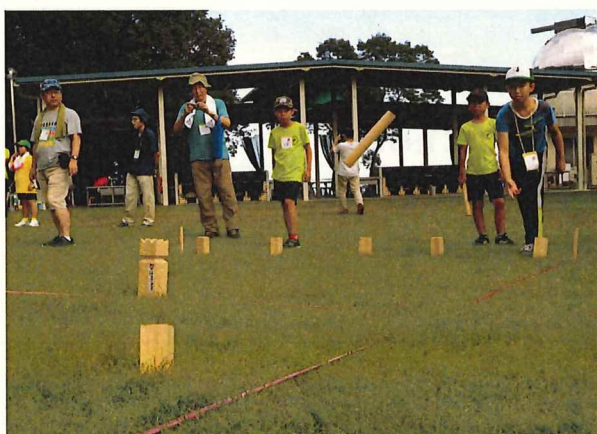


写真5

クップ体験の様子⑤（地域イベント等）

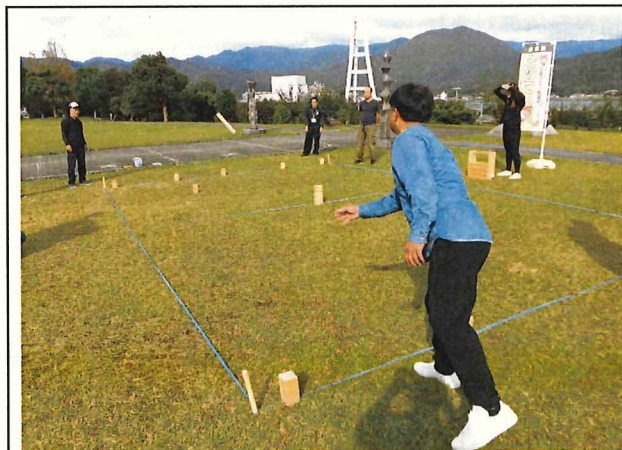


写真6

クップ体験の様子⑥（地域イベント等）

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	尾鷲市
-----	-----

事業名	クラブ普及推進事業
-----	-----------

普及啓発シール



対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり			市町名	尾鷲市	
事業名	クップ普及推進事業					
積算資料（実績報告参考資料）						
作業内容	単位	数量	単価	金額	備考	
クップジャパンオープンin2019岩手県住田町視察	式	1.00	351,200	351,200		
普及啓発物品購入	式	1.00	119,999	119,999		
事業費				471,199		
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
クップジャパン オープンin2019岩 手県住田町視察	旅費	人	4.00	87,800	351,200	
	計				351,200	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
普及啓発物品購入	シール印刷	枚	1200.00		119,999	
	計				119,999	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市
------	-------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
5	木とふれあう学校環境づくり事業				
事 業 費	2,395,160 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,395,160		

1. 事業の目的	新たに学校に市産材で制作した机・椅子を配置することにより、木のぬくもりにふれあう機会を提供し、快適な学習環境を整備するとともに、以前に県民税を活用して整備した机の天板を修理し、再利用する。また、子どもの頃から木材にふれあうことで、森林や木材に関する知識・理解を習得することを目的とする。
2. 事業実績概要	【事業内容】 平成31年4月に3校が統合した賀田小学校において、県産材の木製机・椅子を児童自らが組立て使用するとともに、以前に整備した宮之上小学校の木製机の天板交換を行う。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 尾鷲市教育委員会（委託先：森林組合） 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 尾鷲市立賀田小学校、尾鷲市立宮之上小学校 【事業量】 賀田小学校 市産材で製作した組立式の机・椅子 60セット 宮之上小学校 市産材で製作した組立式の机の天板の研磨 17枚 【事業実施期間】 平成31年4月～令和2年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 小学校児童及び保護者（賀田小学校児童数 60名、宮之上小学校児童数 20名）
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 統合を契機に新たに児童用木製机・椅子を整備するとともに、以前に児童用木製机・椅子を整備した学校で、継続して事業を実施することが効果的であるため。 【事業実施により得られた効果】 机や椅子を地元の木材を使って児童自らが組み立てることにより、自分が使うものを自分で作ったことで愛着を持つと共に、ものを大切に作る心を育む機会と木の温もりに触れ合う機会の確保に繋がった。 また、併せて森林に対する説明を行い、尾鷲の林業を知るきっかけとする良い教材となっている。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 各小学校が管理する。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 児童は自分たちで組立てた机であることから大切に使用し木の温もりを感じながら日々、学習に励んでいる。また、学校の教職員等についても、木の良さや物を大切に作る気持ちを児童や保護者に伝えると共に、子供が思い出となる机、椅子になることで喜ばれている。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市
------	-------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
5	木とふれあう学校環境づくり事業				
事 業 費	2,395,160 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,395,160		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

物品購入、請負契約

【実施方法の選定理由】

小学校の机（備品）であるため、市による発注を行なっている。

【契約方法と落札率または補助率等】

プロポーザル、随意契約

【契約相手方の選定理由】

備品整備した木製机・椅子は、契約事業体の独自モデルであることから、メンテナンスについて熟知しており、迅速な対応が可能であるため。

【事業費の積算根拠】

業者から見積を徴収し費用を積算した。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

林業の推進や普及、森林整備の重要性を考える上で、これからを担っていく児童への木育の場を提供することが重要であると考えするため

【公的関与の必要性】

小学校の机（備品）であるため

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

小学校の木製机・椅子であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ○広報誌掲載 ○新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

市民（主に児童、保護者、学校関係者）

【情報発信の内容】

市で県民税を活用して行われる全ての事業において、市民に知っていただくために一括で行い周知した。

組立ての際に親も参加していただき、県民税の説明を行なった。また、学校だより等を活用して、保護者に対し周知した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	尾鷲市
-----	-----

事業名	木とふれあう学校環境づくり事業
-----	-----------------

7. 写真

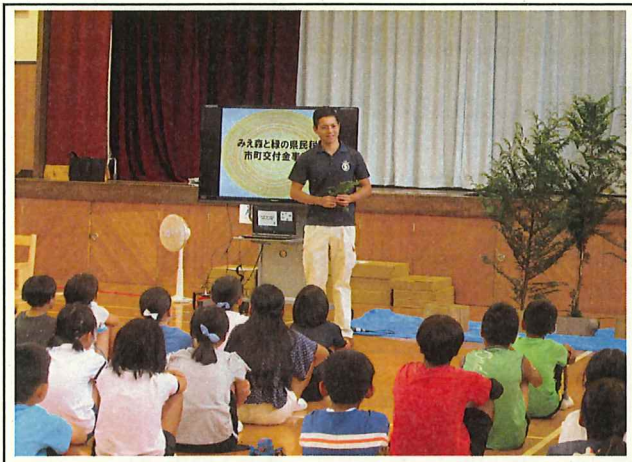


写真1

森林、尾鷲ヒノキの講和①

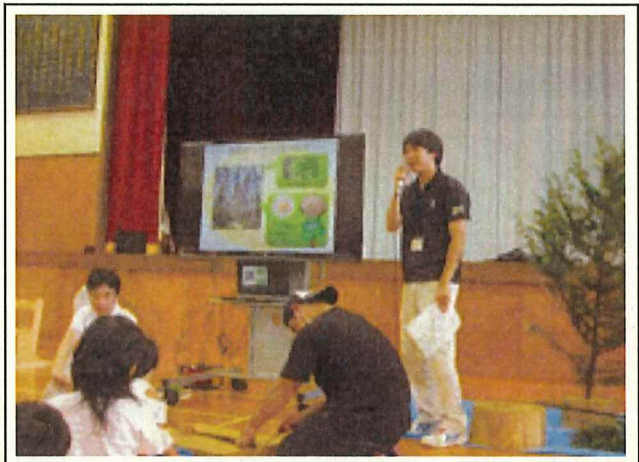


写真2

森林、尾鷲ヒノキの講和②

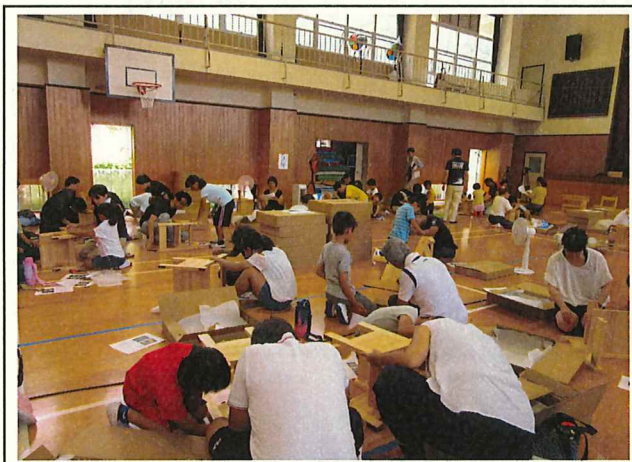


写真3

机、椅子を作る児童と保護者①



写真4

机、椅子を作る児童と保護者②



写真5

机の天板を磨く児童と保護者①（卒業する6年生が使用した机を親子で磨き、新入生に引き継ぎます）



写真6

机の天板を磨く児童と保護者②（卒業する6年生が使用した机を親子で磨き、新入生に引き継ぎます）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	尾鷲市
-----	-----

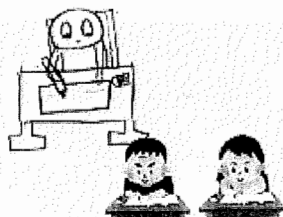
事業名	木とふれあう学校環境づくり事業
-----	-----------------

賀田小学校の組立を行った児童の感想

木のつくえといすのくみだてについて

●組み立てたときや使ったときにわかったこと、おもったこと、感想
絵を書いてくてもいいよ。

組み立てる時は、お父さんが手伝ってくれました。組み立てていくうちにワクワクしてきました。
使ってみると、ひのきのいい香りがして、前よりも勉強するとき集中できるようになりました。尾鷲のひのきでこのつくえといすが作られていると思うと、うれしくなれます。これからも、このつくえといすを大切に使用していきたいと思いました。



組み立てたときに思ったこと、使ってみて感じたことを書いてね！

木のつくえといすのくみだてについて

●組み立てたときや使ったときにわかったこと、おもったこと、感想
絵を書いてくてもいいよ。

私たちのために尾鷲ヒノキでいすとつくえをくらしてくれてありがとうございます。使ったことは、前のつくえといすよりも、かくて、すべすべでつかいやすいです。本当にありがとうございました。



組み立てたときに思ったこと、使ってみて感じたことを書いてね！

木のつくえといすのくみだてについて

●組み立てたときや使ったときにわかったこと、おもったこと、感想
絵を書いてくてもいいよ。

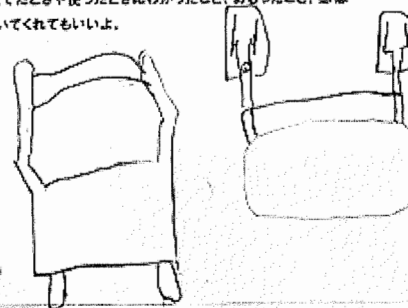
私たちのために木を切ってくみだてるようにしてくれてありがとうございます。木のつくえでまい日勉強の力がたのしみです。木のつくえをくみだてる時、早く木のつくえで勉強したいと思いました。それにすわりマッパもよくて勉強がしやすかったです。私たちのためにありがとうございます。^_^



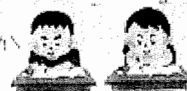
組み立てたときに思ったこと、使ってみて感じたことを書いてね！

木のつくえといすのくみだてについて

●組み立てたときや使ったときにわかったこと、おもったこと、感想
絵を書いてくてもいいよ。



組み立てたとき、お父さんと一緒に組み立てました。つるつるして、気持ちがいいです。尾鷲ヒノキも育ててくれてありがとうございます。大切に大事にうかいます。



組み立てたときに思ったこと、使ってみて感じたことを書いてね！

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	尾鷲市
-----	-----

事業名	木とふれあう学校環境づくり事業
-----	-----------------

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	尾鷲市
-----	-----

事業名	木とふれあう学校環境づくり事業
-----	-----------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
組立式木製児童用机・椅子購入	式	1.00	2,268,000	2,268,000	
事業費				2,268,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
組立式木製児童用机・椅子購入	机・椅子	組	60.00	35,000	2,100,000	
	消費税	%	8.00	2,100,000	168,000	
	計				2,268,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり			市町名	尾鷲市
------	-------------------	--	--	-----	-----

番 号	事 業 名				
6	木とふれあう木育活動推進事業				
事 業 費	1,100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,100,000		

1. 事業の目的

保育園の園児に対し、幼児期から木とふれあう機会を設ける木育活動を推進するために、以前に保護者アンケートを実施した際に要望のあった尾鷲ヒノキ製木製遊具を整備する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

昨年に続きまだ木製遊具が整備されていない保育園に対し、尾鷲ヒノキ製木製遊具（木製キッチン等）を整備することで、木育事業を推進していく。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市（委託先：森林組合）

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

4箇所（第一保育園、第二保育園、尾鷲乳児保育園、南輪内保育園）

【事業量】

木製オープン棚、木製キッチン、木製冷蔵庫、木製電子レンジ、木製ドレッサー、木製椅子 各4個

【事業実施期間】

令和元年5月～令和2年3月

【受益者、参加者、利用者数等】

第一保育園、第二保育園、尾鷲乳児保育園、南輪内保育園の園児（計206人）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

園児が木製の製品にふれることで、木の持つ温かみや香り、肌ざわりを感じることができるよう整備し、より快適な木育環境を整える。

【事業実施により得られた効果】

交付金を用いての備品整備であることから、保護者に対して、県民税に対する理解と併せ、森林の重要性や必要性についての認識が深まり、また、園児には、遊びながら木の良さを体感できる機会を設けることができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

各保育園において管理する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

以前に保育園に対し行われたアンケートにおいても木製のおままごとセットの希望が多かったことから、保護者からも喜ばれている。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市
------	-------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
6	木とふれあう木育活動推進事業				
事 業 費	1,100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,100,000		

4 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

物品購入契約

【実施方法の選定理由】

市の備品購入であるため

【契約方法と落札率または補助率等】

一般競争入札

【契約相手方の選定理由】

一般競争入札

【事業費の積算根拠】

業者から見積りを徴取し積算

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

幼少期から木の温もりに触れる機会を設けることで、園児だけでなく、先生やその保護者にも木について知ってもらう機会に繋がると考える。

【公的関与の必要性】

木育を進める上で、幼少期から木の温もりに触れる機会が必要と考えるため

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

個人が所有する森林等の整備ではないため、該当しない。

保育園に整備された備品であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

○チラシ配布（配布対象者：保護者） ・ポスター掲示（掲示場所：）

・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

市民（主に園児、保護者）

【情報発信の内容】

市で県民税を活用して行われる全ての事業において、市民に知っていただくために一括で行い周知した。

また、保護者に対してチラシを配布し、県民税や森林整備の重要性等を周知した。

7. 写真

別紙のとおり

8 その他特記事項

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	尾鷲市
-----	-----

事業名	木とふれあう木育活動推進事業
-----	----------------

7. 写真

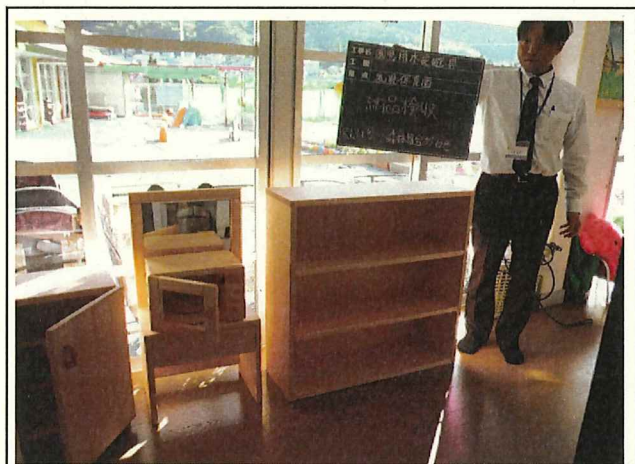


写真1

搬入（尾鷲乳児保育園）



写真2

搬入（第一保育園）



写真3

搬入（第二保育園）



写真4

搬入（南輪内保育園）



写真5

みえ森と緑の県民税のマーク①



写真6

みえ森と緑の県民税のマーク②

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	尾鷲市
-----	-----

事業名	木とふれあう木育活動推進事業
-----	----------------

7. 写真

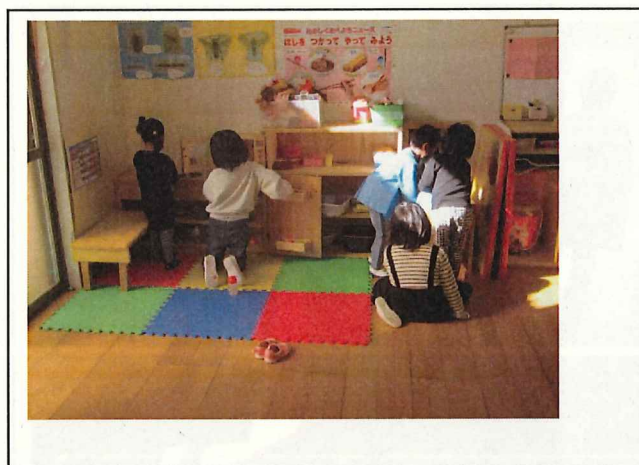


写真 7
木製遊具で遊ぶ園児

保護者への配布チラシ

保護者の皆様へ

尾鷲市水産農林課

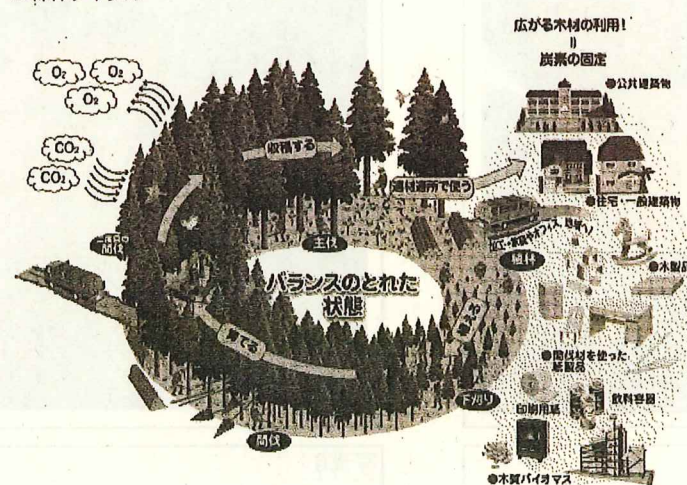
今回、保育園に導入しましたおままごとセット（木製オープン棚、木製キッチン、木製冷蔵庫、木製電子レンジ、木製ドレッサー、木製椅子）は、「みえ森と緑の県民税」を活用し、地元の尾鷲ヒノキを使って製作しています。

現在、尾鷲市内の森林は、十分な手入れがされていないため木の生長が良くないことから降雨の際に土砂が流れ出しやすくなり、山崩れの原因となってきます。

手入れを進めるためには、「植える、育てる、収穫する、適材適所で使う」といった森林サイクルにより、森林のバランスのとれた状態が重要です。そのため、今回のおままごとセットには、地元の尾鷲ヒノキを使い「適材適所で使う」森林サイクルの一部となっています。

保護者の皆様におかれましても、この森林サイクルをご理解され、機会がありましたら地元産材を使っていただけると幸いです。

○森林サイクル



対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市
------	-------------------	-----	-----

事業名	木とふれあう木育活動推進事業
-----	----------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
備品購入 木製遊具（木製オープン棚、木製キッチン、木製冷蔵庫、木製電子レンジ、木製ドレッサー、木製椅子）4組	式	1.00	1,100,000	1,100,000	
事業費				1,100,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
備品購入	木製遊具セット購入	組	4.00	250,000	1,000,000	
木製遊具（木製オープン棚、木製キッチン、木製冷蔵庫、木製電子レンジ、木製ドレッサー）	消費税	%	10.00	1,000,000	100,000	
	計				1,100,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

尾鷲市

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(円)	内、譲与税
1	① 意向調査の準備作業	278	278
2	⑭ 基金積立（木材利用等）	13,102	13,102
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	13,380	13,380

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

紀北町

紀北町

第16号様式

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業、市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

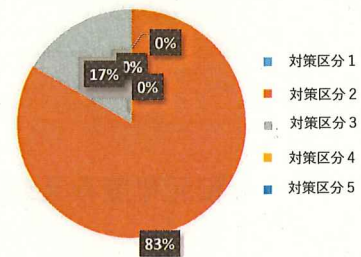
市町名	紀北町	三重県
人口（人）	15,046	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	8.5%	12.4%
森林面積(ha)	22,934.39	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	18,009.40	348,833.49
森林率(%)	89.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	41.3	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）						内当年度 交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	2	危険木伐採事業	4,281,820	4,081,000		4,081,000				4,081,000
2	2	集落周辺森林（里山）整備事業	192,455	174,000		174,000				174,000
3	3	県民植樹活動事業	870,000	850,000			850,000			850,000
		みえ森と緑の県民税基金積立	6,904,000	0						6,904,000
										0
										0
										0
		計	12,248,275	5,105,000	0	4,255,000	850,000	0	0	12,009,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(m)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業	2,503(m)	4,203,996	1,681,816	鳥獣害防護柵新設・補修

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	町民の安全・安心を守る暮らしに身近な森林づくりと、時代を担う子どもたちへの森林の大切さを学ぶ機会の創出。
事業実施により得られた効果	危険木伐採等の森林管理の意識の向上が見られ、補助金活用の要望が増加した。 植樹活動によって森林や林業についての関心が高まったと考えられる。
情報発信への取組	地元新聞にて県民植樹活動事業について、開催内容の情報発信を行った。 事業全体については、今後町民を対象とした行政懇談会等で情報発信を行う。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	紀北町
番 号	事 業 名				
1	危険木伐採事業				
事 業 費	4,281,820 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,081,000		200,820

1. 事業の目的	人家その他公共施設等に密接し、倒木の危険性のある立木による被害を未然に防止し、生活環境の保全や向上を図る観点から人家裏山林の危険木の伐採費用について補助を行う。
2. 事業実績概要	【事業内容】 人家に隣接し、倒木になる恐れのある山林内の危険木について、緊急に伐採等する必要がある場合に限り、その費用の一部を自治会に補助する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 自治会 【補助率等】 補助率は伐採経費の10分の9とし、1申請者につき1年度50万円（千円未満は切り捨て）を上限とする。 【箇所数】 11箇所（10自治会）。山本地区1箇所、田山地区1箇所、新町3区1箇所、引本浦地区1箇所、片上2区1箇所、中新田地区1箇所、島勝浦地区1箇所、出垣内5区1箇所、中里地区2箇所、上里地区1箇所 【事業量】 11箇所。228本。 【事業実施期間】 平成31年4月12日～令和2年3月30日 【受益者、参加者、利用者数等】 危険木伐採により生活環境が向上した地区は10地区
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 自治会からの要望、補助申請箇所について、職員が写真及び現地調査により現状を確認し、実施の必要性を検討して交付を決定している。 【事業実施により得られた効果】 集中豪雨や強風時の倒木による危険性を未然に回避し、地域住民の生活環境が向上し、安全、安心が確保された。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 危険木伐採のため、活用予定はなし。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 今回の事業実施により、森林所有者はもとより、各地区の住民が森林の管理の必要性を再認識し、森林整備の意識の醸成につながった。また、各自治会からは、人家裏山林の状況を再度確認した上で事業に取り組みたいと聞いている。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	危険木伐採事業				
事 業 費	4,281,820 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,081,000		200,820

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助事業

【実施方法の選定理由】

町が主体となり個人所有の樹木の伐採はできないため、自治会を主体とした補助事業とした。

【契約方法と落札率または補助率等】

伐採事業費の90%（千円未満切捨て）

上限50万円

【契約相手方の選定理由】

契約ではない。

【事業費の積算根拠】

見積書による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

要望をされた自治会の生活の安全性が向上する。

【公的関与の必要性】

個人では危険木の伐採には手間も費用もかかることで伐採が遅れてしまうため、補助によって早期に伐採することが出来る。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町の補助金交付要綱により、自治会が森林所有者から事業実施の同意は得ているが、転用や目的外使用について書面により一定の制限はかけていない。但し、森林内での必要最低限の危険木伐採であり、転用等の話も聞き及んでいない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

- ・HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
- ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
- ・パネル展示（展示場所： ） ○看板設置（設置場所：各事業施工場所 ）
- ・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

地区住民

【情報発信の内容】

みえ森と緑の県民税を活用した事業箇所であることを明記した看板の設置

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

暮らしに身近な森林づくりの重要性を再認識し、税を活用する事業であることを自治会（地区住民）で議論していただくために、自治会としての要望書の提出を事前に義務付けている。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	紀北町
-----	-----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7. 写真

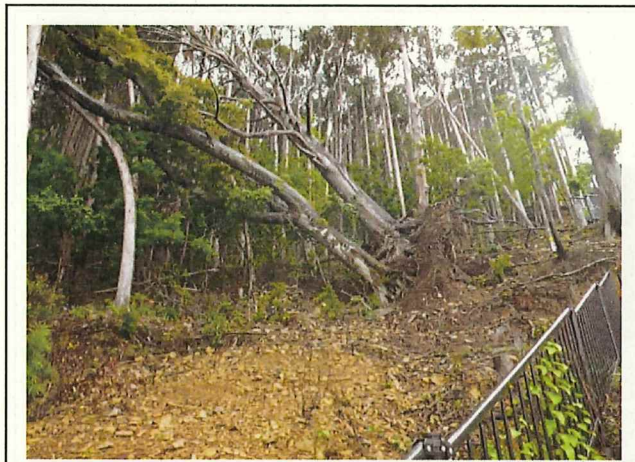


写真1

新町3区【実施前】

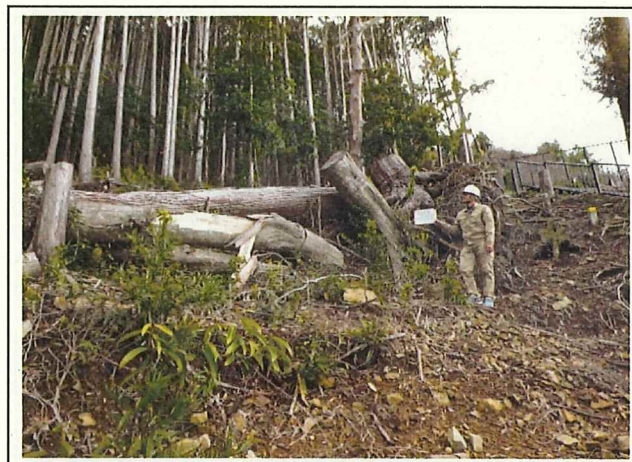


写真2

新町3区【実施後】



写真3

新町3区【看板設置状況】

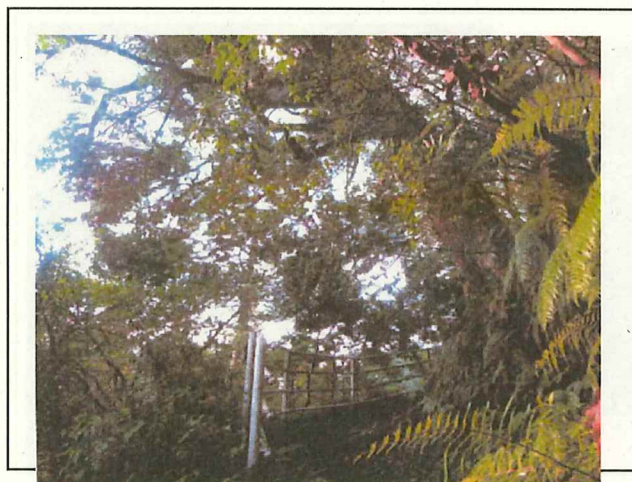


写真4

中新田地区【実施前】



写真5

中新田地区【実施後】

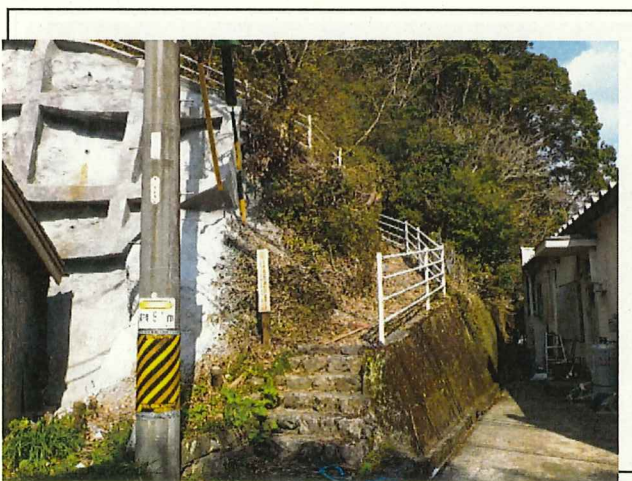


写真6

中新田地区【実施後】

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	紀北町
-----	-----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7. 写真



写真7

島勝浦地区【実施前】



写真8

島勝浦地区【実施後】



写真9

島勝浦地区【看板設置状況】

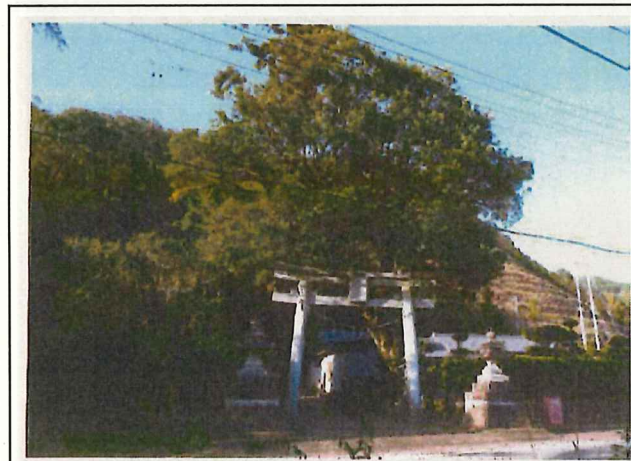


写真10

中里地区【実施前】



写真11

中里地区【実施後】



写真12

中里地区【看板設置状況】

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
------	-----------------	-----	-----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考（伐採経費）
中里区	式	1.00	137,000	137,000	152,280
中里区	式	1.00	263,000	263,000	292,680
島勝浦区	式	1.00	336,000	336,000	374,440
田山区	式	1.00	189,000	189,000	210,600
中新田区	式	1.00	284,000	284,000	316,580
上里区	式	1.00	399,000	399,000	444,400
引本浦自治会	式	1.00	407,000	407,000	452,790
新町3区	式	1.00	354,000	354,000	394,200
出垣内5区	式	1.00	498,000	498,000	554,400
片上2区	式	1.00	500,000	500,000	564,570
山本区	式	1.00	472,000	472,000	524,880
需用費	式	1.00	242,000	242,000	
事業費				4,081,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
中里区	危険木伐採（1本）	式	1.00	137,000	137,000	補助金
	計				137,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
中里区	危険木伐採（1本）	式	1.00	263,000	263,000	補助金
	計				263,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
島勝浦区	危険木伐採（20本）	式	1.00	336,000	336,000	補助金
	計				336,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
田山区	危険木伐採（12本）	式	1.00	189,000	189,000	補助金
	計				189,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
中新田区	危険木伐採（10本）	式	1.00	284,000	284,000	補助金
	計				284,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
上里区	危険木伐採（20本）	式	1.00	399,000	399,000	補助金
	計				399,000	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
------	-----------------	-----	-----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
引本浦自治会	危険木伐採（21本）	式	1.00	407,000	407,000	補助金
	計				407,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
新町3区	危険木伐採（30本）	式	1.00	354,000	354,000	補助金
	計				354,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
出垣内5区	危険木伐採（34本）	式	1.00	498,000	498,000	補助金
	計				498,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
片上2区	危険木伐採（28本）	式	1.00	500,000	500,000	補助金
	計				500,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
山本区	危険木伐採（51本）	式	1.00	472,000	472,000	補助金
	計				472,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
需用費	みえ森と緑の県民税看板	基	11.00	22,000	242,000	補助金
	計				242,000	

※補助率等

補助率は伐採経費の10分の9とし、1申請者につき1年度50万円（千円未満は切り捨て）を上限とする。

補助対象経費は伐採経費のみとする。

当該危険木の森林所有者とその隣接する人家等の所有者が同一でないこと。

緊急的な伐採が必要な危険木であること。

地目は山林であること。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名			
2	集落周辺森林（里山）整備事業			
事 業 費	192,455 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			174,000	その他
				18,455

1. 事業の目的	当地域は、沿岸部に人家が密集し、背後に急傾斜地を有する人家が多く、近い将来想定される東南海地震による津波の襲来が心配される。また、近年人家周辺山林に人が入ることが少なくなり、野生動物の隠れ場になっているケースも多い。 このような集落周辺等の荒廃が進む森林を住民自らが整備し、森林の持つ多面的な機能を活用し、安全安心・快適な生活環境を創出していく。
2. 事業実績概要	【事業内容】 集落周辺等の荒廃森林や登山道において、風倒木の伐採、不要萌芽の除去、雑草木の刈払い、歩道の作設、土留めなどの森林整備活動費を実施した地域住民で組織する団体（ボランティア組織）に補助する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 地域住民で組織する団体（ボランティア組織） 【補助率等】 3名以上で組織する団体が自主的に取り組む、集落周辺の森林整備等に関する保全活動及び森林環境整備活動に直接必要と認められる経費（人件費、食糧費等は除く。）で、1ヘクタール当たり16万円を上限とする。 補助金の額は1団体、年度当たり20万円を上限とする。 集落から概ね1km圏内の森林であること。 森林整備の場合は、森林所有者と『森林に関する協定』を締結している森林で事業を実施すること。 【箇所数】 1箇所（1団体）、箇所名：大台ヶ原尾鷲道、木津道 団体名：NTRC 【事業量】 登山道整備：14,340m 【事業実施期間】 平成31年4月12日～令和2年3月25日 【受益者、参加者、利用者数等】 整備は2つの登山道で実施されており、受益人数の把握は困難だが、多くの登山者への波及効果が期待できる。
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 団体からの補助申請箇所について、職員が写真及び現地調査により現状を確認し、実施の必要性を検討して交付を決定している。 【事業実施により得られた効果】 不要な萌芽を除去し、散策路の安全、安心が図られると期待できる。また、登山道が整備され、登山者の安全、安心が図られる。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 登山道として活用される。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 登山者からは、登山道の環境が整備され、安全性が増したという意見をいただいている。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	集落周辺森林（里山）整備事業				
事 業 費	192,455 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			174,000		18,455

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助事業

【実施方法の選定理由】

荒廃した里山等の再生並びに集落周辺の森林整備など、暮らしに関わりの深い森林づくりが地域住民の自主的な取り組みにより継続的に実施されることを期待するとともに、最小限の費用で整備することが可能であることから団体への補助事業としている。

【契約方法と落札率または補助率等】

森林整備活動に直接必要と認められる経費（人件費、食糧費は除く。）で、1ヘクタール当たり単価は、新規箇所では16万円、継続箇所は8万円とし、1団体、年度当たり20万円を上限とする。

【契約相手方の選定理由】

契約はしていない。

【事業費の積算根拠】

集落周辺森林（里山）の整備に必要な活動経費（人件費、食糧費は除く。）を補助対象としており、実績報告により提出された請求書や領収書により、町職員が支出内容を確認している。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

大台ヶ原への登山道の整備であり、多くの登山者の利用が期待できる。

【公的関与の必要性】

紀北町は「自然と共生の町」を宣言しており、豊かな自然のある大台ヶ原への登山道の整備であることから、税を活用した登山者の安全確保は必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

登山道については以前から登山者や森林所有者が利用しており、今後も同様の活用となると考えられる。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

・ＨＰ掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

・パネル展示（展示場所： ） ○看板設置（設置場所：事業施工箇所 ）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

登山道の利用者

【情報発信の内容】

みえ森と緑の県民税を活用した事業箇所であることを明記した看板の設置

7 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

『NTRC』に対し、本事業の取り組みを継続的に実施するよう求めた。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	紀北町
-----	-----

事業名	集落周辺森林（里山）整備事業
-----	----------------

7. 写真

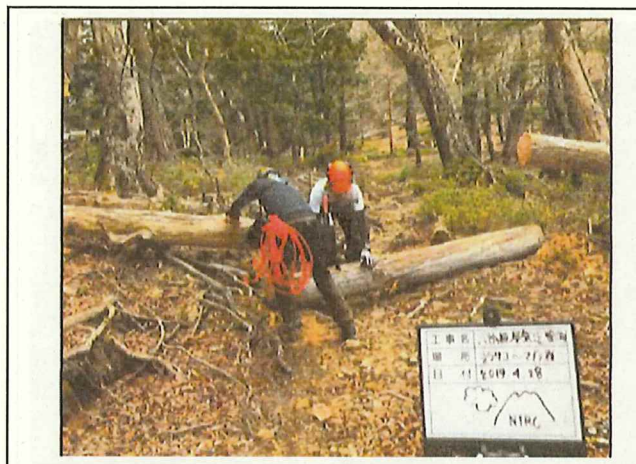


写真1
大台ヶ原尾鷲道【実施中】

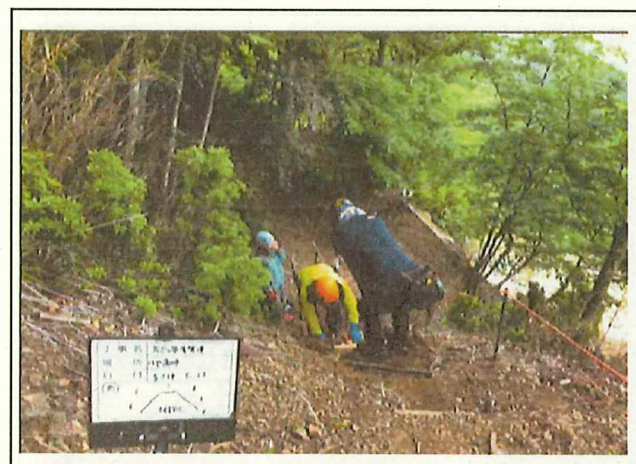


写真2
大台ヶ原尾鷲道【実施中】



写真3
大台ヶ原尾鷲道【実施中】



写真4
木津道【実施中】



写真5
木津道【実施中】

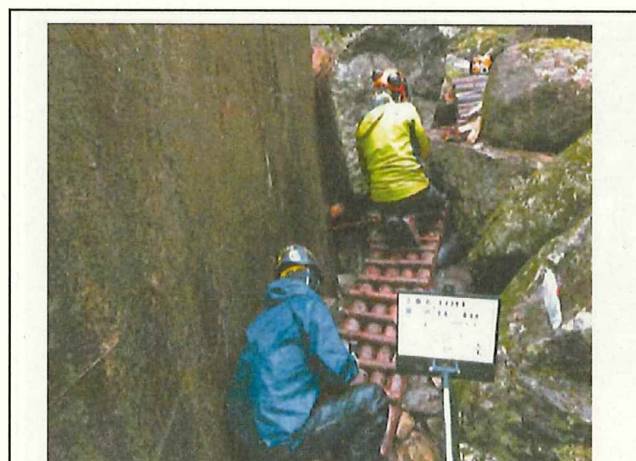


写真6
木津道【実施中】

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	紀北町
-----	-----

事業名	集落周辺森林（里山）整備事業
-----	----------------

7. 写真

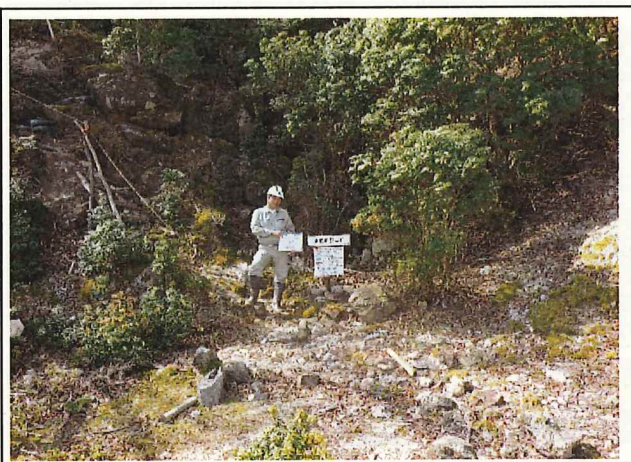


写真1

大台ヶ原尾鷲道【実施後】



写真2

大台ヶ原尾鷲道【実施後】

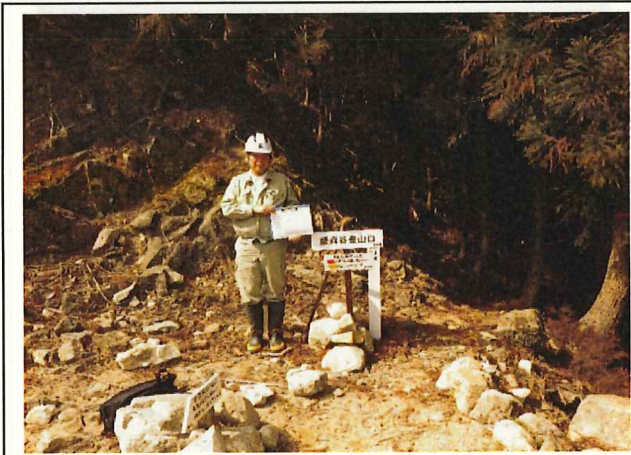


写真3

大台ヶ原尾鷲道【実施後】



写真4

木津道【実施後】



写真5

木津道【実施後】



写真6

木津道【看板設置状況】

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
------	-----------------	-----	-----

事業名	集落周辺森林（里山）整備事業
-----	----------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考（実行経費）
登山道整備	式	1.00	152,000	152,000	170,455
需用費	式	1.00	22,000	22,000	22,000
事業費				174,000	192,455

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
登山道整備	補助金	式	1.00	152,000	152,000	
	計				152,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
需用費	みえ森と緑の県民税看板	基	1.00	22,000	22,000	
	計				22,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	※補助率等					備 考
	3名以上で組織する団体が自主的に取り組む、集落周辺の森林整備等に関する保全活動及び森林環境整備活動に直接必要と認められる経費（人件費、食糧費等は除く。）で、1ヘクタール当たり16万円を上限とする。					
	補助金の額は1団体、年度当たり20万円を上限とする。					
	集落から概ね1km圏内の森林であること。					
	森林整備の場合は、森林所有者と『森林に関する協定』を締結している森					
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	紀北町
番 号	事 業 名				
3	県民植樹活動事業				
事 業 費	870,000 円	(財源内訳)	当年度交付金 850,000	市町基金	その他 20,000

1. 事業の目的

森林や緑には、きれいな水を蓄える機能や地球温暖化防止、県土の保全など自分たちが健康で快適な生活を送るための欠かすことのできない大きな働きがある。植樹活動をととして、森林や森林づくり活動に関心をもってもらおう。

2. 事業実績概要

【事業内容】

植樹活動及び併催行事

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

紀北町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

1 箇所（紀北町引本浦地内）

【事業量】

面積：0.3ha 参加者数：90名 併催行事来場者：約800名

【事業実施期間】

令和元年 5 月10日～令和元年11月23日

【受益者、参加者、利用者数等】

参加者 90名、海山こだわり市（併催行事）来場者 約800名

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

参加者が楽しみながら植樹活動ができるよう、船舶での移動が可能な海の近くで景色の良い、箇所を選定した。

【事業実施により得られた効果】

参加者一人ひとりが、山や木に直接触れることにより森林について考える機会を増やすとともに、森林や林業に対する意識醸成。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

施設整備等ではなく、該当しない。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

海山こだわり市（併催行事）にて地元森林組合と町外の方の交流があり、森林組合に感謝状が届いた。

27-14

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	紀北町
------	-------------	--	--	-----	-----

番 号	事 業 名				
3	県民植樹活動事業				
事 業 費	870,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			850,000		20,000

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
町直営（交通手段、交通整理等一部外部委託）

【実施方法の選定理由】
町が主体で実施する事業であるため。

【契約方法と落札率または補助率等】
契約はしていない。

【契約相手方の選定理由】
契約はしていない。

【事業費の積算根拠】
見積等による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
多くの媒体を活用して幅広く事前募集を行った結果、植樹活動に72名の一般参加と併催行事参加者800名の森林の重要性について認識を深めることができた。

【公的関与の必要性】
森林の重要性について、実際に植樹活動に参加することにより、深く関心を持ってもらうことを目的としており、町が主体となって税を活用して実施することは必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
町有地であるため、転用はされない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
☐HP掲載 ☐広報誌掲載 ☐新聞掲載 ☐テレビ（行政チャンネル）放映
☐チラシ配布（配布対象者：地元の小学生等） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
・パネル展示（展示場所： ） ☐看板設置（設置場所：事業施工箇所 ）
・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】
参加者、県民

【情報発信の内容】
実施内容等や参加者募集を新聞やチラシ、HPでPR。
みえ森と緑の県民税を活用した事業箇所であることを明記した看板の設置。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	紀北町
-----	-----

事業名	県民植樹活動事業
-----	----------

7. 写真



写真1

【実施中】

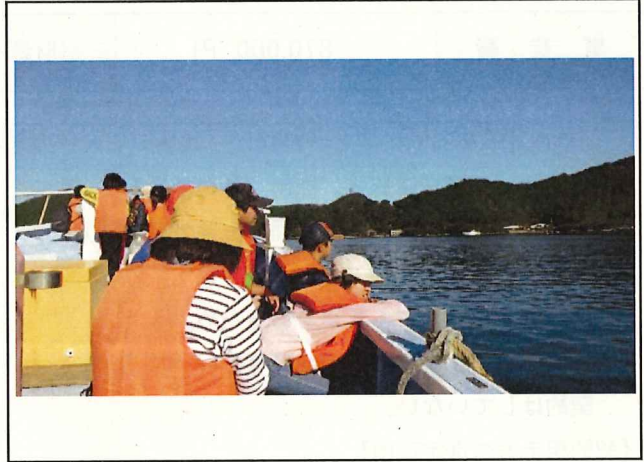


写真2

【実施中】



写真3

【実施中】



写真4

【実施中】



写真5

【実施中】



写真6

【実施中】

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	紀北町
-----	-----

事業名	県民植樹活動事業
-----	----------

7. 写真



写真1
【実施中】



写真2
【実施中】



写真3
【実施中】

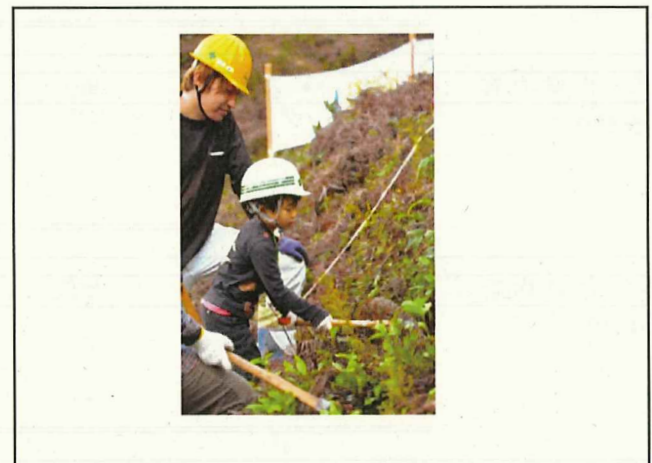


写真4
【実施中】



写真5
【実施後】

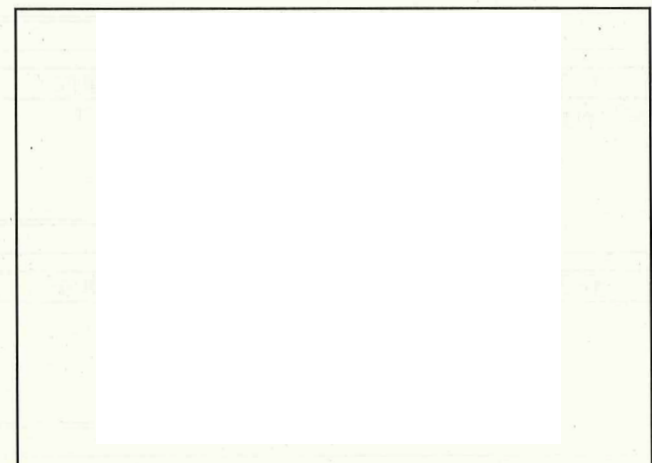


写真6
令和元年11月26日 南海日日

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	紀北町
-----	-----

事業名	県民植樹活動事業
-----	----------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
報償費	式	1.00	44,000	44,000	
需用費	式	1.00	302,148	302,148	
役務費	式	1.00	4,600	4,600	
委託料	式	1.00	303,202	303,202	
使用料及び賃借料	式	1.00	203,400	203,400	
原材料費	式	1.00	12,650	12,650	
事業費				870,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
報償費	出演者報償費	式	1.00	44,000	44,000	
	計				44,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
需用費	消耗品費	式	1.00	398,373	134,373	
	印刷製本費	式	1.00	50,075	50,075	
	修繕料	式	1.00	117,700	117,700	
	計				302,148	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
役務費	クリーニング	式	1.00	4,600	4,600	
	計				4,600	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
委託料	事業委託料	式	1.00	303,202	303,202	
	計				303,202	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
使用料及び賃借料	船舶借り上げ	隻	6.00	144,000	144,000	
	シャトルバス	台	1.00	59,400	59,400	
	計				203,400	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
原材料費	記念植樹苗木	本	1.00	12,650	12,650	
	計				12,650	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀北町
事業名	県民植樹活動事業		

積算資料（実績報告参考資料）

2019 紀北町 天皇陛下御即位記念植樹

海と山と人をつなぐ植樹祭

～尾鷲ヒノキの森をつくらう～

参加者募集 参加費 無料!

三重トヨベツふれあいグリーンキャンペーン

三重トヨベツ株式会社様より、「スズキ三重も、未来の子どもたちへ」という貴賓のもと、苗木を寄贈していただき、苗木を寄贈していただき、苗木の贈呈式が行われます。

参加者全員に 家庭用苗木をプレゼント!

自然に囲まれた 紀北町での植樹祭に ぜひ参加ください!

令和元年 11月23日(土)

開催時間: 13:00 ~ 荒天中止 参加者先着: 80名

会場: 引本港、引本浦字網代地内の町有林

第20回 海・山 こだわり市が 同時開催!

地元生産者が、こだわりの商品を 販売します! 是非ご来場ください。

開催時間: 12:00 ~ 16:00

会場内には 参加者の方へ贈り物として、 保護できるクーラーボックスを設けます。

林業ブース

会場には、木を使ったスズキの (お風呂) やお土産、三重の 木でできた遊具・玩具を展示する「ミ エイ・キャラバン」や木の学校など、 森林や木に触れて楽しめるブースを 設けていますので、是非ご 参加ください。お土産の 撮影申し込みは不要です。

植樹会場へは 船でご来場!

主催: 三重県、紀北町、公益社団法人三重県緑化推進協会、みえづくりサポートセンター
共催: 三重トヨベツ株式会社、海・山こだわり市実行委員会、後援: 緑化・尾鷲市、森林組合おわせ

海と山と人をつなぐ植樹祭って?

森林や木には、災害や地球温暖化の防止や、数々の恵みを与えてくれるなど、私たちの生活には 欠かすことのできない大きな働きをもっています。この植樹祭は、天皇陛下の御即位を記念すると ともに、密植という特徴的な植樹方法で「尾鷲ヒノキの森」をつくることを通じて、「尾鷲ヒノキ林家」 や、普段から身近にある海や森林などの自然に関心を持っていただき、参加者の方々に交流を深め ていただくことを目的としています。

駐車場のご案内

駐車場は、紀北町多目的広場をご利用ください。
駐車場から引本港へはシャトルバスでの移動となります。

【運行時間】
11時40分～
17時00分
まで随時運行

※【住所】三重県北牟婁郡紀北町料馬 481-1

タイムスケジュール

● 海と山と人をつなぐ植樹祭
受付時間 12:00 ~ 13:00
受付場所 引本港市内内

13:00	開会セレモニー
14:00	記念植樹 除幕式
14:10	植樹
15:30	植樹終了

● 海・山こだわり市
開催時間 12:00 ~ 16:00

参加申し込み欄

名 前	年 齢	住 所	電話番号/メールアドレス
1	歳	〒	()
2	歳	〒	()
3	歳	〒	()
4	歳	〒	()

※植樹は斜面での作業が可能な方なら誰でもご参加いただけますが、小学生以下の方は保護者同伴でお申し込みください。植樹の できる関係、足元が滑りやすいなど、お気をつけてご参加ください。
※植樹場所までは徒歩約20分、移動は約20分、移動が早くなるなど気になる方は事前にお問い合わせください。
※申込書に記載された個人情報、このイベントの運営に必要な範囲で、主催者が取得・利用します。承諾なく第三者に開示・提供す ることは一切ありません。

参加方法

上記の参加申し込み欄に必要事項をご記入のうえ、郵送、FAX またはメールにてお申し込みください。 申し込みを確認次第、ご連絡させていただきます。

植樹祭に関する申し込み・問い合わせ先

紀北町 農林水産課 〒519-3292 三重県北牟婁郡紀北町料馬 769番地1 TEL/0597-46-3116 FAX/0597-47-5905
メールアドレス nouri@suisanji-town.mie.kihoku.jp

海・山こだわり市に関する問い合わせ先 海・山こだわり市実行委員会 TEL/090-4861-6737

イベント開催チラシ（表）

イベント開催チラシ（裏）

海と山と人をつなぐ植樹祭

11/23 引本浦網代地内

天皇陛下御即位を記念した植樹祭が行われ、およそ90人が参加しました。ソメイヨシノの記念植樹のあと、参加者はヒノキの苗木を1本1本丁寧に植えていました。

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

紀北町

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(円)	内、譲与税
1	① 意向調査の準備作業	9,130	9,130
2	⑦ その他（森林整備）	1,177	1,177
3	⑬ 木造公共建築物の整備等	1,540	1,540
4	⑰ 基金積立（森林整備等）	9,870	9,870
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	21,717	21,717

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

熊野市

第16号様式

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

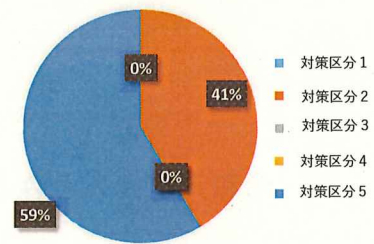
市町名	熊野市	三重県
人口（人）	16,113	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	9.9%	12.4%
森林面積(ha)	32,935.18	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	29,621.62	348,833.49
森林率(%)	88.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	9.8	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）						内当年度 交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	2	身近なみどり整備推進事業	128,000	128,000		128,000				128,000
2	2	暮らしを守る危険木伐採事業	3,029,400	3,029,400		3,029,400				3,029,400
3	5	森とふれあいの場拠点づくり事業	6,733,100	6,733,100					6,733,100	6,733,100
4	2	森林病虫害防除実施事業	1,611,000	1,611,000		1,611,000				1,611,000
5		みえ森と緑の県民税基金積立	4,456,500	0						4,456,500
計			15,958,000	11,501,500	0	4,768,400	0	0	6,733,100	15,958,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	9.31ha	5,394,000	5,394,000	山腹崩壊抑制のための森林整備
森林再生力強化対策事業	14.18m	3,259,873	3,259,873	獣害防止施設等に対する一部補助

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	森林環境譲与税を財源とした森林施策とのすみ分けを行いながら、市の主要な森林施策を展開していくための財源としてみえ森と緑の県民税を活用していく。
事業実施により得られた効果	市が公益性の判断で実施する事業には特定機能の維持を図るもののほか、生活道路や施設の利用者など多くの人々に効果を及ぼすものが多く、県民税事業によって市民だけではなく、市への来訪者も直接的な恩恵を受けている。
情報発信への取組	事業実施の際にはのぼりや看板によって県民税のPRを行っているが、広い市域の中であって事業箇所が点在しており、利用者の目にふれる機会が少ないことから、市の玄関口であるJR熊野市駅や市街地に近い市文化交流センターにおいて例年パネル展示を行っている。

＊評価の参考として、別紙「森林環境譲与税事業の実績」を添付すること。

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	身近なみどり整備推進事業				
事 業 費	128,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			128,000		

1. 事業の目的	市民の暮らしに関わりの深い、集落周辺等の森林や公共の場等の緑地を整備することにより、生活環境の保全や向上を図る。
2. 事業実績概要	【事業内容】 台風等による倒木のおそれがあり、住民生活に支障をきたす危険木の除去に対して支援した。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 区又は個人（森林所有者） 【補助率等】 整備に係る経費の1／2以内（ただし、限度額20万円とする。） 【箇所数】 私有林1箇所 【事業量】 スギ3本 【事業実施期間】 令和元年5月20日～令和2年3月27日 【受益者、参加者、利用者数等】 1集落（23人）が整備によって倒木被害を受けるおそれなくなった。
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 熊野市身近なみどり整備推進事業費補助金交付要綱に規定する補助要件を満たしているため、補助を行った。 【事業実施により得られた効果】 危険木の除去により住民の身近な森林環境が整備されたことで、地域住民の生命及び財産に対する脅威を減らすことができた。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 市民生活への脅威がなくなった場所として、地域住民が快適に暮らすことができるとともに、身近な森林として親しむことができる。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 住み慣れた環境で今後も安心して暮らすことができると喜ばれている。

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり
------	----------------

市町名	熊野市
-----	-----

事業名	身近なみどり整備推進事業
-----	--------------

7. 写真

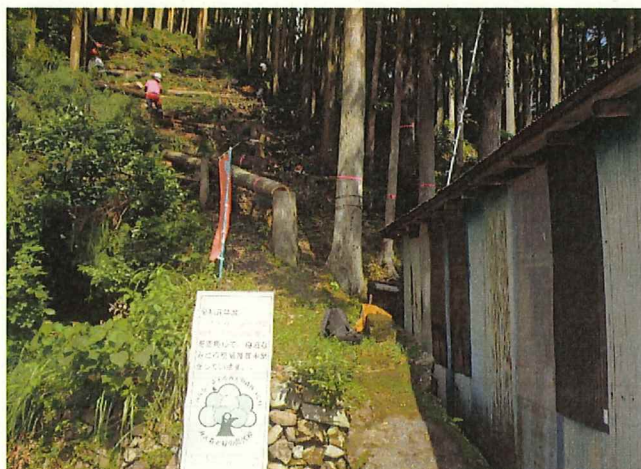


写真1
作業風景①



写真2
作業風景②



写真3
作業風景③



写真4
作業風景④



写真5
作業風景⑤



写真6
作業風景⑥

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市
------	-----------------	-----	-----

事業名	身近なみどり整備推進事業
-----	--------------

積算資料（実績報告参考資料）						
----------------	--	--	--	--	--	--

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
補助金	件	1.00		128,000	対象経費256,504円
事業費		1.00		128,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	暮らしを守る危険木伐採事業				
事 業 費	3,029,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,029,400		

1. 事業の目的		集落間を結ぶ生活道路沿いの倒木等のおそれのある危険木や枝を伐採することにより、台風等の影響により倒木となり生活道路が閉鎖され、集落が孤立することを未然に防止し、日常生活が確保されることを目的とする。
2. 事業実績概要		【事業内容】 集落間の生活道路（林道一の水線）沿いにおいて、倒木等のおそれのある危険木や枝を伐採する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 熊野市（委託先：三重くまの森林組合） 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 1 路線 【事業量】 危険木除去延長 L = 3,785m 【事業実施期間】 令和元年5月20日～令和2年3月27日 【受益者、参加者、利用者数等】 対象道路が結ぶ2集落の1,652世帯3,230人の交通の利便性が向上した。
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】		
【実施箇所の選定理由】		危険木伐採の未整備路線であり、生活物資の購入などを行う市街地に通じる生活道路であるため。
【事業実施により得られた効果】		倒木等によるライフラインの断絶のおそれなくなり、地域住民が住み慣れた環境で安全・安心の暮らしをしていくことが維持される。
【整備した場所・施設・備品の今後の活用】		道路管理者である熊野市が適正に維持管理することにより、今後も多数の地域住民が利用する集落間道路の役割を果たしていく。
【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】		買い物や通勤の利便性が向上し、住み慣れた環境で今後も安心して暮らすことができると喜ばれている。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	熊野市
-----	-----

事業名	暮らしを守る危険木伐採事業
-----	---------------

7. 写真



写真1

林道一の水線（整備後）①

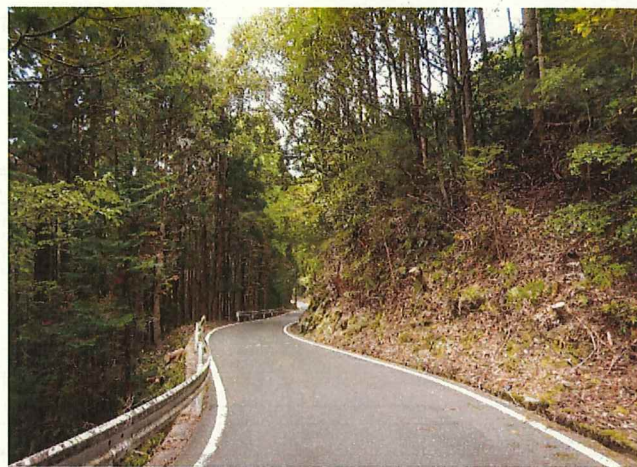


写真2

林道一の水線（整備後）②



写真3

林道一の水線（整備後）③



写真4

林道一の水線（整備後）④



写真5

林道一の水線（整備後）⑤



写真6

林道一の水線（整備後）⑥

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	熊野市	
事業名	暮らしを守る危険木伐採事業					
積算資料（実績報告参考資料）						
作業内容		単位	数量	単価	金額	備考
直接費（伐採工）		式	1.00		2,187,000	直接費の30%以内
諸経費					649,000	
消費税（8%）					226,880	
事業費					3,062,880	設計金額
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
直接費	伐採工	m	3785.00	578	2,187,730	
	計				2,187,000	伐採工金額
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
直接費 単価積算根拠	作業員	人	2.00	14,900	29,800	
	機械損料	人	2.00	2,300	4,600	
	労務諸経費	%	36.00	34,400	12,384	
	高所作業車	日	1.00	11,048	11,048	
	計				57,832	m当たり578円
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり			市町名	熊野市
番 号	事 業 名				
3	森とふれあいの場拠点づくり事業				
事 業 費	6,733,100 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,733,100		

1. 事業の目的

癒しや健康づくり、森林環境教育の場として活用するなど、地域住民にとって身近に森や緑とふれあうことのできる森林公園の整備を行う。

2. 事業実績概要

【事業内容】

森林公園内の歩道の修繕や枯損木の除去、雑草木の除去などを実施する。また、新たな景勝林づくりとして、クマノザクラの植栽を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

熊野市（委託先：三重くまの森林組合）

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

下刈り等：5森林公園（鬼ヶ城園地、小鳥の囀る森公園、田平子公園、夕陽の丘公園、湯ノ口公園）
クマノザクラ植栽：1箇所

【事業量】

下刈り等：14.32ha、クマノザクラ植栽：0.13ha・200本

【事業実施期間】

令和元年5月20日～令和2年3月27日

【受益者、参加者、利用者数等】

公園利用者：合計37,900人（鬼ヶ城園地30,000人・小鳥の囀る森公園300人・湯ノ口公園7,000人・夕陽の丘公園300人・田平子公園300人）、植栽参加者7名（入鹿小学校5・6年生）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

下刈り：熊野市が管理し、一定の利用者が見込まれる森林公園であるため。
クマノザクラ植栽：周辺に温泉施設やトロッコ電車駅舎、北山川などの観光資源が多く、景勝林としての適地であるため。

【事業実施により得られた効果】

日常的に森林や緑にふれあうことのできる拠点を利用者に提供することができている。また、地元小学生がクマノザクラを植栽したことにより、植栽地や木に対する愛着を持ってもらうことができ、シイタケの菌打ち体験などと合わせて森林環境学習を実施することができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

熊野古道を訪れる観光客や、トレイルランニングやボルダリングの愛好者、温泉施設の利用客などが周辺森林環境を快適に利用するための拠点として活用していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

参加した児童からは、クマノザクラの植栽を行った際は「きれいな桜が咲くのが楽しみ」など、地元の山林の将来の姿を楽しみする感想が聞かれ、また、シイタケの菌打ちを行った際には「たねごまをしっかりと打ち込むのが難しい」などの声があったものの、キノコの自然界での役割や食べることで期待できる健康効果を学んでいた。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市
------	--------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
3	森とふれあいの場拠点づくり事業				
事 業 費	6,733,100 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,733,100		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

直営での実施が困難であり、専門的な知識と技術を有する者への委託が最適であると判断したため。

【契約方法と落札率または補助率等】

1 者見積りによる随意契約

【契約相手方の選定理由】

当事業で行う森林公園の下刈りと苗木の植栽は、公園管理としてではなく森林整備として実施するものであるため、類似業務の実績が豊富であり、専門的な知識と技術を有する森林組合に委託するのが適当であると判断したため。

【事業費の積算根拠】

森林整備に関連した単価表をもとにして適正な設計を行っている。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

獣害圧が高い当地域にとって、身近と言えども快適な利用が難しい立地条件にある森林公園を快適な利用環境におくことは、身近な森と緑の環境づくりにとって意義の高いものであり、公益性が高い。

【公的関与の必要性】

森林公園の管理者である市が行うのが適当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林公園の管理者である熊野市が適正に管理していく。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
 ○パネル展示（展示場所：市文化交流センター） ・看板設置（設置場所： ）
 ・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

全市民を対象として実施した。

【情報発信の内容】

これまでみえ森と緑の県民税がどのような事業に使われているか、事業内容及び結果について周知を行った。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

特になし

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり
------	--------------------

市町名	熊野市
-----	-----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7. 写真

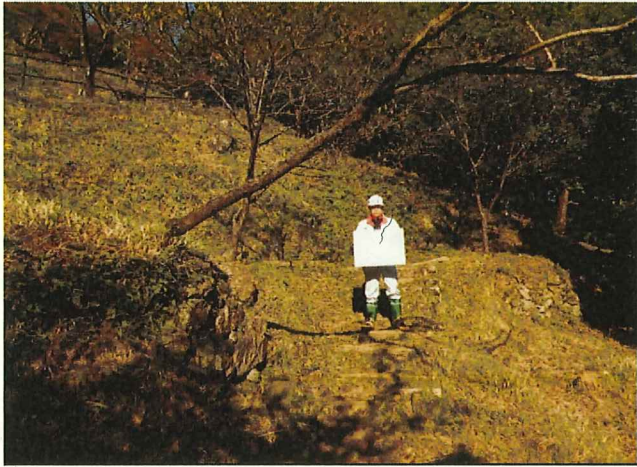


写真1
鬼ヶ城園地

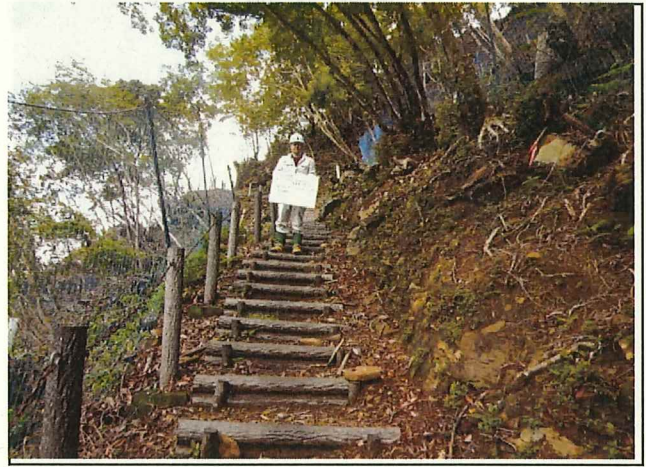


写真2
小鳥の囀る森公園



写真3
田平子公園



写真4
夕陽の丘公園



写真5
湯ノ口公園

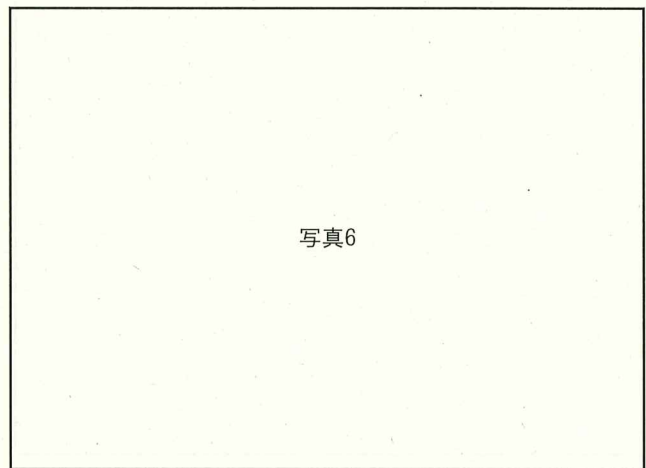


写真6

7. 写真



写真7
クマノザクラ植栽

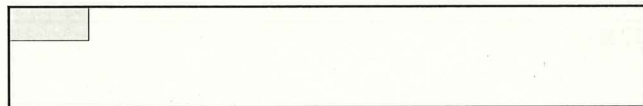
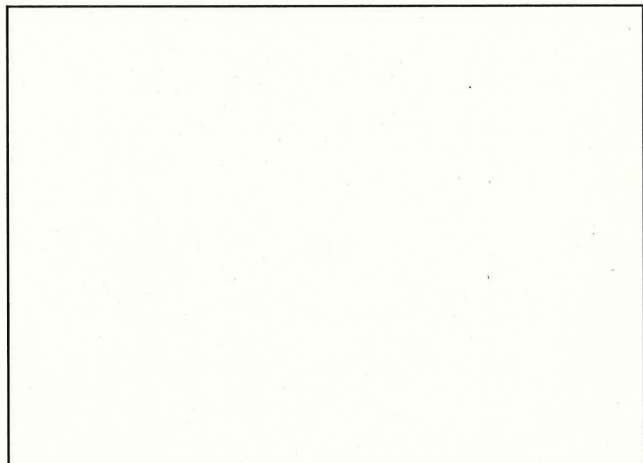
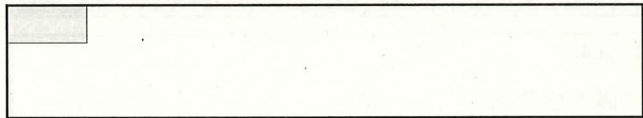
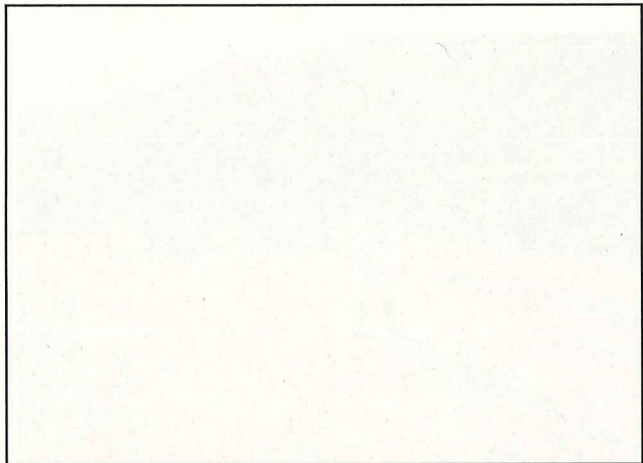
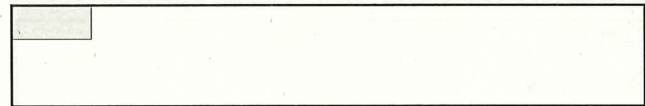
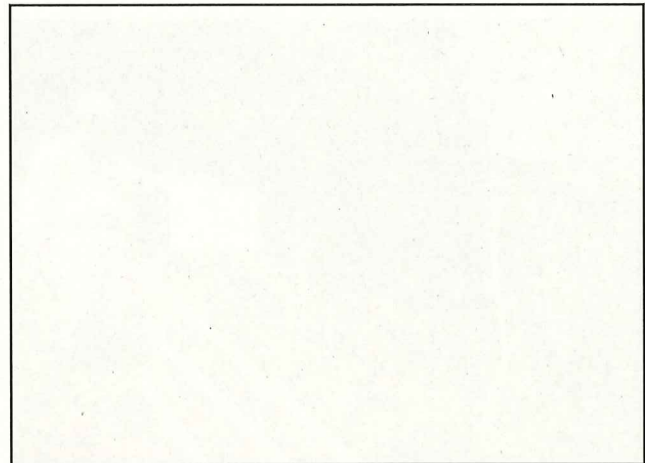
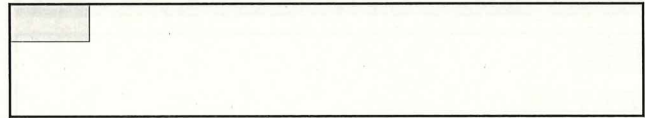
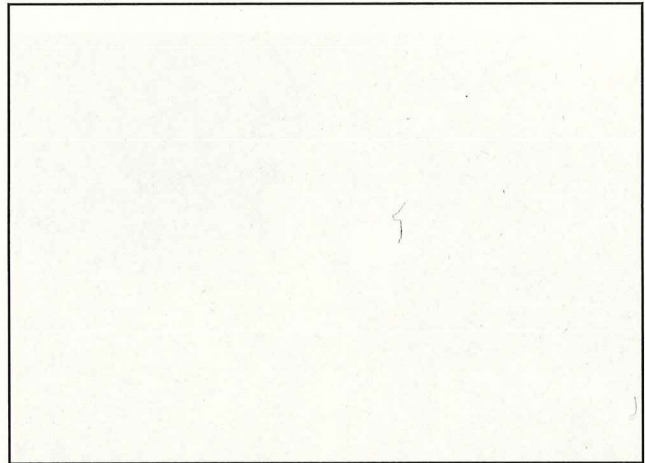


写真8
シイタケ菌打ち



対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり
------	--------------------

市町名	熊野市
-----	-----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
公園整備				3,393,500	
クマノザクラ植栽				3,458,400	
事業費				6,851,900	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
公園整備	下刈り	ha	13.05	168,951	2,204,000	
	歩道草刈り	ha	0.27	257,709	69,000	
	諸経費				812,000	
	消費税				308,500	
	計				3,393,500	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
クマノザクラ植栽	支障木伐採	ha	0.13	760,000	760,000	
	植栽	ha	0.13	1,469,000	1,469,000	200本
	諸経費				915,000	
	消費税				314,400	
	計				3,458,400	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
4	森林病虫害等防除実施事業				
事 業 費	1,611,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,611,000		

1. 事業の目的

防風・防潮・飛砂の防止など暮らしを守っている高度公益機能森林と地区保全森林に指定されている松林等において、松くい虫の蔓延等を防止するため、防除を実施する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

松くい虫の被害を防止するため、薬剤の樹幹注入を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

熊野市（委託先：三重くまの森林組合）

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

高度公益機能森林：1.8ha、地区保全森林：0.5ha

【事業量】

病木177本

【事業実施期間】

令和元年5月20日～令和2年3月27日

【受益者、参加者、利用者数等】

付近の地域住民2,062世帯3,955人

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

地域森林計画で指定された高度公益機能森林及び地区保全森林であるため

【事業実施により得られた効果】

松林が有する防風・防潮・飛砂防止などの森林機能の発揮が維持され、地域住民の快適な暮らしを守ることができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

防風・防潮・飛砂の防止などの森林機能が今後も発揮されていく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

事業箇所外の七里御浜海岸内に立ち枯れした松が存在していることから、当事業の成果を維持していくためには、海岸の管理者である三重県にも市と連携した防除施策をお願いしたいとの声が受託者等から寄せられている。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
4	森林病虫害等防除実施事業				
事 業 費	1,611,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,611,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

薬剤確保など直営での実施が困難であり、専門的な知識と技術を有する者への委託が最適であると判断したため。

【契約方法と落札率または補助率等】

1 者見積りによる随意契約

【契約相手方の選定理由】

当事業で行う薬剤の樹幹注入には専門的な知識と技術が必要であるため、類似業務の実績が豊富な森林組合に委託するのが適当であると判断したため。

【事業費の積算根拠】

関連業務の単価表をもとにして適正な設計を行っている。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

対象森林は集落に近く、地域住民の日常生活に多大な影響を与えるものであるとともに、国道42号に接していることから森林が機能不全に陥ると市内外・県内外の交通・物流に甚大な被害をもたらす危険性がある。

【公的関与の必要性】

複数の森林所有者が存在しているため、森林所有者の自主的な防除の実現可能性が極めて低く、早急に防除を実施する必要があることから市が行うのが適当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者が通常の責務を果たしていくことにより、森林の適正な維持が保たれる。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ・ 広報誌掲載 ・ 新聞掲載 ・ テレビ（行政チャンネル）放映
 ・ チラシ配布（配布対象者： ） ・ ポスター掲示（掲示場所： ）
 ○パネル展示（展示場所：市文化交流センター） ・ 看板設置（設置場所： ）
 ・ その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

全市民を対象として実施した。

【情報発信の内容】

これまでみえ森と緑の県民税がどのような事業に使われているか、事業内容及び結果について周知を行った。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

特になし

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	熊野市
-----	-----

事業名	森林病虫害等防除実施事業
-----	--------------

7. 写真



写真1
高度公益機能森林

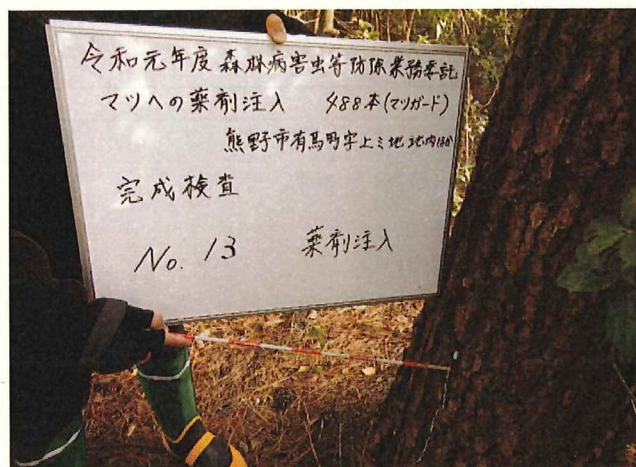


写真2
薬剤樹幹注入後



写真3



写真4



写真5

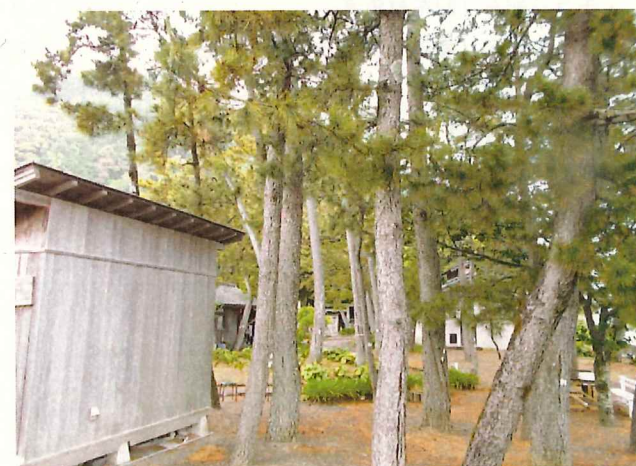


写真6

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

熊野市

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(円)	内、譲与税
1	① 意向調査の準備作業	826	826
2	②⑩ 基金積立（執行残額等）	39,911	39,911
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	40,737	40,737

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

御浜町

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

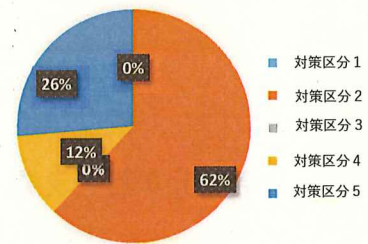
市町名	御浜町	三重県
人口（人）	8,200	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	11.0%	12.4%
森林面積(ha)	5,691.76	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	5,598.49	348,833.49
森林率(%)	65.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	20.4	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）						内当年度 交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	5	森林公園等環境整備事業	1,122,000	1,122,000					1,122,000	1,122,000
2	2	危険木等除去事業	2,640,000	2,640,000		2,640,000				2,640,000
3	4	学校施設木質化事業	495,000	495,000				495,000		495,000
4		基金積立事業	3,153,000	0						3,153,000
5				0						0
6				0						0
7				0						0
計			7,410,000	4,257,000	0	2,640,000	0	495,000	1,122,000	7,410,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	森林環境譲与税を財源とした森林施策とのすみ分けを行いながら、町の主要な森林施策を展開していくための財源としてみえ森と緑の県民税を活用していく。
事業実施により得られた効果	町が公益性の判断で実施する事業には特定機能の維持を図るもののほか、施設の利用者など多くの人々に効果を及ぼすものが多く、県民税事業によって町民だけではなく、町への来訪者も直接的な恩恵を受けている。
情報発信への取組	事業実施の際にはのぼりや看板によって県民税のPRを行っているが、事業箇所が点在しており、利用者の目にふれる機会が少ないことから、役場において例年パネル展示を行っている。また、各種イベントや行事を通じて県民税のPRを行っている。

第7号様式（その2）

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町
------	--------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	森林公園等環境整備事業				
事 業 費	1,122,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,122,000		

1. 事業の目的

健康づくりの一環として山歩きや森林浴など、森林とのふれあいにより健康づくりを行おうとする機運が高まってきている。御浜町には遊歩道を有する小高い山とそれに隣接する公園があり、住民が緑にふれられる場として親しまれている。登山道及び公園を整備することで、住民が森林や緑とふれあう環境をより身近なものにする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

浅間山登山道及び寺谷公園等森林公園の整備

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

御浜町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

2箇所（浅間山、寺谷公園）

【事業量】

浅間山、寺谷公園（歩道整備6km・0.90ha、下刈り2.94ha）

【事業実施期間】

平成31年4月～令和2年3月

【受益者、参加者、利用者数等】

施設年間利用者9,000人

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

町内の公共施設の中でも町民だけでなく、町外からの利用者も多い施設であるため、優先的に事業を行った。

【事業実施により得られた効果】

公園を整備することで、利用者がより快適に森林と触れ合うことができるようになった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

町管理地であり、町で維持管理する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

利用者の方から、「きれいになり気持ちよく施設が利用できる。」「景観が良くなり居心地が良くなった。」等の声をいただいている。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町
------	--------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	森林公園等環境整備事業				
事 業 費	1,122,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,122,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】					
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による事業委託 【実施方法の選定理由】 町管理施設であるため。 【契約方法と落札率または補助率等】 委託 請負 【契約相手方の選定理由】 町の規程（地方自治法施行令第167条の2第1項第2号）に基づき、随意契約とした。 随意契約にあたっては3社より見積りを徴取し、予算の範囲内で実施した。 【事業費の積算根拠】 森林環境創造事業標準単価					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【事業参加や整備施設等の公益性】 公共施設の整備であり、関係町民すべてが受益を得られる取組みであり、その公益性は極めて高いものである。 【公的関与の必要性】 町の施設であり、主たる利用者が町民であることから町で整備を行った。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 町管理施設のため、転用等が想定されず、該当しない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の手段（該当するものに○）】 ・HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ） ○パネル展示（展示場所：御浜町役場） ○看板設置（設置場所：事業実施個所） ・その他（方法： ） 【情報発信の対象】 看板等においては、関係近隣住民等に対し周知した。パネル展においては、全町民を対象に当事業による取り組みであることの周知をおこなった。 【情報発信の内容】 これまでの「みえ森と緑の県民税」がどのように使われてきたか、事業内容及び結果について周知を行った。					
7. 写真					
別紙のとおり					
8. その他特記事項					
特になし					

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 御浜町

事業名 森林公園等環境整備事業

7. 写真



写真1

事業実施後



写真2

事業実施後

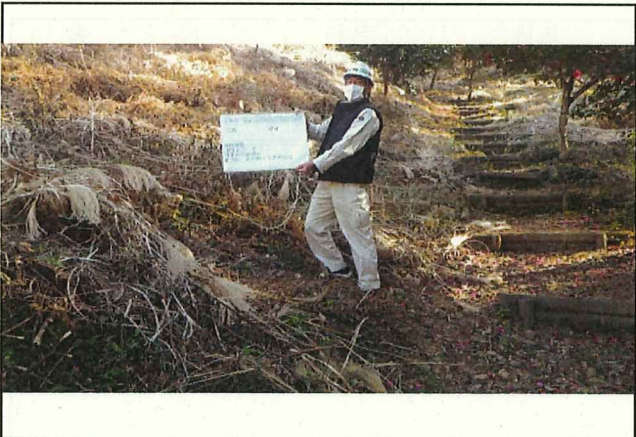


写真3

事業実施後

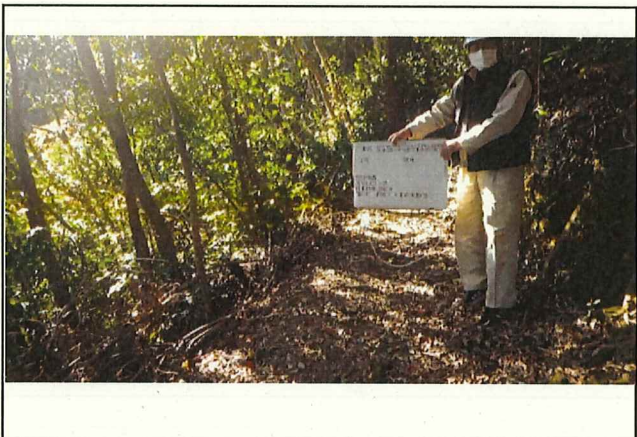
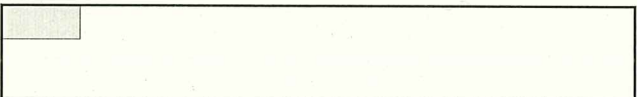
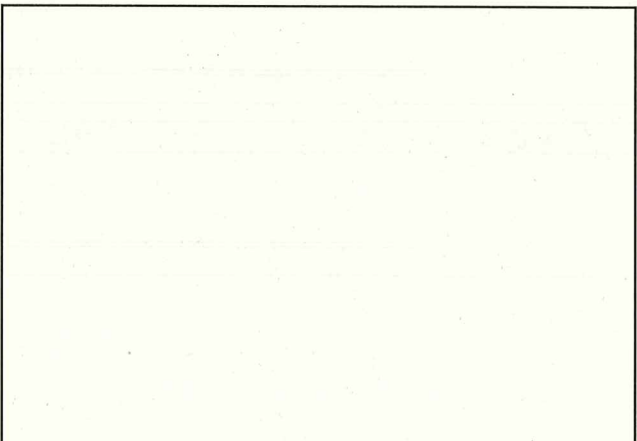
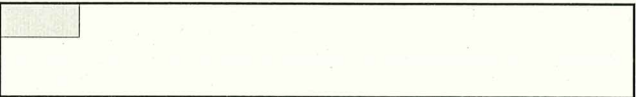
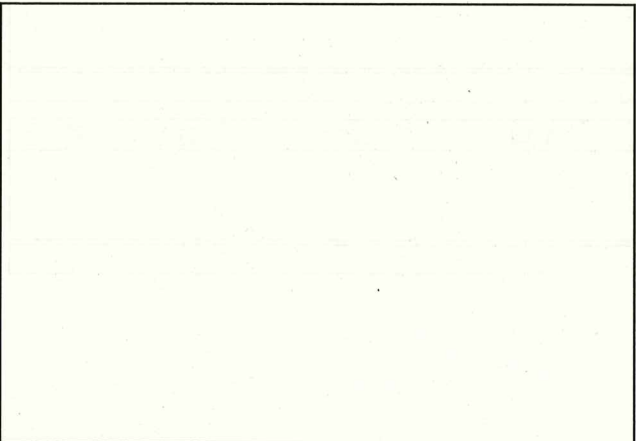


写真4

事業実施後



対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町			
事業名	森林公園等環境整備事業					
積算資料（実績報告参考資料）						
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
森林公園等環境整備事業	歩道整備	ha	0.90		1,122,000	
	下刈り	ha	2.94			
	計					
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	御浜町
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	危険木等除去事業				
事 業 費	2,640,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,640,000		

1. 事業の目的	住民の生活道の危険木を除去し、安心安全な町づくりを目指し生活環境の向上を図る。
2. 事業実績概要	【事業内容】 集落間を結んでいる生活道路である林道阪本神木線に係る危険木等の除去 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 御浜町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 1箇所（林道阪本神木線） 【事業量】 作業距離3,300m 【事業実施期間】 平成31年4月～令和2年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 周辺地区（阪本神木地区）住民数 約630名
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 町内の林道の中でも利用者が多く、居住地域に近いため、優先的に事業を行った。 【事業実施により得られた効果】 林道を整備することで、利用者が生活道路として安全に利用することができるようになった。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 林道管理者である町及び森林所有者において適切な管理を行う。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 利用者の方から、「倒木などもあり通るのが怖かったが、整備されたことで光もよく射し快適になった。」「道がすっきりとしたので、気持ちよく通ることができる。」等の声をいただいている。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	御浜町
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	危険木等除去事業				
事 業 費	2,640,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,640,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】					
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による事業委託 【実施方法の選定理由】 町管理施設であるため。 【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約 【契約相手方の選定理由】 町の規程（地方自治法施行令第167条の2第1項第2号）に基づき、随意契約とした。 随意契約にあたっては3社より見積りを徴取し、予算の範囲内で実施した。 【事業費の積算根拠】 見積りによる。					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【事業参加や整備施設等の公益性】 公共施設の整備であり、関係町民すべてが受益を得られる取組みであり、その公益性は極めて高いものである。 【公的関与の必要性】 町の管理する施設であり、主たる利用者が町民であることから町で整備を行った。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 事業内容が通行障害の原因となる恐れのある危険木の伐採や枝の除去であり、森林所有者に対する実施箇所の転用や目的外使用の規制の必要は該当しない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の手段（該当するものに○）】 ・HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ） ○パネル展示（展示場所：御浜町役場） ○看板設置（設置場所：事業実施箇所） ・その他（方法： ） 【情報発信の対象】 看板等においては、関係近隣住民等に対し周知した。パネル展においては、全町民を対象に当事業による取り組みであることの周知をおこなった。 【情報発信の内容】 これまでの「みえ森と緑の県民税」がどのように使われてきたか、事業内容及び結果について周知を行った。					
7. 写真					
別紙のとおり					
8. その他特記事項					
特になし					

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり
------	--------------------

市町名	御浜町
-----	-----

事業名	森林公園等環境整備事業
-----	-------------

7. 写真



写真1

事業実施後



写真2

事業実施後



写真3

事業実施後



写真4

事業実施後

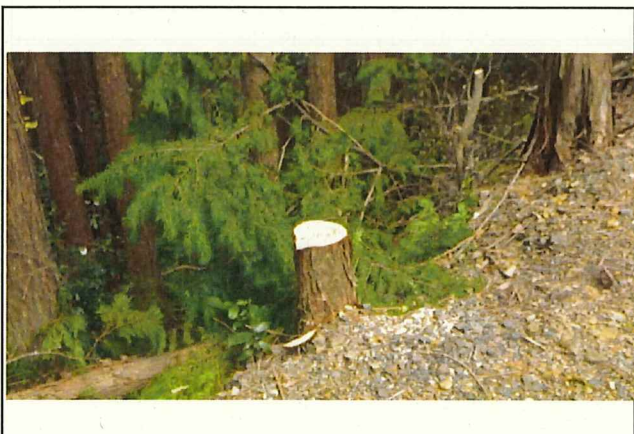


写真5

事業実施後

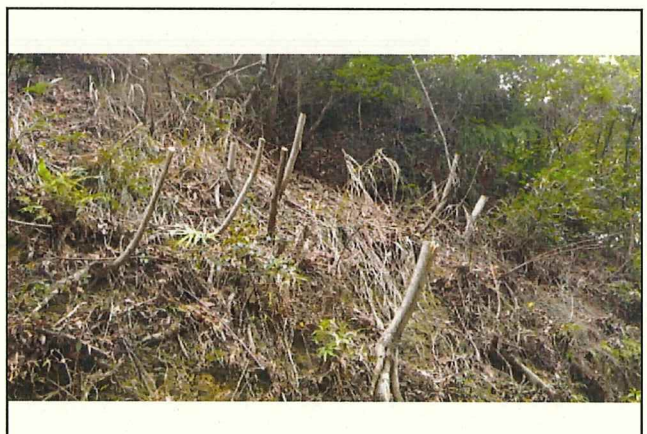


写真6

事業実施後

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	御浜町
-----	-----

事業名	危険木等除去事業
-----	----------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木等除去事業					2,640,000	
	計				2,640,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木等除去	作業距離	m	3300.00		2,640,000	
					2,640,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり			市町名	御浜町
番 号	事 業 名				
3	学校施設木質化事業				
事 業 費	495,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			495,000		

1. 事業の目的

平成25年8月、御浜町公共建築物等木材利用方針を定め、町が整備する公共建築物においては率先して木材を利用することとしており、木づかいを通じて森林を支えるため、御浜町立の学校施設における、木材製品の導入や施設の木質化などを通じて、木材利用を促進し、木材と町民との関係を深める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

学校施設への木製備品（イス）の導入

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】

御浜町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

2箇所（御浜町立御浜中学校、尾呂志学園中学校）

【事業量】

技術室用木製イス45脚導入

【事業実施期間】

平成31年4月～令和2年3月

【受益者、参加者、利用者数等】

御浜町立御浜中学校生徒125名、尾呂志学園中学校生徒10名

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

町内の小、中学校に事業実施を働きかけ、要望があった学校で実施した。

【事業実施により得られた効果】

学校施設に木製備品（イス）を導入することで、日常的に木に触れ、森林や緑の大切さ、地球温暖化問題等への理解を深めるきっかけとなる。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

技術家庭の時間に木の大切さ、森林の働き等を伝え、地域の森林の重要性について理解していただく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

児童・生徒や教職員から「児童がよく触れるものなので、木の暖かさを感じられるのはとても良い。」「木材にふれあう機会が増えて嬉しい。」などの声をいただいた。

29-11

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	御浜町
------	-------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
3	学校施設木質化事業				
事 業 費	495,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			495,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】					
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による工事委託 【実施方法の選定理由】 町有施設であるため。 【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札 【契約相手方の選定理由】 指名競争入札による落札者と契約を締結した。 【事業費の積算根拠】 複数からの見積もりによる。					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【事業参加や整備施設等の公益性】 公共施設の整備であり、町内の生徒がすべて受益を得られるため、その公益性は高い。 【公的関与の必要性】 町の施設であり、主たる利用者が町民であることから町で整備を行った。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 町有施設のため、転用等が想定されず、該当しない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】					
【媒体（該当するものに○）】 ・HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映 ・チラシ配布（配布対象者： ） ○ポスター掲示（掲示場所：事業実施箇所 ） ○パネル展示（展示場所：御浜町役場 ） ・看板設置（設置場所： ） 【情報発信の対象】 パネル展を役場内で行い、交付金活用の周知をおこなった。 【情報発信の内容】 これまでの「みえ森と緑の県民税」がどのように使われてきたか、事業内容及び結果について周知を行った。					
7. 写真					
別紙のとおり					
8. その他特記事項					
特になし					

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 御浜町

事業名 学校施設木質化事業

7. 写真



写真1

御浜中学校



写真2

御浜中学校



写真3

御浜中学校

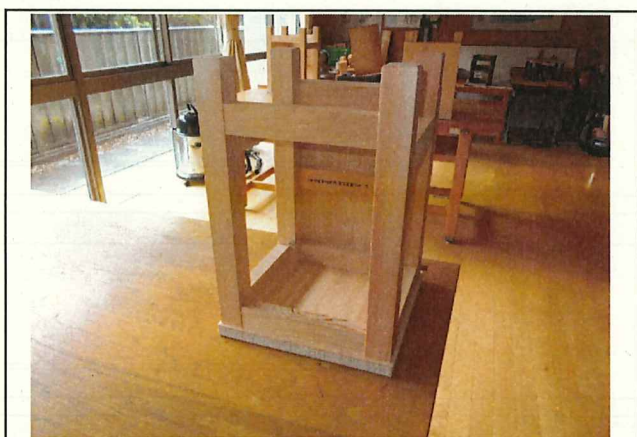


写真4

尾呂志学園



写真5

尾呂志学園

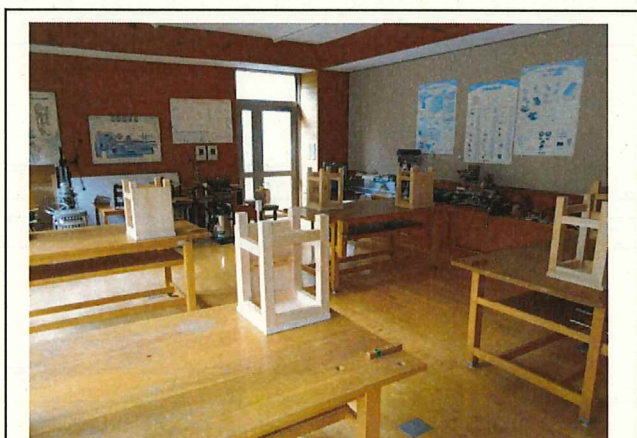


写真6

尾呂志学園

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	御浜町
-----	-----

事業名	学校施設木質化事業
-----	-----------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
木製イス	脚	45.00	11,000	495,000	
事業費					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

御浜町

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	⑰ 基金積立（森林整備等）	4,893	4,893
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	4,893	4,893

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

紀宝町

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

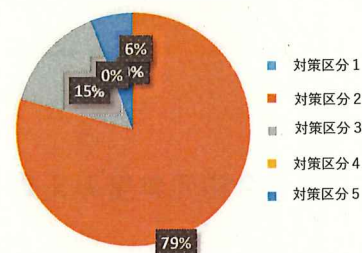
市町名	紀宝町	三重県
人口（人）	10,588	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	11.8%	12.4%
森林面積(ha)	6,073.00	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	6,027.34	348,833.49
森林率(%)	76.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	7.6	10.1

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）						内当年度 交付金額
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	
1	3	森と緑の環境教育事業	1,000,000	1,000,000			1,000,000			1,000,000
2	2	生活環境林整備事業	5,309,783	5,309,743		5,309,743				5,309,743
3	5	クマノザクラ整備事業	390,830	390,830					390,830	390,830
4		基金積立事業	1,012,427	0						1,012,427
5				0						0
6				0						0
7				0						0
計			7,713,040	6,700,573	0	5,309,743	1,000,000	0	390,830	7,713,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	18.28	8,640,500	8,640,000	山腹崩壊抑制のための森林整備
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	森林環境譲与税を財源とした森林施策とのすみ分けを行いながら、町の主要な森林施策を展開していくための財源としてみえ森と緑の県民税を活用していく。
事業実施により得られた効果	町が公益性の判断で実施する事業には特定機能の維持を図るもののほか、生活道路や施設の利用者など多くの人々に効果を及ぼすものが多く、県民税事業によって町民だけではなく、町への来訪者も直接的な恩恵を受けている。
情報発信への取組	事業実施の際にはのぼりや看板によって県民税のPRを行っているが、事業箇所が点在しており、利用者の目にふれる機会が少ないことから、役場において例年パネル展示を行っている。また、各種イベントや行事を通じて県民税のPRを行っている。

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町
------	-------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	森と緑の環境教育事業				
事 業 費	1,000,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000		

1. 事業の目的	
子どもから大人まで多くの町民の方々に、森や緑について学び、ふれあう機会を提供することにより、身近にある紀宝町の自然の魅力を再発見し、森や緑を守り育てることの大切さを、より一層理解していただくことを目的とする。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 森や緑について学び、ふれあう機会を提供することにより、紀宝町の自然の魅力を再発見し、森や緑を守り育てることの大切さを、より一層理解していただくことができるよう、竹工芸作家による竹かご編み教室、森とみどりのおはなし会 & ワークショップ、著名な写真家による森の写真展と講演会、造形作家による世界各地に伝わる木の文化についての映画上映会とワークショップ、江戸時代から伝わる日本人の自然観が学べる伝統の「もんきりあそび」のワークショップを開催した。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 紀宝町教育委員会 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 該当なし 【事業量】 講演会5、ワークショップ等計5回 【事業実施期間】 令和元年7月～令和2年2月 【受益者、参加者、利用者数等】 受益者：町民および参加者	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【実施箇所の選定理由】 例年行っている事業であり、参加者の評判も良く要望が高いため。 【事業実施により得られた効果】 それぞれの講演会やワークショップ、写真展に参加された多くの方々に大変好評で、森や緑を守り育てることの大切さを理解していただけたことがアンケート結果からも伺える。アンケートは回収率がかなり高く、アンケート結果もおおむね好意的なものが多い。竹の文化講演会と竹かご編みのワークショップについては、定員を上回る申込みがあり、参加者は皆、熱心に取り組んでいた。ECフィルム上映会&ワークショップや写真展、写真家の講演会についても、後日、多くの参加者から大変良い取り組みだったとの感想が多数寄せられた。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 施設整備等ではなく、該当しない 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 それぞれの講演会やワークショップ、写真展が大変好評であった。紀宝町の豊かな自然と森や緑の大切さについて、いろいろと教わることができたので、地域住民等による今後の更なる展開が期待できる。竹かご編みのワークショップについては、定員を上回る参加希望があり、来年度以降も引き続き継続しての開催を求める強い要望があった。	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町
------	-------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
1	森と緑の環境教育事業				
事 業 費	1,000,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

事業目的に最も適した講師を選定するために、様々なノウハウを持っていて先駆的に取り組んでいる事業者を活用する方が、事業実施に有益であるため。

【契約方法と落札率または補助率等】

委託（1者見積りによる随意契約）

【契約相手方の選定理由】

事業目的に最も適した講師を選定。過去実績があるなど、様々なノウハウを持っている事業者を活用した。

【事業費の積算根拠】

見積りをもとにして適正な扱いを行っている。別紙のとおり。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

興味のある人はだれでも参加でき、多くの県民が受益を得られる取組であり、その公益性は極めて高い。

【公的関与の必要性】

町民に森林の大切さを伝える貴重な機会であり、町（行政）が行うのが適当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映

○チラシ配布（配布対象者：全町民 ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）

○パネル展示（展示場所：紀宝町役場） ・看板設置（設置場所： ）

・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

全町民を対象として実施した。

【情報発信の内容】

これまでみえ森と緑の県民税がどのような事業に使われているか、事業内容及び結果について周知を行った。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

特になし

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	紀宝町
-----	-----

事業名	森と緑の環境教育事業
-----	------------

7. 写真



写真1

竹かご編み教室 上級編



写真2

ECフィルム上映会&ワークショップ



写真3

森とみどりのおはなし会&ワークショップ



写真4

森とみどりのおはなし会&ワークショップ



写真5

写真家大竹英洋さん講演会



写真6

写真家大竹英洋さんノースウッズ森の写真展

対策区分	3. 森を育む人づくり				市町名	紀宝町
------	-------------	--	--	--	-----	-----

事業名	森と緑の環境教育事業					
-----	------------	--	--	--	--	--

積算資料（実績報告参考資料）						
作業内容	単位	数量	単価	金額	備考	
講師委託料（講演会・ワークショップ）	式	1.00		1,000,000		
以下内訳						
竹かご編み教室 上級編				200,000	内訳	
竹かご編み教室 上級編				200,000	内訳	
E Cフィルム上映会&ワークショップ				150,000	内訳	
森とみどりのおはなし会&ワークショップ				100,000	内訳	
写真家大竹英洋さんノースウッズ森の写真展				350,000	内訳	
写真家大竹英洋さん講演会					内訳	
事業費				1,000,000		

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名			
2	生活環境林整備事業			
事 業 費	5,309,783 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			5,309,743	その他 40

1. 事業の目的	
公共施設の周辺や生活道路沿いの緑地の整備や危険木等の伐採または枝下ろしすることにより、災害時等の倒木を未然に防ぎ、生活環境の向上を図った。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 公共施設の周辺や生活道路沿いの緑地の整備や危険木等の伐採及び枝下ろしを行った。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 紀宝町 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 4 地区 8 箇所（浅里、井内、鶴殿、井田）公共施設・生活道周辺緑地 【事業量】 4 地区 8 箇所伐採本数約 5 0 0 本（支障木伐採 3 箇所、危険木伐採 4 箇所、緑地整備 1 箇所） 【事業実施期間】 令和元年 7 月～令和 2 年 3 月 【受益者、参加者、利用者数等】 4 地区（浅里、井内、鶴殿、井田）の住民	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【実施箇所の選定理由】 施設の周辺や生活道路沿いの緑地で、倒木等の恐れのある箇所や生活環境の向上の為、緑地整備が必要である箇所として、伐採・緑地整備箇所を選定。 【事業実施により得られた効果】 木の倒木等の未然防止・緑地整備による施設の利用向上が図れた。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 今後も森林所有者（町・個人）により適切に管理する。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 生活道路の通行環境が良くなり、災害時等の危険が軽減され、緑地整備により、景観も良くなった。	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町
------	-----------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
2	生活環境林整備事業				
事 業 費	5,309,783 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,309,743		40

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託 請負

【実施方法の選定理由】

事業実施主体が町であるため

【契約方法と落札率または補助率等】

委託 請負

【契約相手方の選定理由】

紀宝町内において、伐採・下刈り等森林整備の実績がある業者及び町建設業組合に加盟している業者。

【事業費の積算根拠】

別紙のとおり。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

公共施設（公園、道路）周辺の整備であり、関係町民すべてが受益を得られる取組みであり、その公益性は極めて高いものである。

【公的関与の必要性】

町有地の整備又は、個人所有の山林であるが、危険性が高く個人での対応が困難な場所の整備の為、町で整備を行った。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者による管理のもと、危険木等の伐採・緑地整備であり、皆伐等を考えていない為、転用制限等を考えていない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用し

【情報発信の手段（該当するものに○）】

- ・HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
☐ パネル展示（展示場所：紀宝町役場） ☐ 看板設置（設置場所：事業実施個所）
 ・その他（方法： ）

【情報発信の対象】

看板等においては、関係近隣住民等に対し周知した。パネル展においては、全町民を対象に当事業による取り組みであることの周知をおこなった。

【情報発信の内容】

これまでの「みえ森と緑の県民税」がどのように使われてきたか、事業内容及び結果について周知を行った。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

特になし

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	紀宝町
-----	-----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

7. 写真



写真1

矢渕中学校裏山危険木伐採(施行前)



写真2

矢渕中学校裏山危険木伐採(施行後)



写真3

自然公園周辺危険木伐採(施行前)



写真4

自然公園周辺危険木伐採(施行後)



写真5

自然公園内緑地整備(施行前)



写真6

自然公園内緑地整備(施行後)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町
------	-------------	-----	-----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
全体	支障木伐採	箇所	3.00	1,784,163	1,784,163	
	危険木伐採	箇所	4.00	3,183,520	3,183,520	
	緑地整備	箇所	1.00	342,100	342,100	
	計				5,309,783	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
支障木伐採	林道桐原浅里線	式	1.00	1,045,000	1,045,000	
	町道芝地線	式	1.00	23,123	23,123	
	鶴殿地区町有地	式	1.00	716,040	716,040	
					1,784,163	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐採	矢渕中学校裏山	式	1.00	1,841,400	1,841,400	
	自然公園周辺	式	1.00	814,000	814,000	
	井田狼谷	式	1.00	231,120	231,120	
	町道大里・井内線	式	1.00	297,000	297,000	
	計				3,183,520	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
緑地整備	自然公園内	式	1.00	342,100	342,100	
	計				342,100	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
	計					

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	紀宝町
------	--------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
3	クマノザクラ整備事業				
事 業 費	390,830 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			390,830		

1. 事業の目的	野生種の桜として、2018年に約100年ぶりの新種発見と発表された紀伊半島南部の「クマノザクラ」を、新種と確認した森林総合研究所多摩森林科学園の勝木俊雄氏や三重県樹木医の中村昌幸氏と連携し、地元における整備の取組みを行った。
2. 事業実績概要	【事業内容】 森林総合研究所多摩森林科学園の勝木俊雄氏と三重県樹木医の中村昌幸氏の研究により生成された、クマノザクラの苗木を地元のNPO法人「熊野さくらの会」等と連携し、町内への植樹及び調査等を行った。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 紀宝町及びNPO法人熊野さくらの会 【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。 【箇所数】 田代公園、NPO法人熊野さくらの会保有林 【事業量】 クマノザクラ苗木150本及び整備資材一式 【事業実施期間】 令和2年2月～令和2年3月 【受益者、参加者、利用者数等】 地域住民、NPO法人熊野さくらの会 植樹祭参加者（約100名）
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	【実施箇所の選定理由】 例年行っている場所であり、効率的かつ事業の趣旨からも最適な場所であったと認められたため。 【事業実施により得られた効果】 クマノザクラそのものに対する理解や関心が高まるとともに、植樹による公園の価値向上、森林に対する理解を深めることができた。 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 クマノザクラについての普及啓発、今後の研究箇所として活用。 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 今後のクマノザクラの成長に期待を寄せる声が多く集まった。自生しているクマノザクラの調査へ関心を寄せる声も上がった。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	紀宝町
------	--------------------	-----	-----

番 号	事 業 名				
3	クマノザクラ整備事業				
事 業 費	390,830 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			390,830		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

苗木購入後、直営植樹

【実施方法の選定理由】

公共施設周辺については、役場職員等関係者にて植樹を行い、NPO法人所有の保有林へは、植樹祭時参加者が植樹した。

【契約方法と落札率または補助率等】

【契約相手方の選定理由】

森林総合研究所多摩森林科学園の勝木俊雄氏と三重県樹木医の中村昌幸氏により、生成された「クマノザクラ」の苗木を直接購入した。

【事業費の積算根拠】

別紙のとおり

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

植樹祭には、誰でも参加することができる。植栽後のクマノザクラの育成状況等確認については、一部の危険区域等を除き、誰もが可能であることから公益性が高い。

【公的関与の必要性】

貴重な品種の植物であることから、行政機関、研究機関等の助言等周知は、必須である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町及びNPO法人熊野さくらの会による管理のもと、転用や目的外使用は想定されていない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

- ・HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
 ○チラシ配布（配布対象者：整備近隣町民他 ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
 ○パネル展示（展示場所：紀宝町役場） ・看板設置（設置場所： ）
 ・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

全町民を対象として実施した。

【情報発信の内容】

植樹祭に対しては、近隣住民を中心に関係機関に周知。パネル展については、全住民を対象にPRを行った。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

特になし

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 紀宝町

事業名 クマノザクラ整備事業

7. 写真



写真1

NP0法人熊野さくらの会 植樹祭



写真2

クマノザクラ苗木



写真3

クマノザクラ植樹



写真4

獣害対策資材の設置



写真5

田代公園 クマノザクラ植樹（勝木博士 研究用苗木）



写真6

田代公園 クマノザクラ植樹（勝木博士 研究用苗木）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	紀宝町
------	--------------------	-----	-----

事業名	クマノザクラ整備事業
-----	------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
クマノザクラ苗木	本	150	2,200	330,000	
整備資材	一式		60,830	60,830	
				390,830	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

紀宝町

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	② 意向調査	944	944
2	⑰ 基金積立（森林整備等）	6,988	6,988
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	7,932	7,932

みえ森と緑の県民税制度運営事業

令和2年5月末現在

1. 事業の目的

この事業は、みえ森と緑の県民税の制度が円滑に運営されるよう、県民への周知や評価委員会の設置・運営等を行うものです。

2. 令和元年度の進捗状況

1) みえ森と緑の県民税評価委員会の運営

令和元年7月に第1回評価委員会を、8月に第2回評価委員会を開催し、令和元年8月29日付け森緑評第3号により平成30年度みえ森と緑の県民税基金事業の実施後の評価について、答申を受けました。

1-1) 委員の任命

現行の委員の任期は、平成30年10月1日から令和2年9月30日の2年間で、令和元年度中の委員の変更はありません。

委員氏名	所属団体等	分野
石川 知明	三重大学大学院生物資源学研究科 教授	学識経験者
大浦 由美	和歌山大学観光学部 教授	学識経験者
小林 慶太郎	四日市大学総合政策学部 教授	学識経験者
新海 洋子	一般社団法人 SDGs コミュニティ 代表理事	NPO 活動
林 拙郎	三重大学名誉教授	学識経験者
藤井 恭子	皇學館大学現代日本社会学部 准教授	学識経験者
松井 寿人	三重県中小企業団体中央会 事務局長	商工
矢田 真佐美	三重県地域婦人団体連絡協議会 副会長	消費者
山下 高弘	紀北町立三船中学校 教員	教育
吉田 正木	吉田本家山林部 代表	林業

(五十音順・敬称略) (令和2年5月末現在)

1-2) 評価委員会概要

【令和元年度第1回みえ森と緑の県民税評価委員会】

- 日時 令和元年7月12日(金) 10時00分から12時00分まで
- 場所 三重県農協会館 5階 大会議室
- 出席委員 8名(欠席2名)

- 4 議題 (1) 平成 30 年度みえ森と緑の県民税基金事業の実績について
- 5 会議の公開・非公開 公開
- 6 傍聴者 10 名

【 令和元年度第 2 回みえ森と緑の県民税評価委員会 】

- 1 日時 令和元年 8 月 29 日 (木) 15 時 00 分から 17 時 00 分
- 2 場所 三重県教育文化会館 5 階 大会議室
- 3 出席委員 9 名 (欠席 1 名)
- 4 議題 (1) 平成 30 年度みえ森と緑の県民税基金事業の評価について
- 5 会議の公開・非公開 公開
- 6 傍聴者 2 名

【 令和元年度第 3 回みえ森と緑の県民税評価委員会 】

- 1 日時 令和 2 年 2 月 19 日 (水) 10 時 00 分から 12 時 00 分
- 2 場所 三重県人権センター 1 階 多目的ホール
- 3 出席委員 8 名 (欠席 2 名)
- 4 議題 (1) 令和元年度みえ森と緑の県民税基金事業の進捗状況について
(2) みえ森と緑の県民税基金事業の実施後の評価方法について
(3) みえ森と緑の県民税基金事業の新たな取組について
- 5 会議の公開・非公開 公開
- 6 傍聴者 6 名

2) みえ森と緑の県民税の普及啓発

平成 30 年度事業の成果と令和元年度からの新しい制度を周知しました。

2-1) 紙面及び啓発物品による広報

平成 30 年度事業の成果や令和元年度からの新しい制度を掲載したリーフレット、手元に残る啓発物品(木製チャームやみえの森フォトコンテストの優秀作品を使用したクリアフォルダ)、事業の現場やイベント会場等で使用するのぼり旗を活用して制度を P R しました。



周知パネル展示の様子 及び 啓発物品 (令和元年度)

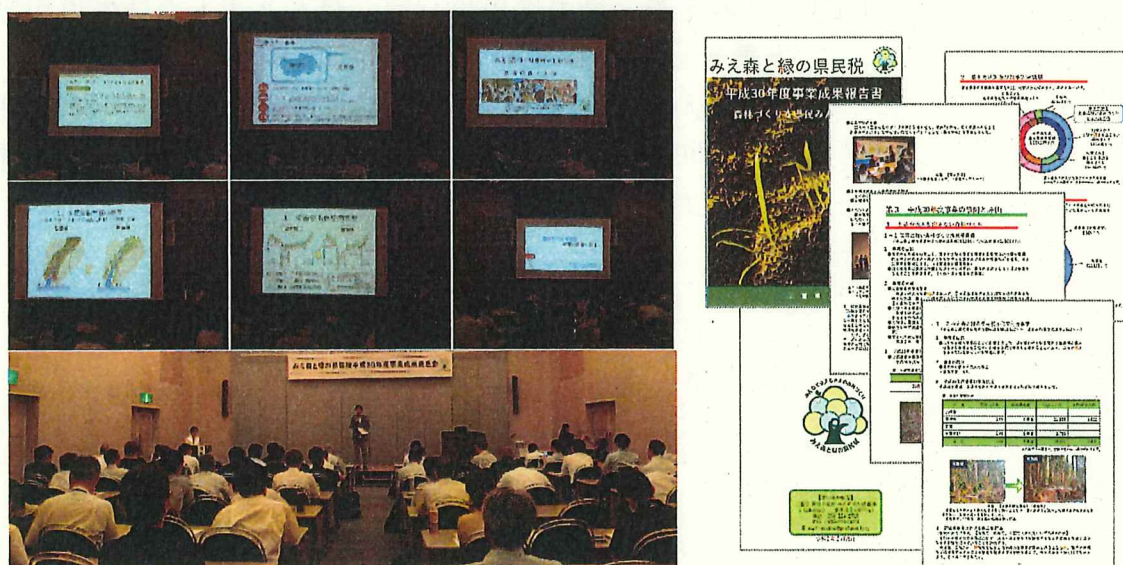
2-2) 事業成果の広報

【 みえ森と緑の県民税平成 30 年度事業成果報告会 】

事業実施担当者が、事業成果を直接県民に報告するとともに、市町間の情報共有を図り、市町交付金事業実施の一助とするため、事業成果報告会を開催しました。

【 みえ森と緑の県民税平成 30 年度事業成果報告書 】

平成 30 年度事業成果を総括し、詳細に報告するため、みえ森と緑の県民税平成 30 年度事業成果報告書を作成・配布しました。



成果報告会の様子 及び 成果報告書

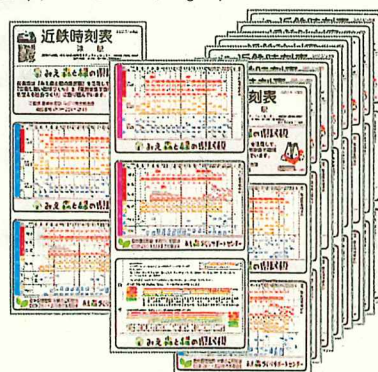
2-3) 様々な媒体を活用した広報

ラジオ・テレビ・映画館での宣伝(CM)や鉄道駅の携帯用時刻表での広告により、広くみえ森と緑の県民税の活用事例や成果を広報しました。

加えて、費用負担のない方法での広報機会の創出及び活用にも積極的に取り組み、制度の背景や関連取組等を含んだ税制度への理解を促しました。(県で初めてとなる県ラジオ広報枠での 3 週間のシリーズ企画・広報のほか、テレビ番組での税制度特集により広報を行いました。)



テレビ・映画館での宣伝(CM)



鉄道駅の携帯用時刻表での広告

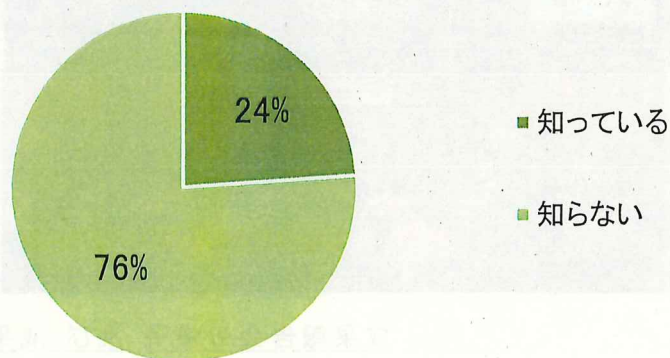
2-4) アンケート調査

e-モニター制度を活用し、みえ森と緑の県民税にかかるアンケート調査を実施しました。調査結果は、ホームページで公表しています。

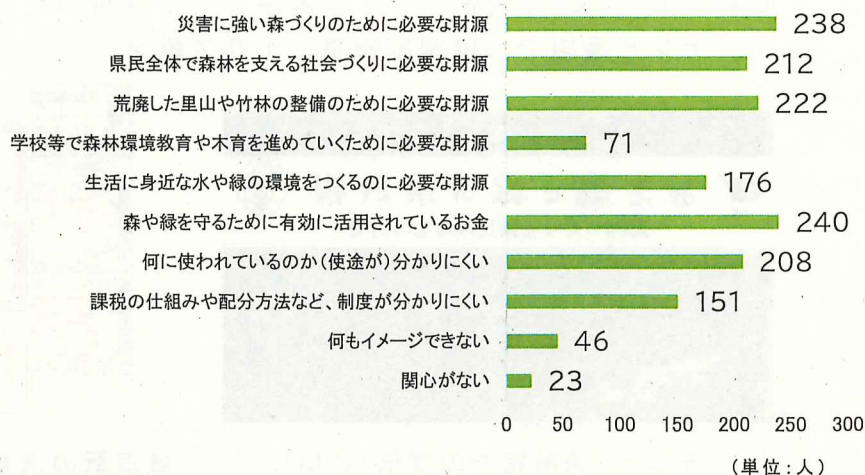
【 e-モニター制度を活用したみえ森と緑の県民税に関するアンケート 】

- 1 実施期間 令和元年9月26日から10月10日まで
- 2 回答率等 64% (回数者 690 人/対象者 1,071 人)
- 3 設問と回答

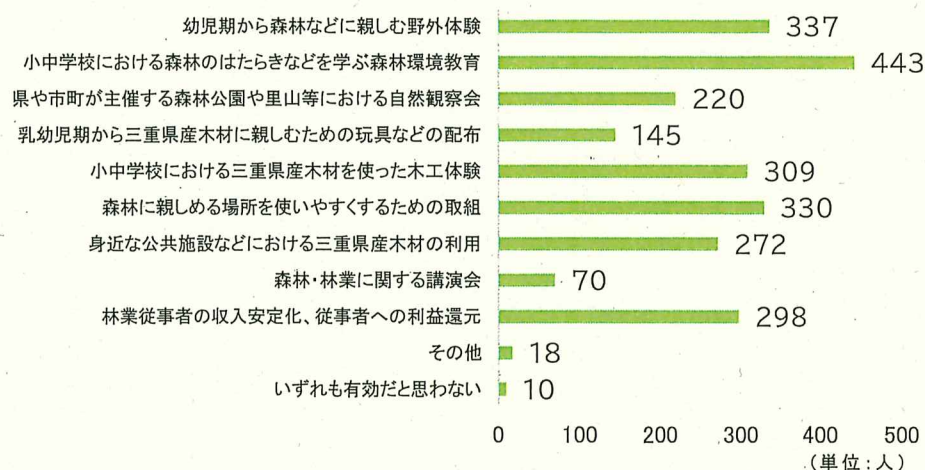
(1) 「みえ森と緑の県民税」は、個人と法人の県民税均等割に上乗せして納めていただいております。税額は、個人が年額1,000円、法人は資本金等に応じた県民税均等割の10%相当額(年額2,000円～80,000円)です。あなたは、「みえ森と緑の県民税」が課税されていることをご存じですか。



(2) 「みえ森と緑の県民税」に対してあなたが抱くイメージについて、あてはまるものをすべて選んでください。「みえ森と緑の県民税」を知らない方は、その言葉から受けるイメージについて選んでください。

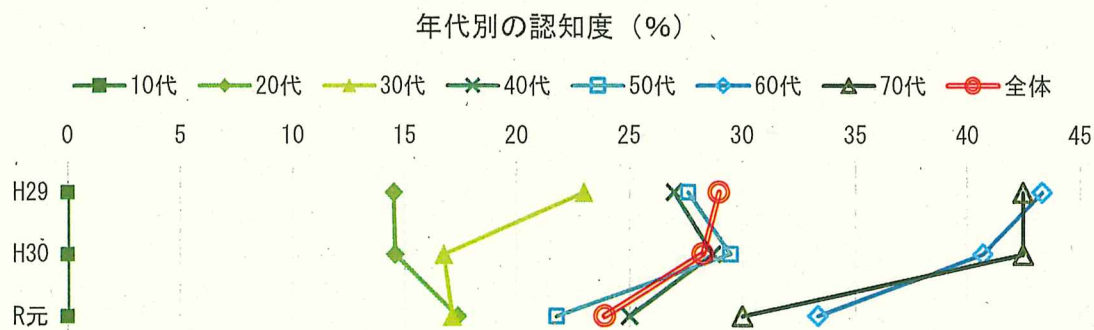


- (3) 林業などを通じて森林を適正に管理し、健全な森林を将来に残すためには、多くの方が森林と私たちの暮らしの関わりを理解し、森林保全に関わったり、木材を利用したりすることが大切です。あなたは、森林・林業についての理解を深めるために、どのような方法が有効だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。



【 みえ森と緑の県民税の認知度の推移 】

e-モニター制度によるアンケート結果について、直近三か年の認知度を年代別にまとめたところ、以下のとおりとなりました。



年代別の認知度 (%)								
年度	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	全体
H29	0	14.5	23.0	27.0	27.6	43.3	42.5	29.0
H30	0	14.6	16.8	28.7	29.5	40.7	42.5	28.3
R元	0	17.4	17.1	25.0	21.8	33.3	30.0	23.9

※1 税制度導入前の平成25年度に行った調査による認知度は26.4%

※2 令和元年度について、e-モニター制度とは別に実施した同様のアンケート結果を踏まえた認知度は25.9%

